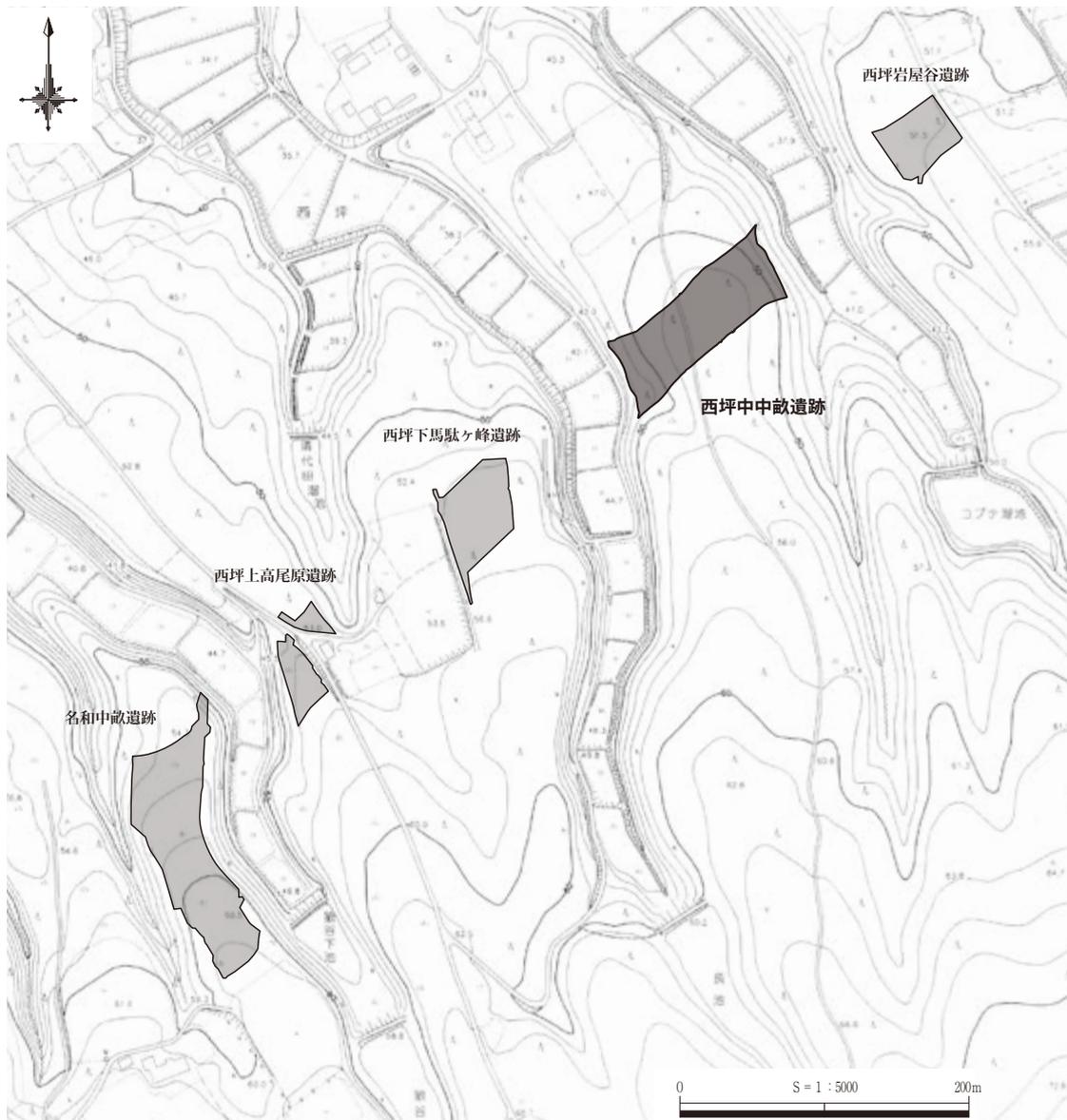


第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

1 遺跡の立地と環境（第5～10図、PL. 1～6）

西坪中中畝遺跡は、大山北麓から日本海に派生する丘陵上に所在する。これらの丘陵は、大山北麓が多数の中小河川による浸食を受け、放射状に開析されたことにより形成されたものである。調査地は丘陵を南西－北東方向に横切る帯状の範囲であり、細かい地形的な特徴から、北側へ向かって下る中央部の浅い谷(以下、谷部と呼称)と、これを挟む二つの尾根(以下、西尾根・東尾根と呼称)に調査地を分けることができる。二つの尾根は調査地南側でほぼ接しており、この周辺が谷部の谷頭に位置しているであろう。西尾根の西側、東尾根の東側は谷へ向かう斜面となっている(以下、西側斜面



第5図 調査地周辺地形図

第3章 調査の成果

部、東側斜面部と呼称)。

調査地の調査前の状況は山林で、西尾根を南北方向に林道が横切っていた。調査地の標高は46.0～50.5mである。南西方向へ約110mの隣の丘陵上には西坪下馬駄ヶ峰遺跡が、北東方向へ約110mの隣の丘陵上には西坪岩屋谷遺跡が位置する。

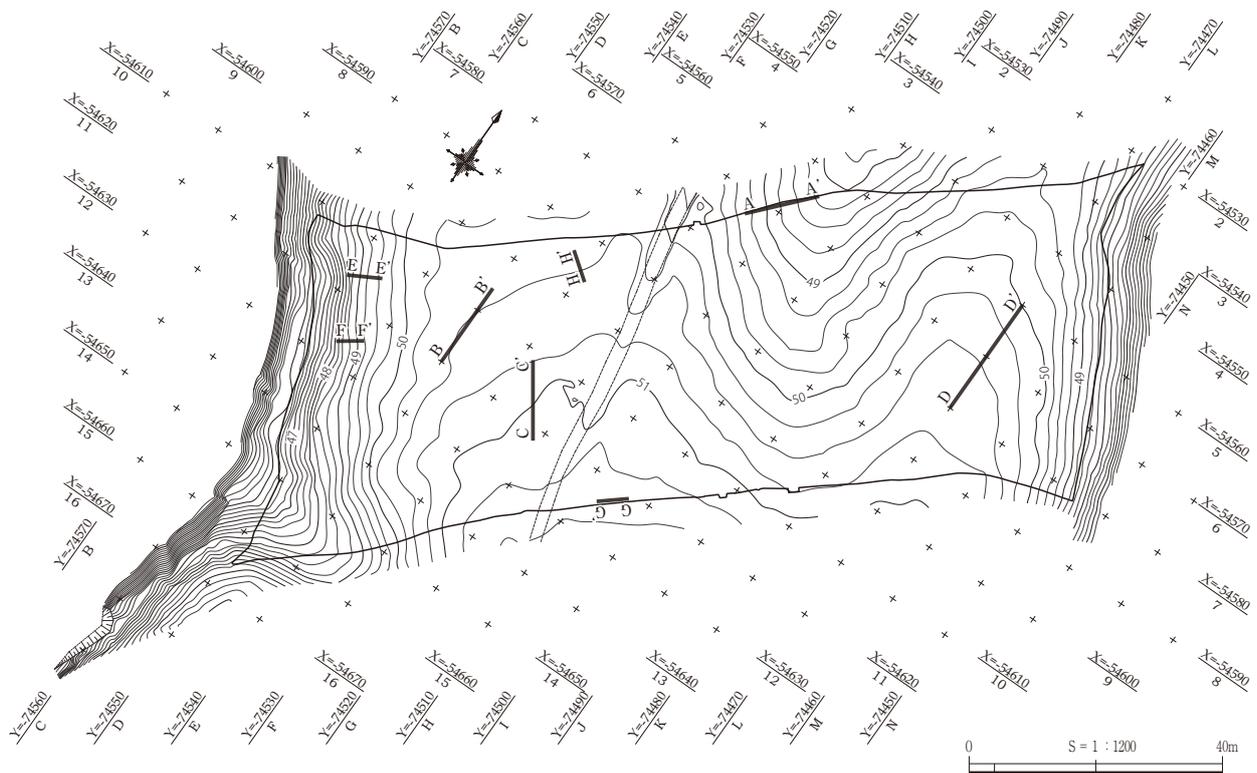
2 調査地内の土層堆積

土層堆積の確認については、調査地内に設定した土層観察用ベルト及び調査地壁面によって行った(第6・8・9図)。A-A'は調査地北西壁、G-G'は調査地南壁、B-B'～F-F'は土層観察用ベルトである。調査地内の土層堆積を大別して基本層序Ⅰ～Ⅳ層とし、断面位置ごとに観察記録を行った。

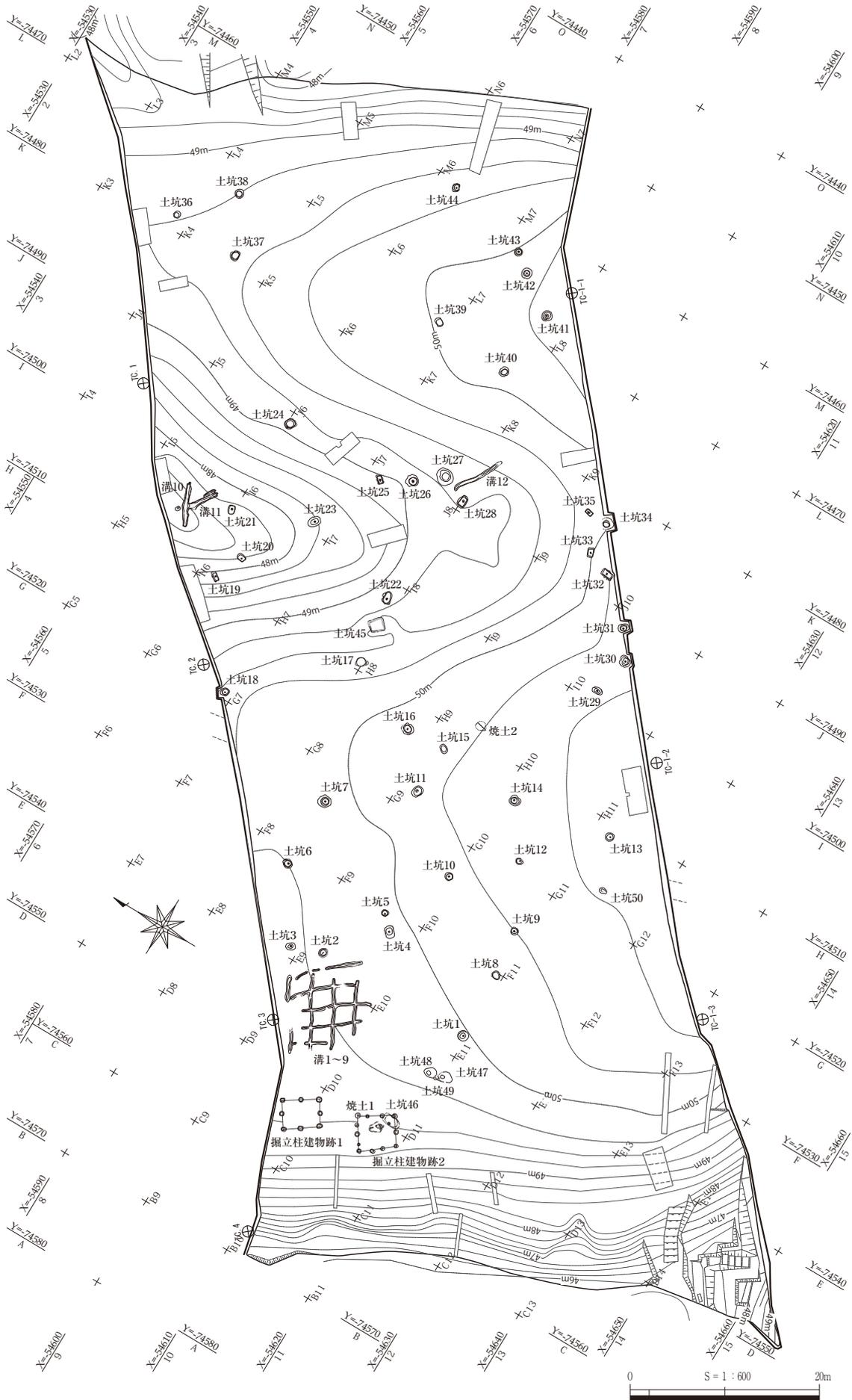
土層の堆積状況は、調査地内で概ね共通している。尾根部で薄く、谷部では厚く堆積しており、各土層が谷部へ流出していることがうかがえる。また、谷部にはⅢ層の上位に褐色系のローム土が部分的に認められ、いわゆるソフトローム層が形成されていた可能性がある。西尾根西斜面、東尾根東斜面では、基本層序は認められず、二次堆積した土層が薄く残存していた。谷部のⅣ層下面は、いわゆるホワイトローム層が認められる。

基本層序

- Ⅰ層：暗褐色土。調査地内のほぼ全域に広がっている。縄文時代から中世の遺物包含層。溝1～10の遺構検出面
- Ⅱ層：黄褐色土。一部確認できない範囲もあるが、調査地のほぼ全域に広がっている。奈良時代の

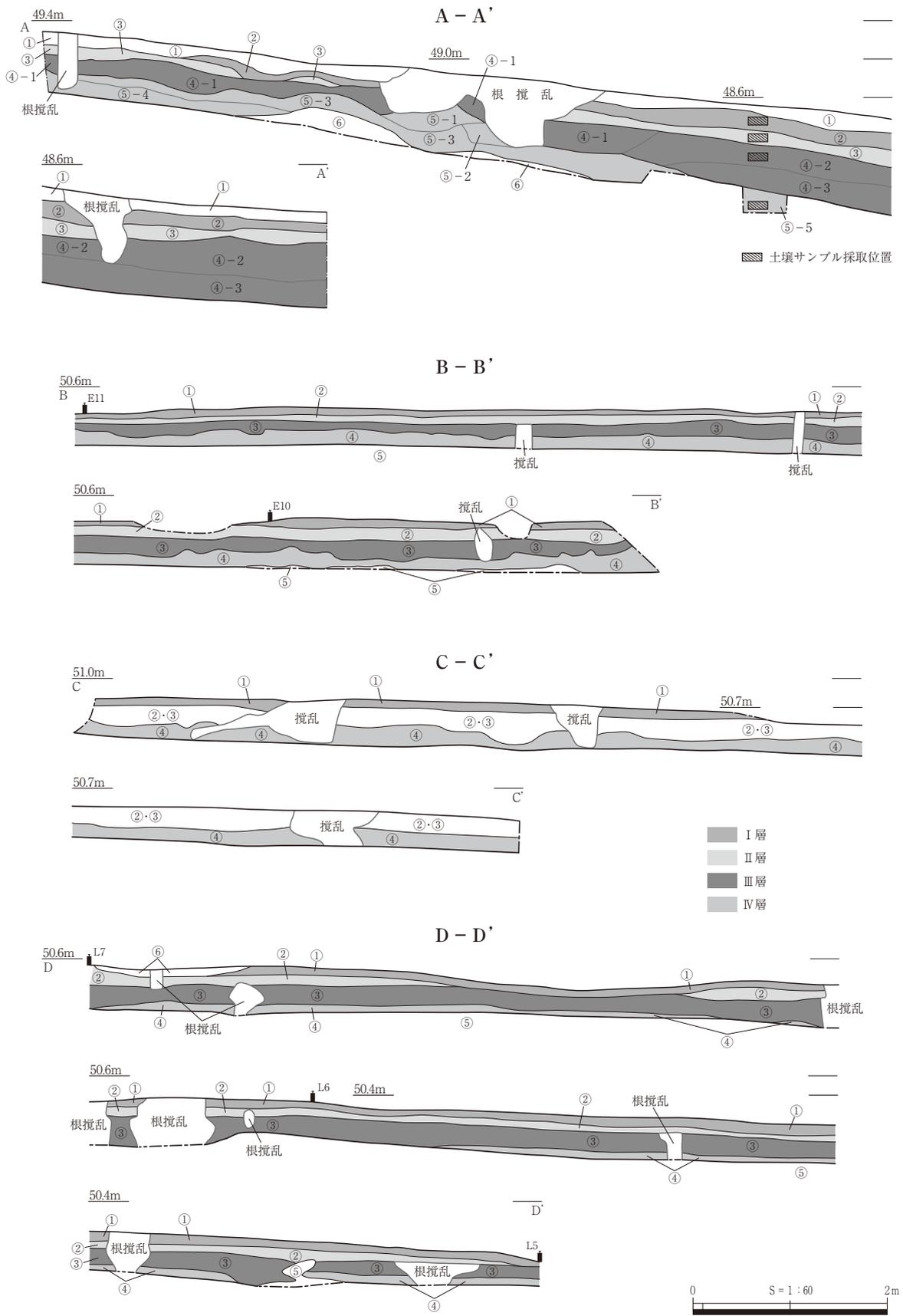


第6図 調査前地形測量図



第7図 遺構配置図

第3章 調査の成果



第8図 土層断面図(1)

A - A'

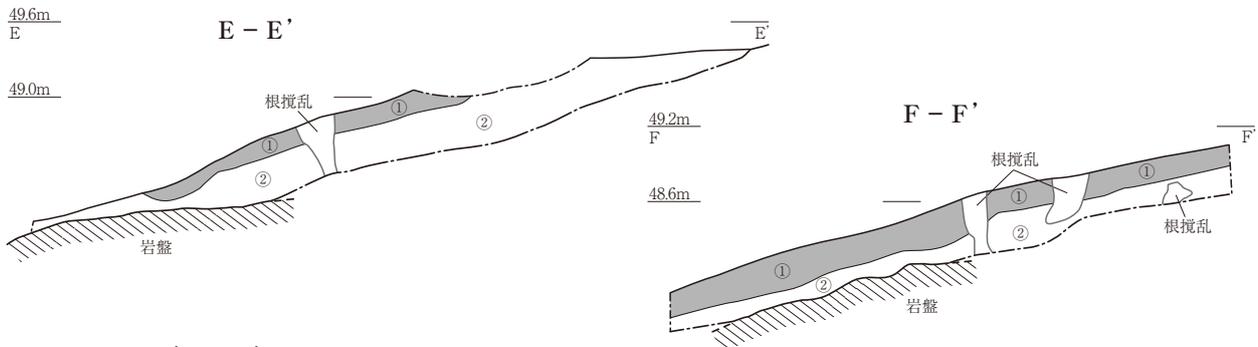
- ① 褐色土 (10YR4/4) ~ 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性弱い。しまり弱い。炭化物を含む。
- ② 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。
- ③ 褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりあり。
- ④-1 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。5~10mm程度の黄色粒及び黄色土含む。5mm程度の黒色粒を少量含む。二次堆積土と推定。
- ④-2 黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりあり。いわゆる黒ボク土。調査地内では谷部にのみ認められる。
- ④-3 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。谷底部に堆積。黒ボク土 (④-2) の脱色したもののか。
- ⑤-1 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。5~20mmの黄色ブロック (AT) を多く含む。
- ⑤-2 褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりややあり。10~40mmの黄色ブロック (AT) を非常に多く含む。
- ⑤-3 褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりやや弱い。10~20mmの黄色粒、黄色ブロック (AT) を多く含む。最大50mmの黄色ブロックを含む。
- ⑤-4 明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性弱い。しまりややあり。シャリシャリした感触。最大10cm程度のATブロックを含む。
- ⑤-5 明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性強い。しまり強い。ローム層。ATのローム化した層か。
- ⑥ 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性非常に強い。しまり非常に強い。

B - B'・C - C'

- ① 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黒色粒を含む。
- ② 褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。
- ③ 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。黄色土ブロックを微量に含む。
- ④ 黄褐色土 (10YR5/8) ATを主体として黒褐色土とホワイトロームが混じる。
- ⑤ 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性強い。しまりやや強い。ホワイトローム。

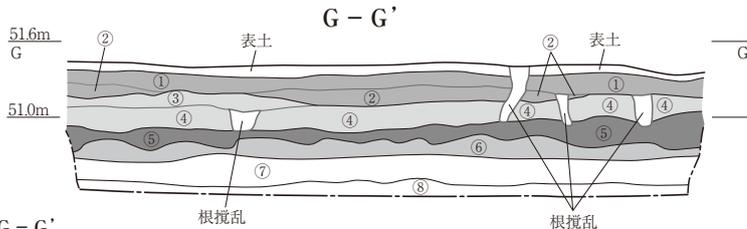
D - D'

- ① 褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の炭を微量に含む。
- ② 褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまりやや強い。暗褐色土が混ざる。径5mm以下の黒色粒や黄色土ブロックを微量に含む。
- ③ 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径1cmのATブロックやAT粒子を多く含む。
- ④ 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや弱い。しまりあり。ATを主体として③層・⑤層が若干混じる。
- ⑤ 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性強い。しまりやや強い。(ホワイトローム 相当)
- ⑥ 褐色土 (10YR4/4) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径1cm以下の炭・焼土を多く含む。



E - E'・F - F'

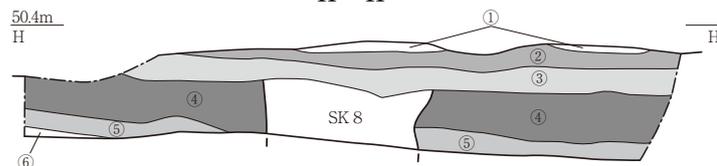
- ① 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性ややあり。しまりややあり。径1~10mmの黒色粒 (炭化物か) を含む。
- ② 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性あり。しまりあり。岩盤上の部分には0.5~5cmの礫を含む。



G - G'

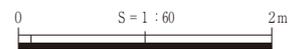
- ① 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ② 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ③ 褐色土 (7.5YR4/3) 粘性あり。しまり弱い。
- ④ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性あり。しまりやや弱い。暗褐色土が斑状に混じる。
- ⑤ 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりやや弱い。黒褐色土が斑状に混じる。AT粒を僅かに含む。
- ⑥ 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。ATブロックを多く含む。
- ⑦ にぶい黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまりやや強い。ホワイトローム
- ⑧ 褐色土 (10YR4/6) 粘性強い。しまり強い。ハードローム

H - H'



H - H'

- ① 褐色土 (10YR4/4) 粘性やや弱い。しまり強い。
- ② 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性ややあり。しまりややあり。径0.1~5mmの黒色粒 (炭化物か) を含む。
- ③ 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。
- ④ 褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりややあり。全体的に黄褐色土が混じり、色調不安定。径1mm以下の黒色粒 (炭化物か) を含む。
- ⑤ 明黄褐色土 (2.5YR6/8) 粘性なし。しまりややあり。
- ⑥ 灰白色土 (10YR8/2) 粘性強い。しまり強い。



第9図 土層断面図(2)

第3章 調査の成果

遺構検出面。遺物を含まない。

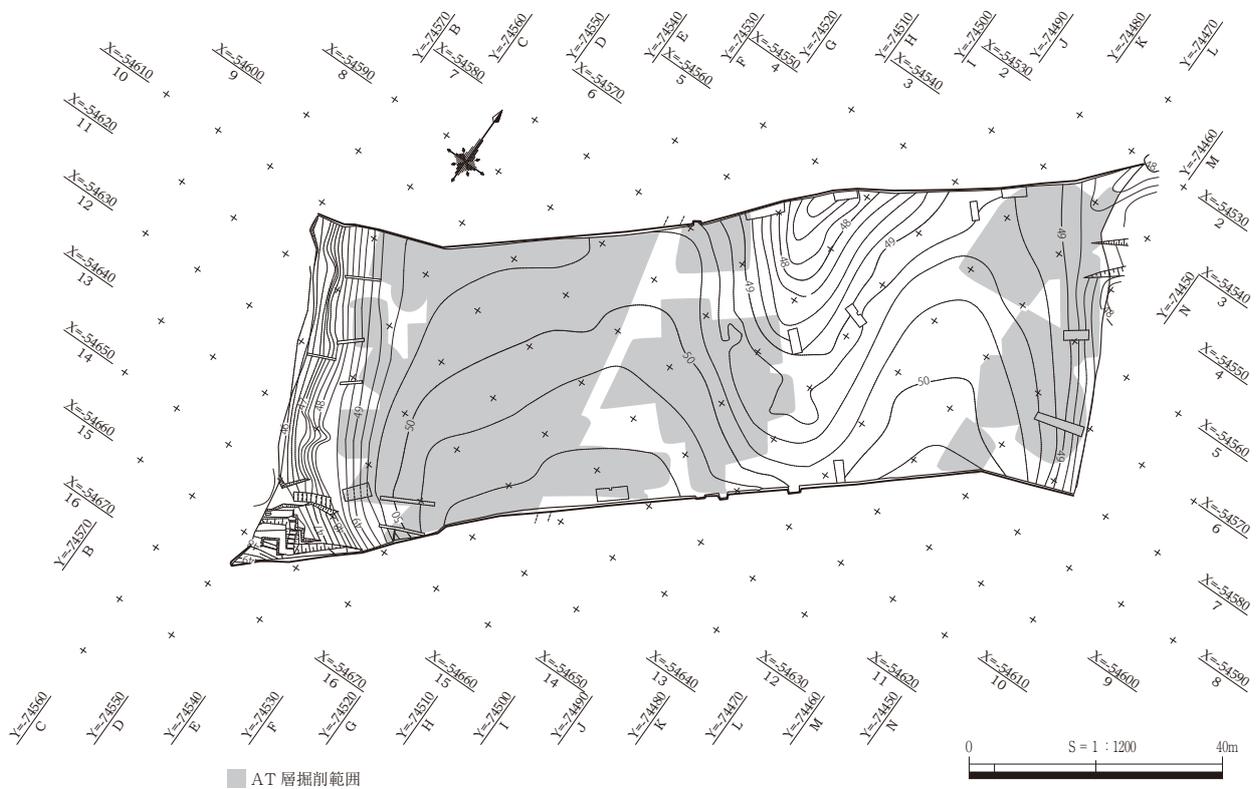
Ⅲ層：黒褐色土。いわゆる黒ボク土。尾根頂部では残存していない範囲もあり、一方、谷部で堆積が厚い。これは尾根上からの流れ込み二次堆積したためであろう。縄文時代の遺構検出面。落とし穴埋土に見られる黒色系埋土の由来となる土層。遺物を含まない。

Ⅳ層：始良丹沢火山灰層(A T層)及びその二次堆積土。西尾根から谷部で明瞭に確認できた。東尾根ではやや不明瞭で、確認できた土層も二次堆積したものとみられる。

3 調査の概要

縄文時代と奈良時代を中心とする遺構・遺物を確認した。

縄文時代の遺構は土坑44基を確認している。このうち42基は落とし穴であり、遺跡周辺は当時の狩猟場であったと考える。



第10図 A T層掘削範囲



写真3 箱掘り作業風景



写真4 土壌サンプリング風景

奈良時代の遺構は掘立柱建物跡2棟、土坑1基を検出している。掘立柱建物跡のうち1棟の内外からは鉄関連遺物が出土しており、鍛錬鍛冶を行っていたことが明らかとなった。

これらの他に、時期が不明な溝状遺構12条、土坑5基、焼土1基を検出している。

遺構内から出土した遺物のごくわずかであり、大半が遺構外から出土した。遺物の総量はコンテナ19箱である。

第2節 縄文時代の調査

1 概要

西尾根の西斜面からナイフ形石器(S15)が1点出土している。このため、旧石器時代の遺物が出土することを想定し、西尾根を中心にA T層の掘削を行い、ホワイトローム上面の精査を行った。その結果、S15を除き、旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。

縄文時代の遺構としては、土坑44基を検出した。このうち42基は落とし穴である。集落跡を示すような遺構はなく、土器も破片資料がわずかに出土した程度であり、当地は集落域から離れた狩猟場として利用されていたと考えられる。

落とし穴は形態的特徴から複数に分類することができ、それぞれに分布のまとまりが認められる。また、埋土についても、黒色系と褐色系の二者があった。これらの諸点についての検討は後述する(第5章)。調査時には、落とし穴の埋土断面を詳細に観察・検討するため、半截で掘り下げた側を箱状に大きく掘削(以下、「箱掘り」と呼称)したものがあつた(土坑4・13・14・24・34・35)。これらのうち4基(土坑4・14・34・35)については、埋土の埋設過程を検討するため、土層断面を板状に切り取り、軟X線分析を行った。この結果、埋め戻された可能性が指摘された(第4章第2節)。また、埋土の由来や、各埋土の比較を行うため、落とし穴埋土の土壌分析(土坑4・14・34・35)。及び12基の落とし穴埋土について、抽出した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。その結果、補正年代値で5900~6400BPの数値であるという結果を得ている(第4章第1節)。

2 土坑

土坑44基うち、落とし穴が42基と大多数を占めている。縄文時代の落とし穴は、大山町内で同時期に調査を行った下甲退休原第1遺跡でも27基検出している。この両遺跡を相互に比較検討することを念頭に、落とし穴に関する構造については次のように整理し、両遺跡間で語句・名称を共有した(第11図)。

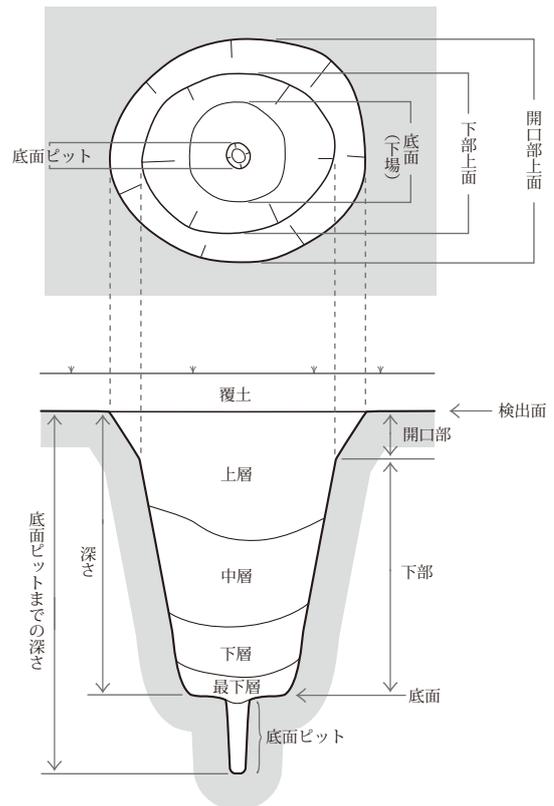
落とし穴の形状

大山山麓で検出される落とし穴は、多くが黒ボク由来と考えられる黒色系の埋土であり、これらの本来の掘り込み面は黒ボク土であったと推定できる。こうした落とし穴を検出する際、多くの場合、黒ボク土上面では平面を認識することができず、黒ボク土を除去したその下層に達して初めて認識にいたる場合が多い。あるいは、堆積土の流出や後世の削平などにより、調査地に落とし穴を掘り込んだ層が残存していないこともある。このような本来の掘り込み面が失われている場合には、落とし穴の地表付近は残存しておらず、本来の形状について、正確に把握することができない。本遺跡でも、

第3章 調査の成果

ほとんどの落とし穴について掘り込み面での検出には至らなかった。しかし、土層観察用のトレンチや、調査地壁面に落とし穴断面が位置しているケースがあり、掘り込み面付近の形状が検討できるものが存在した(土坑31・34)。それらの検討から、掘削当時の落とし穴の形状は、地表に近い上部が漏斗状に広く開いていたと考える。

この開く上部は既に述べたように調査時には残存していないことが多いため、落とし穴の形状、特に平面形を判断するためには、検出した平面ラインが本来どの位置にあるものかを正しく判断する必要がある。そのために、上部に向かって開く部分を「開口部」、それ以下を「下部」とし、以下ではこの判断を踏まえて記述する。従来、平面形は検出した上面の平面形によって判断されることが多く、開口部について、本来の形状をどこまで反映しているのかについて判断が不明確な例も少なくない。残存状況により本来の形状が明確化しない検出上面の平面形は、複数の落とし穴を比較する上では必ずしも有効ではないだろう。そこで、本遺跡においては落とし穴相互の比較を念頭に、遺構の平面形は開口部の残存状況に左右されない底面の形状を重視して判断する。



第11図 落とし穴の部位名称

落とし穴の各部名称

- ・遺構上面：検出面での遺構の上面。掘削当時の上面とは区別。
- ・底面：土坑の底面。底面ピット検出面。
- ・埋土：遺構内の埋土。底面ピット埋土も含む。
- ・覆土：検出面の直上層。埋土とは区別。
- ・埋土上層・中層・下層：遺構埋土を上下に概ね三等分したもの。
- ・埋土最下層：埋土下層のうち、底面に最も近い層。
- ・深さ：検出面から底面までの深さ。底面ピットは含まない。
- ・底面ピット：底面以下の杭痕跡。断面で立ち上がりが確認できる単位を1基として扱う。

土坑1 (第12・13図、PL. 7・37)

西尾根のE10グリッド南西隅、標高50.0mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.11~1.12m、底面で径0.53~0.63m、検出面から底部までの深さは0.92mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土を主体とし、最下層は黄褐色土(④層)が薄く堆積している。

①層から黒曜石製の凹基式石鏃(S1)が出土している。

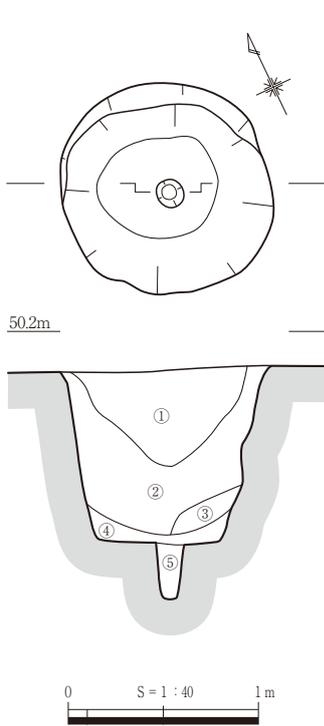
埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑2 (第14・16図、PL. 7・37)

西尾根のE9グリッド北西、標高49.8mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを2基伴う。規模は遺構上面で径0.8~1.03m、底面で径0.74m、検出面から底部までの深さは1.44mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、下層には暗褐色(⑧層)土と褐色土(⑥層)が薄く堆積している。

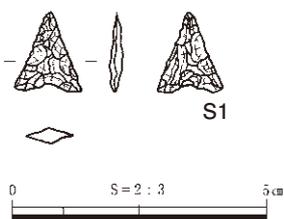
埋土上層から黒曜石製の凹基式石鏃(S2)が出土している。

埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

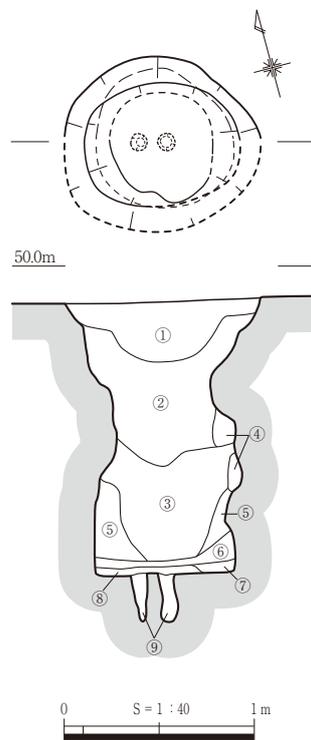


- ①褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや。黄色土と褐色土が斑状に混ざっている。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。径20mm以下の黄色ブロック、黄色粒を含む。
- ③暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性あり。しまり弱い。径5mm以下の黄色土を多く含む。
- ④黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまりやや強い。
- ⑤埋土は掘削してしまったため不明。

第12図 土坑1

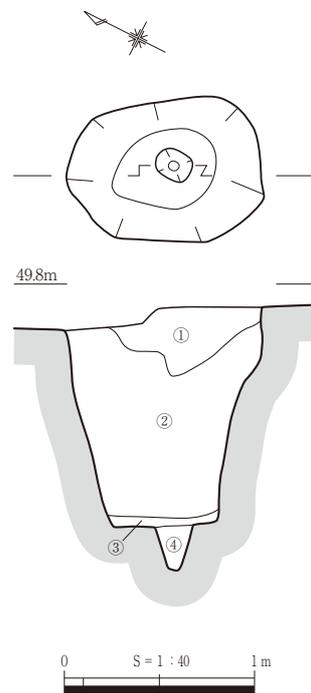


第13図 土坑1 出土遺物



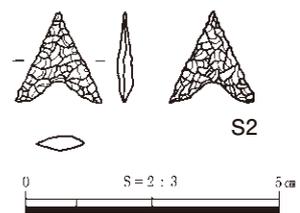
- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや強い。径5mm程度の黄色粒・黒色粒を少量含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。径20mm程度の黄色ブロックを少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④褐色土 (10YR4/6) 粘性やや強い。しまりやや弱い。径5mm程度の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑥褐色土 (10YR4/4) 粘性やや強い。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。
- ⑦にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粘性やや弱い。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑧暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑨褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまり弱い。

第14図 土坑2



- ①黄褐色土 (10YR5/8) 粘性強い。しまりやや強い。径5~20mmの黄色粒・黄色ブロックをごくわずかに含む。
- ②褐色土 (10YR4/6) 粘性強い。しまりあり。径10~20mmの黄色ブロックをごくわずかに含む。
- ③暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性強い。しまりあり。
- ④褐色土 (7.5YR4/6) 粘性やや強い。しまりやや弱い。

第15図 土坑3



第16図 土坑2 出土遺物

土坑3 (第15図、PL. 8)

西尾根のE 8グリッド南西、標高49.7mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.76~1.02m、底面で径0.42~0.57m、検出面から底部までの深さは1.16mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は褐色土を主体とし、最下層は暗褐色土(③層)が薄く堆積している。

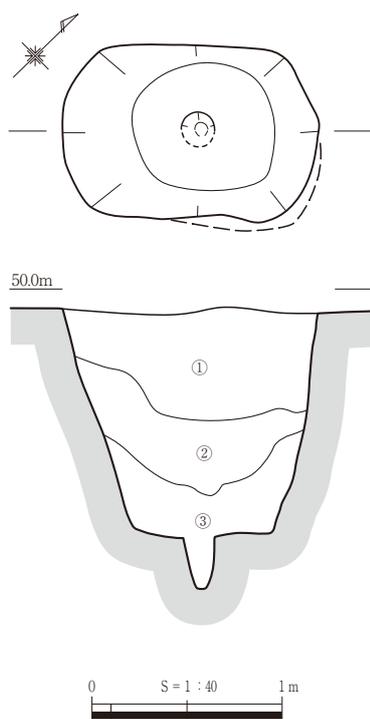
遺物は出土していない。形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑4 (第17図、PL. 8)

西尾根のE 9グリッド南東、標高49.9mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は逆ハ状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.92~1.35m、底面で径0.67~0.75m、検出面から底部までの深さは1.22mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黄褐色土を主体とする3層からなる。これらの層は分層できるものの互いに類似しており、他の土坑埋土に見られる黒色系の埋土を全く含まない。最下層にあたる③層について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で $5030 \pm 30BP$ の数値を得ている。また、埋土壁面を切り

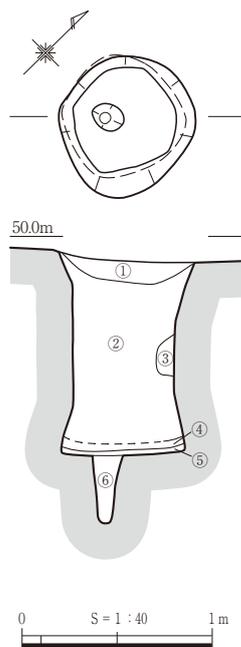
取って軟X線撮影を行い、圧密度等の分析を行った(第4章)。

遺物は出土していない。放射性炭素年代測定から縄文時代の落とし穴と考える。



- ①黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまりやや強い。径5mm以下の炭化物・暗褐色粒を含む。
- ②黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまりややあり。①層と同色だが、色調やや暗い。径5mm以下の暗褐色粒を含む。径20mm程度の黄色ブロックを含む。
- ③にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 粘性強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄褐色ブロックを多く含む。

第17図 土坑4



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒を含む。径5mm程度の黒色粒(炭化物?)を少量含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。径10~20mmの黄色ブロックを含む。
- ③褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりややあり。黄色土が斑状に混ざる。
- ④黄褐色土 (10YR5/6) 粘性やや強い。しまり強い(粘床か)。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまり弱い。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。

第18図 土坑5

土坑5 (第18図、PL. 9)

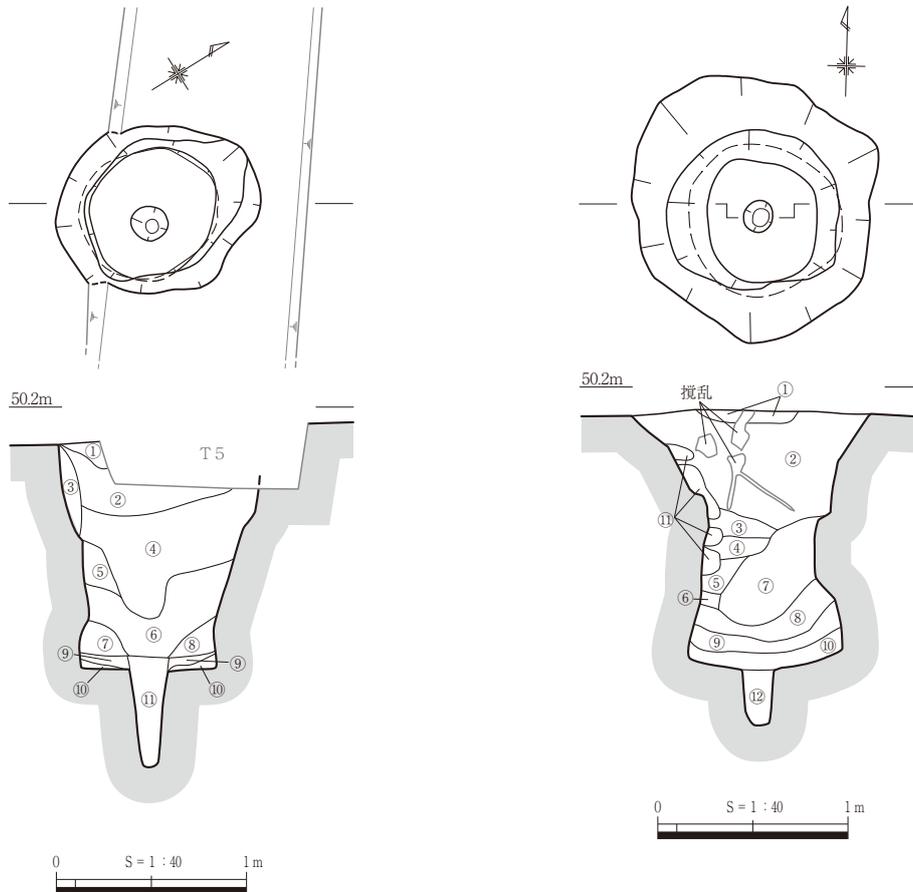
西尾根のE 9グリッド東、標高49.9mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.72~0.75m、底面で径0.60~0.62m、検出面から底部までの深さは1.07mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土を主体とし、最下層の上面には黄褐色土(④層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑6 (第19図、PL. 9)

西尾根のE 8グリッド東、標高50.1mに位置する。土層確認用のトレンチ掘削中に検出した。トレンチ壁面の観察により、黄褐色土に覆われ、黒褐色土上面から掘り込まれていることを確認した。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は、開口部上面で径0.95~1.07m、くびれ部で径0.68m、底面で径0.66~0.73m、検出面から底部までの深さは1.20mを測る。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層の上面には黄褐色土(⑨層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態の特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性ややあり。しまりやや弱い。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりあり。径5~10mmの黄色粒を少量含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性ややあり。しまりやや弱い。径5mm程度の黄色粒を少量含む。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりややあり。径5~10mmの黄色粒を僅かに含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR3/2) 粘性ややあり。しまりややあり。径5~10mmの黄色粒を多く含む。5cm程度の黄色ブロックを含む。
- ⑥黒色土 (10YR2/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- ⑦黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。径5~10mmの黄色粒を多く含む。
- ⑧黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。径5~10mmの黄色粒を含む。
- ⑨黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまりややあり。
- ⑩黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ⑪黒褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまりやや弱い。

- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。
- ②黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりあり。
- ③黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。
- ④黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや強い。径10mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。
- ⑦黒色土 (10YR2/1) 粘性ややあり。しまり強い。径10mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑧黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑨黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ⑩暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑪暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑫黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄褐色土粒子を多く含む。

第20図 土坑7

第19図 土坑6

第3章 調査の成果

土坑7 (第20図、PL.10)

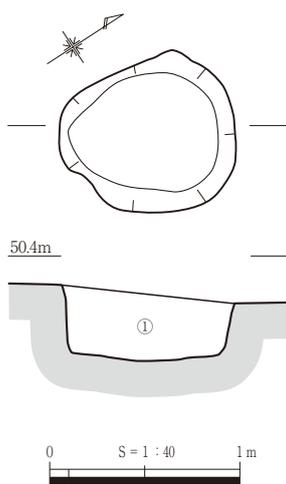
西尾根のF8グリッド中央付近、標高50.0mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.26~1.40m、底面で径0.81m、検出面から底部までの深さは1.35mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層は暗褐色土(⑩層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑8 (第21図、PL.10)

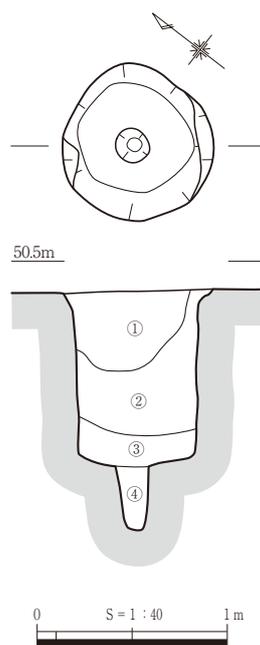
西尾根のE10グリッド南東、標高50.2mに位置する。AT層(IV層)上面で検出した。平面形が楕円形を呈する浅い土坑である。規模は遺構上面で径0.85~0.92m、底面で径0.62~0.79m、検出面から底部までの深さは0.35mを測る。埋土は黒褐色土の単層である。

遺物は出土していない。他の土坑に比して著しく浅いため落とし穴とは判断していない。埋土から縄文時代の土坑と考える。



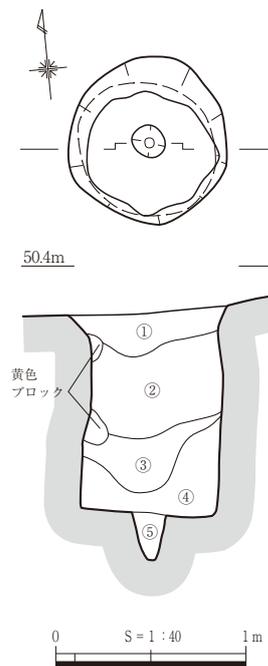
①黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径10mm以下の黄色粒を少量含む。径5mm程の炭化物を少量含む。

第21図 土坑8



①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。
 ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
 ③黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
 ④暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。黄色土ブロックを多量に含む。

第22図 土坑9



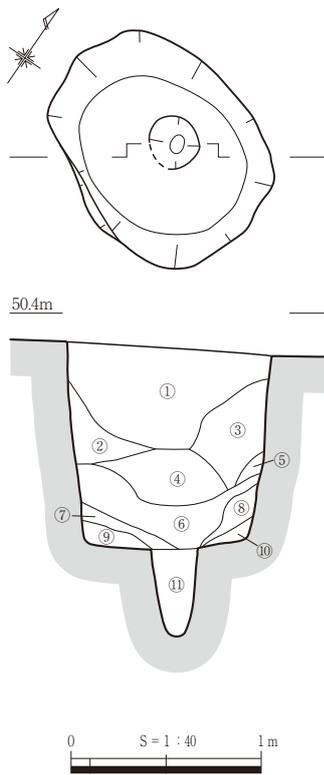
①褐色土 (7.5YR4/4) 粘性やや弱い。しまり強い。径1~10mmの黄色粒を含む。
 ②暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性ややあり。しまりややあり。径1~10mmの黄色粒を多く含む。
 ③黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりややあり。径1~5mmの黄色粒を僅かに含む。
 ④極暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘性あり。しまり弱い。黄色土斑状に含む。
 ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒を含む。

第23図 土坑10

土坑9 (第22図、PL.10)

西尾根のF10グリッド南、標高50.4mに位置する。AT上面で検出した。平面形は円形で、断面形は、壁面が垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.80~0.83m、底面で径0.56~0.62m、検出面から底部までの深さは0.93mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

埋土上層から凶化不可能な縄文土器の細片が数点出土している。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



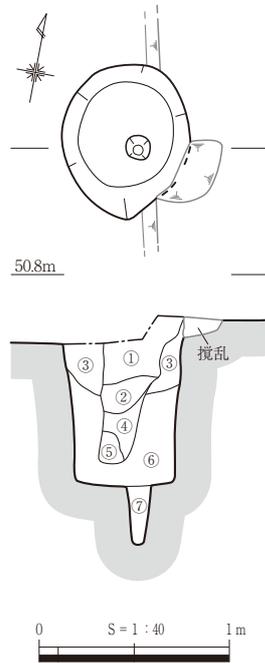
- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径1~10cmの黄色ブロックを含む。径5mm以下の炭化物をこわずかに含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径10mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。一部に黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ④暗褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまりややあり。黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。壁崩落土。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑦黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまり弱い。壁崩落土。
- ⑧褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり弱い。黄褐色土と暗褐色土が斑状に混ざっている。
- ⑨暗褐色土 10YR3/4) 粘性やや強い。しまりやや弱い。黄色土と暗褐色土が斑状に混ざっている。
- ⑩暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりやや弱い。5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑪暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。黄褐色土粒子を多く含む。

第24図 土坑11

土坑10 (第23図、PL.11)

西尾根のF9グリッド南、標高50.2mに位置する。AT上面で検出した。平面形は円形で、断面形は円筒状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.84~0.86m、底面で径0.69~0.76m、検出面から底部までの深さは1.08mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土を主体とする。底面ピット埋土(④層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6150±30BPという数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。黄色土を斑状に含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまりややあり。黄色土を斑状に含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまり弱い。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまり強い。壁面付近に黄色土を斑状に含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりやや弱い。壁面付近に黄色土を斑状に含む。
- ⑦黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。

第25図 土坑12

土坑11 (第24図、PL.12)

西尾根のG9グリッド北西、標高50.2mに位置する。AT上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は円筒状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.94~1.28m、底面で径0.75~0.92m、検出面から底部までの深さは1.08mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土及び

第3章 調査の成果

黒褐色土を主体とし、最下層の上面に黄褐色土(⑦層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

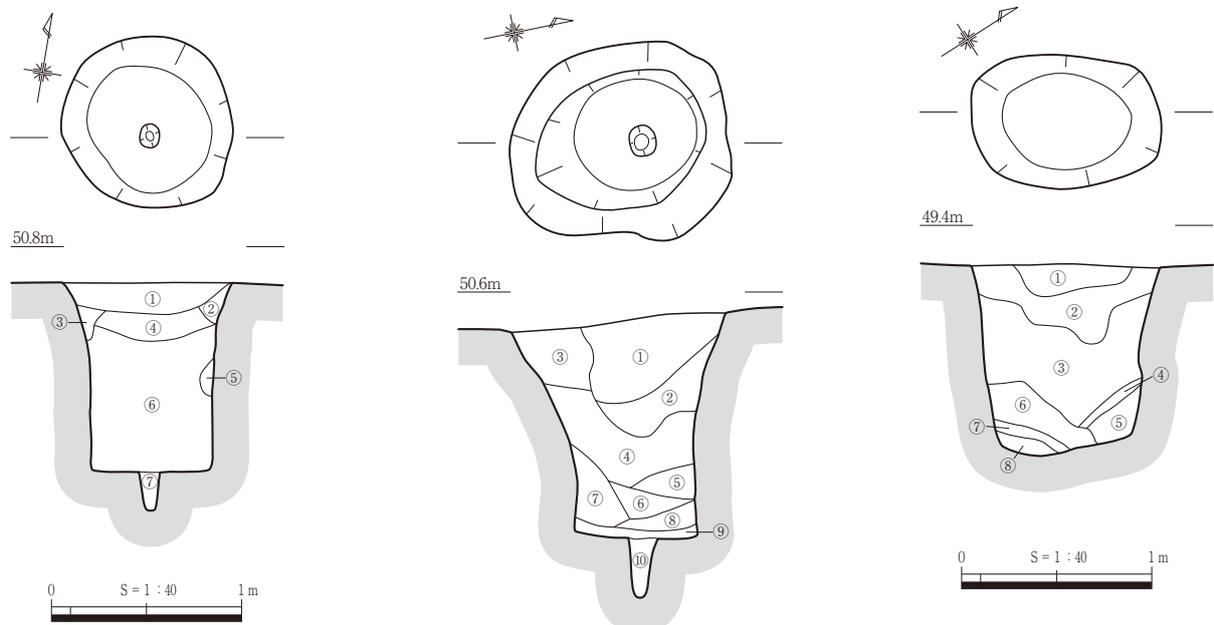
土坑12 (第25図、PL.13)

西尾根のG10グリッド西、標高50.6mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は円筒状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.68~0.82m、底面で径0.50~0.56m、検出面から底部までの深さは0.88mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体としている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑13 (第26図、PL.13)

西尾根のG11グリッド北東、標高50.6mに位置する。AT上面で検出した。平面形は円形で、断面



- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや弱い。しまり強い。
- ②褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまりややあり。径1~10mmの黄色粒を含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性弱い。しまりやや強い。径1~5mmの黄色粒を多く含む。
- ④黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりややあり。径1~10mmの黄色粒をわずかに含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性強い。しまり強い。壁面の崩落したブロックか。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや弱い。径1~5mmの黄色粒をわずかに含む。
- ⑦黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。黄色土を斑に含む。

第26図 土坑13

- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性ややあり。しまり強い。径1~5mmの黄色粒をわずかに含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまりやや弱い。径1~3mmの黄色粒をわずかに含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまり強い。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや強い。径1~10mmの黄色粒を少し含む。
- ⑤黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりややあり。やや褐色がかかった黒色。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。径1~5mmの黄色粒を多く含む。
- ⑧暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土と黒褐色土が斑状に混じりあっている。
- ⑨暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑩暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。径30~40mmの黄色ブロックを含む。⑨層よりやや暗い色調。

第27図 土坑14

- ①明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性やや強い。しまり弱い。
- ②黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ③褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりやや弱い。暗褐色土に黄褐色土が斑状に混じりあう。径5mm以下の黄色粒がわずかに含む。
- ④黄褐色土 (10YR5/8) 粘性あり。しまりあり。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑦黄橙色土 (10YR7/8) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
- ⑧黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。

第28図 土坑15

形は円筒状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.88～0.96m、底面で径0.59～0.69m、検出面から底部までの深さは1.00mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体としている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑14 (第27図、PL.14)

西尾根のG10グリッド北東、標高50.4mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.06～1.15m、底面で径0.58～0.65m、検出面から底部までの深さは1.18mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層に黄色粒を多く含む層が薄く堆積している。底面ピット埋土(⑩層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6290±30BPの数値を得ている。また、埋土壁面を切り取って軟X線撮影を行い、圧密度等の分析を行った(第4章)。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑15 (第28図、PL.14)

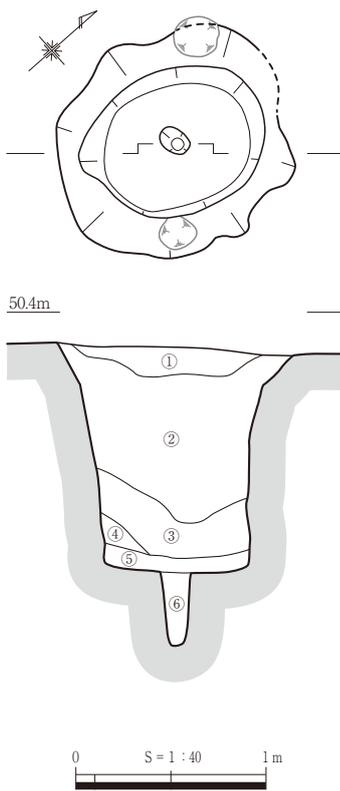
西尾根のG9グリッド北東、標高49.2mに位置する。ホワイトローム上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で径0.71～1.00m、底面で径0.51～0.68m、検出面から底部までの深さは1.01mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は褐色土を主体とし、黒色系の埋土が目立たないことが特徴的である。

遺物は出土していない。形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑16 (第29図、PL.15)

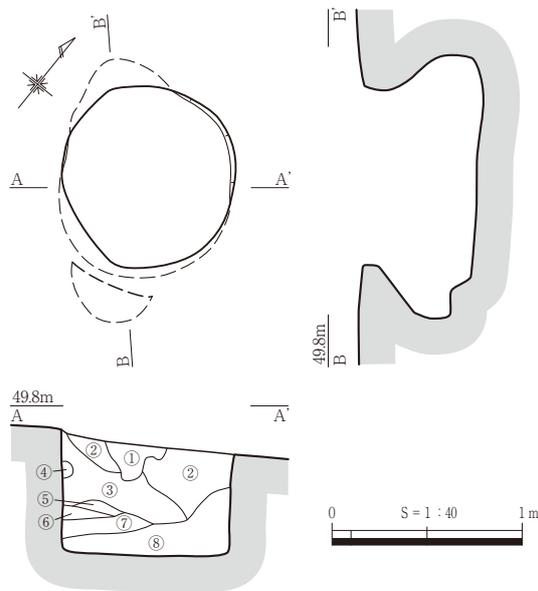
西尾根のG8グリッド南東、標高50.2mに位置する。AT上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.13～1.34m、底面で径0.64～0.78m、検出面から底部までの深さは1.19mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層は暗褐色土(⑤層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



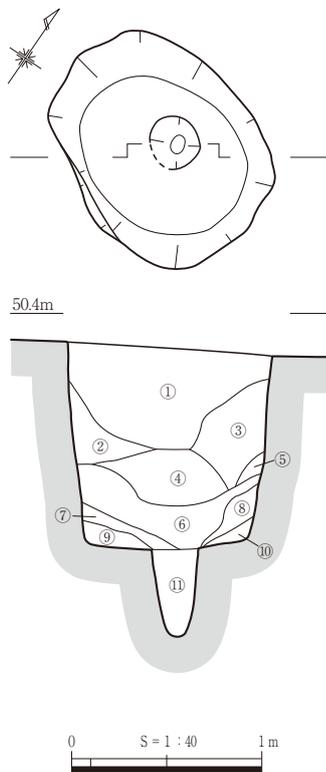
- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや弱い。しまりあり。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径5～20mmの黄色ブロックを含む。
- ③黒色土 (10YR1.7/1) 粘性あり。しまりあり。
- ④黒褐色土 (10YR2/3) 粘性強い。しまりあり。径10mm程の黄色粒を多く含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりややあり。

第29図 土坑16



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ②褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒、径5mm程度の黒色粒を少量含む。
- ③褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。径5mm以下の黒色粒を少量含む。
- ④黄褐色粘土ブロック
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱い。
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり弱い。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱い。
- ⑧黄褐色土 (10YR5/6) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。

第30図 土坑17



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径1~10cmの黄色ブロックを含む。径5mm以下の炭化物をごくわずかに含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径10mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。一部に黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ④暗褐色土 (10YR2/3) 粘性ややあり。しまりややあり。黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。壁崩落土。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑦黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまり弱い。壁崩落土。
- ⑧褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり弱い。黄褐色土と暗褐色土が斑状に混ざっている。
- ⑨暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまりやや弱い。黄色土と暗褐色土が斑状に混ざっている。
- ⑩暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりやや弱い。5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑪暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。黄褐色土粒子を多く含む。

第31図 土坑18

土坑17 (第30図、PL.15)

西尾根から谷へさしかかるH7グリッドの南西、標高49.7mに位置する。ホワイトローム上面で検出した。平面形は円形で、断面形は南西-北東方向で円筒形、北西-南東方向で袋状を呈す。底面ピットは伴わない。規模は遺構上面で径0.90~0.96m、底面で径0.90~1.15m、検出面から底部までの深さは0.62mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は褐色土を主体とし、最下層には黄褐色土(⑧層)が堆積している。

遺物は出土していない。形態的特徴からは時期及び性格について判断しがたいが、埋土の特徴から縄文時代の遺構と考える。

土坑18 (第31図、PL.16)

西尾根から谷部へさしかかるG6グリッドの南西、標高49.7mに位置する。ATの2次堆積層上面で調査地壁面に接して検出した。調査地壁面の観察から、黒褐色土上面から掘り込まれていることが確認できた。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.85~1.00m、底面で径0.68~0.75m、検出面から底部までの深さは1.24mを測る。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体とし、中・下層は薄い層が互層状に堆積していた。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑19 (第32図、PL.15)

谷部のH16グリッド北西、標高48.2mに位置する。黒褐色土除去後の褐色を呈するローム層上面で検出した。平面形は方形で、断面形は壁面が垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で短軸0.51m×長軸1.01m、底面で長軸0.37m×長軸0.83m、検出面から底部までの深さは0.68mを測る。本来の

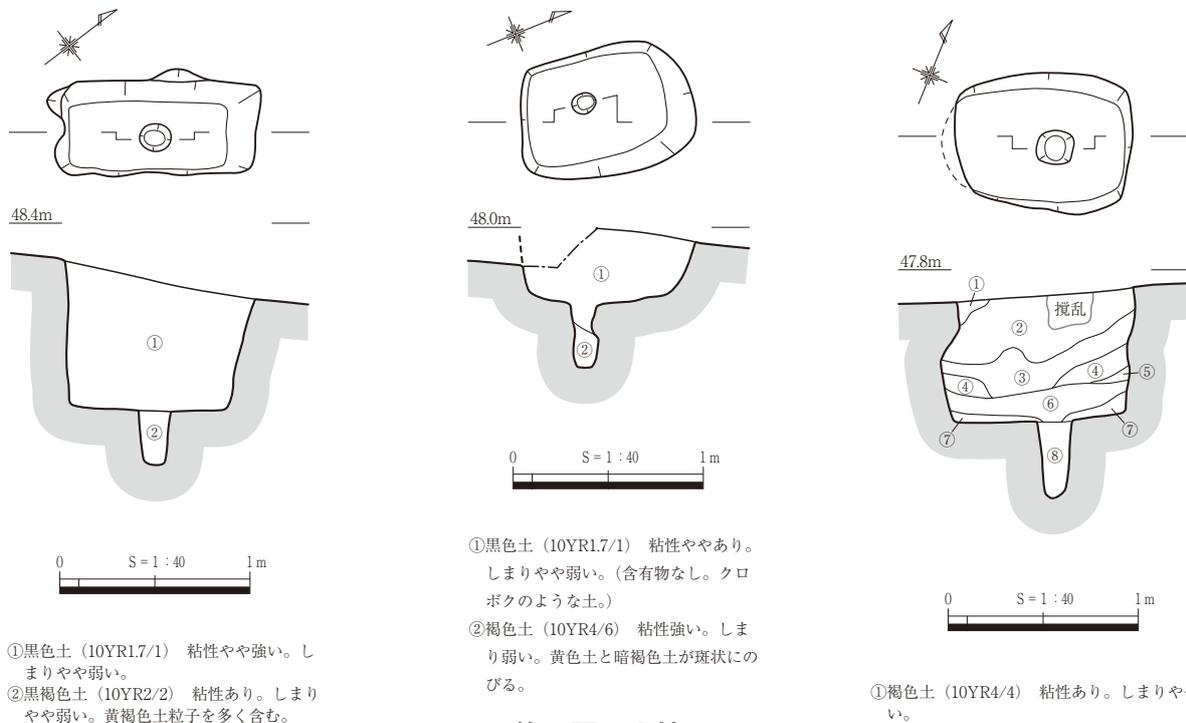
遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土を主体とする。底面ピット内埋土(②層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で $5290 \pm 30BP$ の数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑20 (第33図、PL.17)

谷部のH6グリッド中央付近、標高48.0mに位置する。黒褐色土中で検出した。平面形は方形を呈する。残存する深さが浅いため、断面形は判然としないが、垂直に立ち上がる形状を呈していたと推定する。底面ピットを伴う。規模は遺構上面で短軸0.68m×長軸0.92m、底面で短軸0.53m×長軸0.74m、検出面から底部までの深さは0.40mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



第33図 土坑20

第32図 土坑19



写真5 土坑19掘削作業風景

第34図 土坑21

第3章 調査の成果

土坑21 (第34図、PL.17)

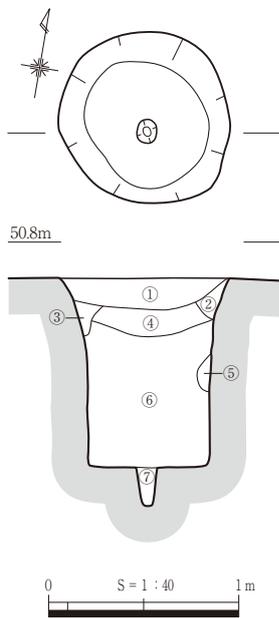
谷部のH5グリッド南東、標高47.7mに位置する。黒褐色土除去後の黄褐色を呈するローム層上面で検出した。平面形は不整な楕円形で、断面形は垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.74~0.93m、底面で径0.60~0.97m、検出面から底部までの深さは0.67mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑22 (第35図、PL.17)

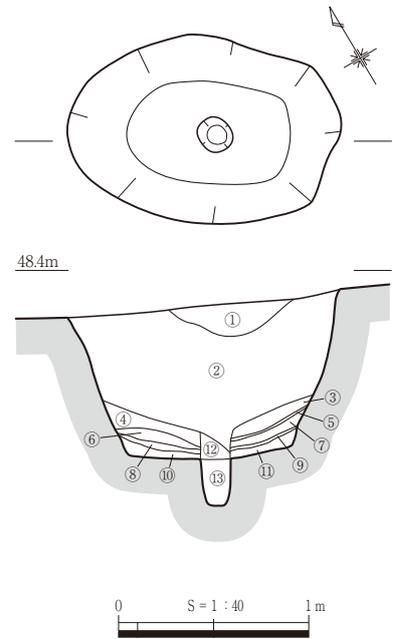
谷部のH7グリッド南東、標高49.2mに位置する。黒褐色土除去後の褐色を呈するローム層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は垂直に立ち上がる形状を呈し、互いに近接する3基の底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.81~1.04m、底面で径0.68~1.21m、検出面から底部までの深さは0.57mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、薄く堆積している最下層の暗褐色土層(⑥層)は黄色粒を非常に多く含んでいた。底面ピット内埋土(⑦層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6370±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや弱い。しまり強い。
- ②褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまりややあり。径1~10mmの黄色粒を含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性弱い。しまりやや強い。径1~5mmの黄色粒を多く含む。
- ④黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりややあり。径1~10mmの黄色粒をわずかに含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性強い。しまり強い。壁面の崩落したブロックか。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや弱い。径1~5mmの黄色粒をわずかに含む。
- ⑦黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。黄色土を斑に含む。

第35図 土坑22



- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。黄褐色土を部分的に含む。
- ⑥黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまりやや強い。
- ⑦黄褐色土 (10YR5/8) 粘性強い。しまり強い。地山ローム土由来か。
- ⑧黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ⑨黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりややあり。黄褐色土を部分的に含む。
- ⑩褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりややあり。
- ⑪黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまりあり。
- ⑫黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりやや弱い。
- ⑬黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。黄色土ブロックを微量に含む。

第36図 土坑23

土坑23 (第36図、PL.18)

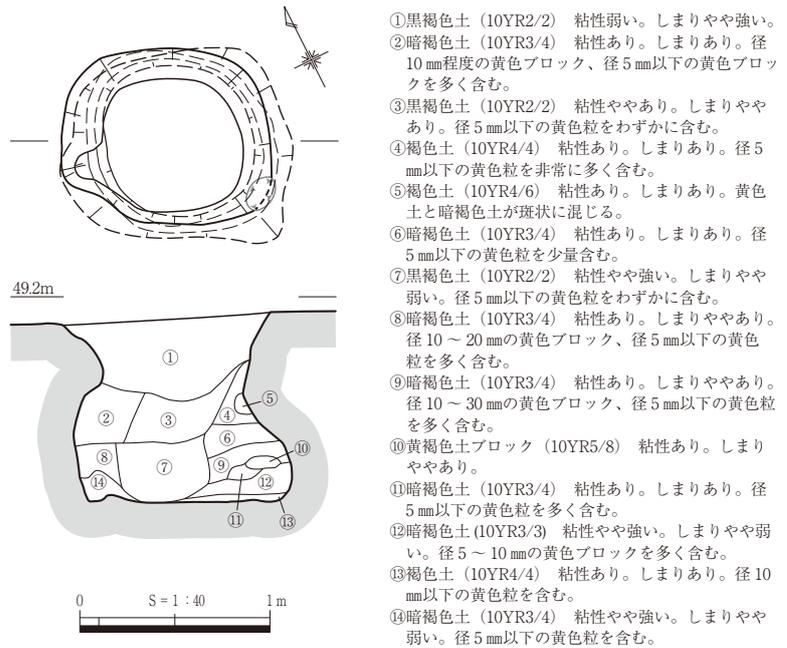
谷部のH6グリッド南西、標高48.3mに位置する。黄褐色のローム層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は逆ハ字形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.00~1.44m、底面で径0.54~0.86m、検出面から底部までの深さは0.81mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、下層には褐色~黄褐色土と黒褐色土が互層状に堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

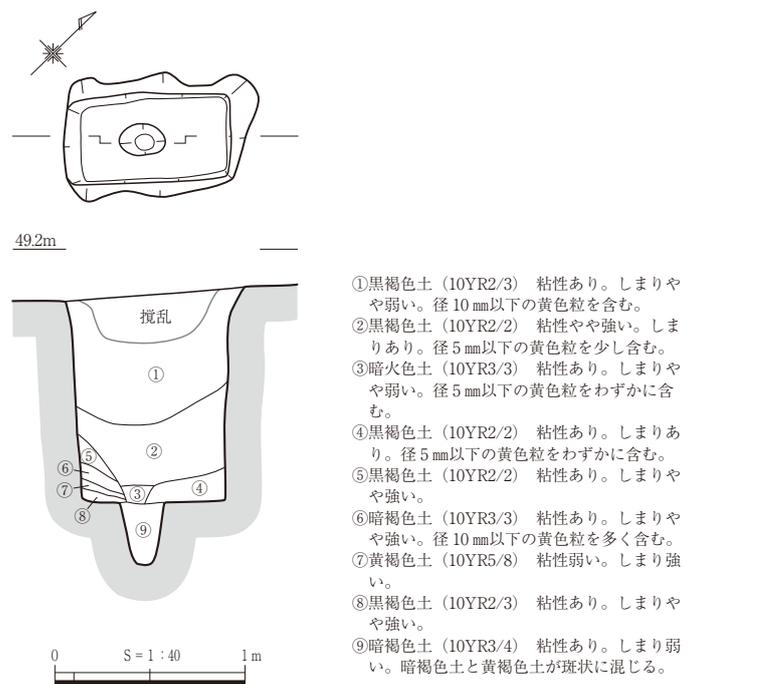
土坑24 (第37図、PL.18)

東尾根から谷部へさしかかるI6グリッド北東、標高49.1mに位置する。二次堆積したAT層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は袋状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で径0.93~1.10m、底面で径0.96~0.99m、検出面から底部までの深さは0.97mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層は褐色土が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土が落とし穴と共通することから、縄文時代の遺構と考える。遺構の性格は、断面袋状を呈することから貯蔵穴も想定されるが、遺跡内には土器等の集落としての性格を示す遺構・遺物がほとんどみられないことから、貯蔵穴の可能性は低いと考える。遺跡内の土坑はほぼ落とし穴で占められていること、貯蔵穴としては開口部が広く広がりすぎており、むしろ落とし穴の開口部とみれば適した形状であることから、本遺構は縄文時代の落



第37図 土坑24



第38図 土坑25

とし穴と考える。

土坑25 (第38図、PL.19)

谷部のI7グリッド北東、標高49.0mに位置する。AT上面で検出した。平面形は方形で、断面形は垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で短軸0.65m×長軸0.95m、底面で短軸0.42m×長軸0.77m、検出面から底部までの深さは1.10mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

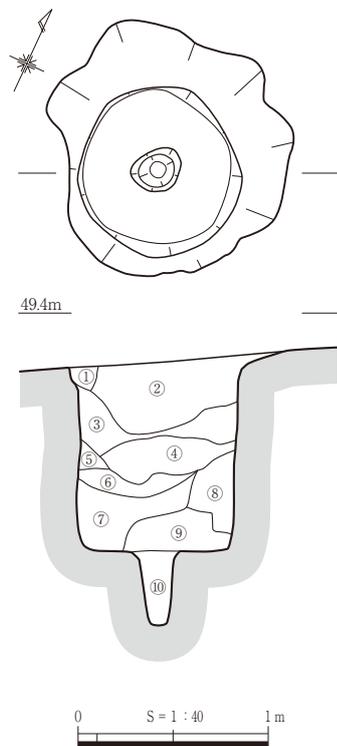
土坑26 (第39図、PL.19)

谷部のI7グリッドとJ7グリッドの境界線上、標高49.2mに位置する。黄褐色を呈するローム層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.14~1.35m、底面で径0.78~0.81m、検出面から底部までの深さは1.00mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑27 (第40図、PL.20)

谷部のJ7グリッド南西、標高49.3mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は逆ハ字形状を呈し、開口部分は大きく開く。底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で径1.67~1.90m、底面で径0.72~0.77m、検出面から底部までの深さは1.54mを測る。当遺跡で最も大きい土



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ②黒色土 (10YR1.7/1) 粘性あり。しまりややあり。径10mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を多く含む。
- ④黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑦黒色土 (10YR2/1) 粘性強い。しまりあり。径10mm以下の黄色粒を含む。
- ⑧暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑨黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりあり。径20mm程度の黄色ブロックを含む。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑩黒褐色土 (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりやや弱い。10mm以下の黄色ブロック、5mm以下の黄色粒を含む。

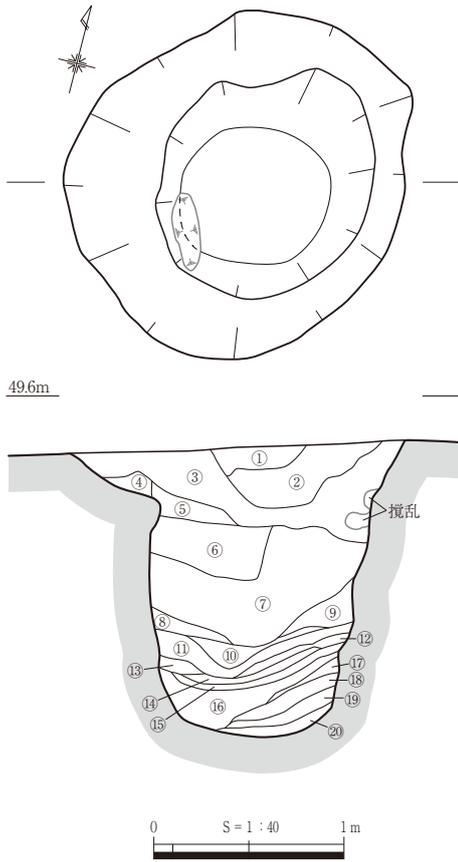
第39図 土坑26

坑である。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っているが、検出面以下でも開口部の形状を一部をとどめている。埋土は黒褐色土及び暗褐色土を主体とする。下層には薄い層が互層状に堆積しており、最下層(⑩層)及びその上層(⑨層)では、しまりの強い褐色土及び黄褐色土が堆積していた。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

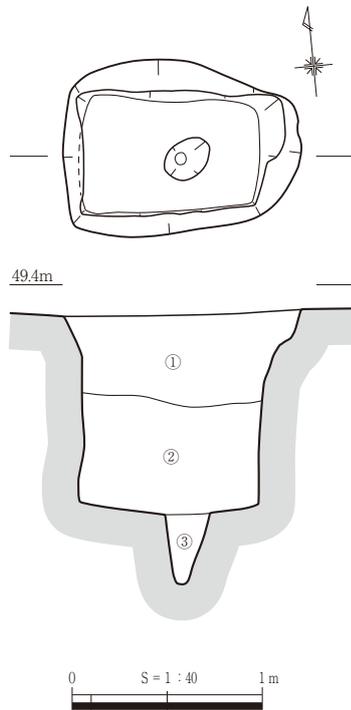
土坑28 (第41図、PL.20)

谷部のJ7・78グリッドの境界西側、標高49.3mに位置する。黄褐色土を呈するローム層上面で検出した。平面形は方形で、断面形はやや外反しつつ立ち上が



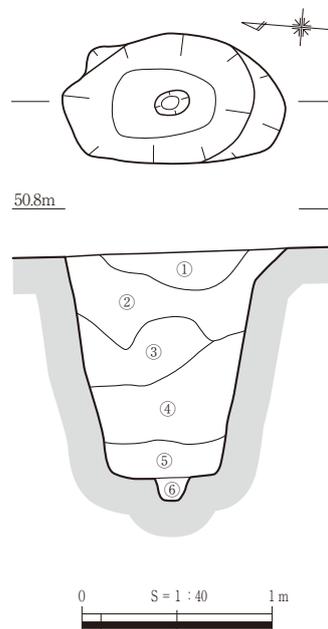
- ①黒色土 (10YR1.7/1) 粘性ややあり。しまり強い。径5mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ②黒色土 (10YR2/1) 粘性ややあり。しまり強い。径10mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。暗褐色土と黄色土が斑状に混ざる。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりややあり。径10～20mmの黄色ブロックを含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色ブロック・黄色粒を非常に多く含む。
- ⑧褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑨褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり強い。
- ⑩暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径15mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑪黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりややあり。径10mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ⑫褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりややあり。径10mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑬黄褐色土 (10YR5/8) 粘性ややあり。しまりあり。
- ⑭黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ⑮暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりややあり。径20mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑯黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまり強い。径20mm以下の黄色粒を含む。
- ⑰黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑱暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径5～10mmの黄色粒を含む。
- ⑲黄褐色土 (10YR5/6) 粘性あり。しまり強い。黄色土に黒色土を斑状に含む。
- ⑳褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまり強い。径5～40mmの黄色粒を非常に多く含む。

第40図 土坑27



- ①黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりあり。径1～3mmの黄色ブロックを含む。5mm以下の黄色粒を含む。径1～10mmの炭化物を多く含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色粒を含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり非常に弱い。黄褐色土と暗褐色土が斑状に混ざりあう。

第41図 土坑28



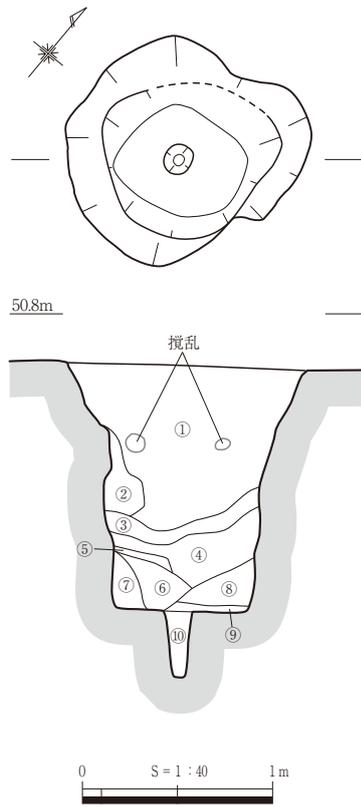
- ①黄褐色土 (10YR5/6) 粘性やや強い。しまりあり。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ③褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。黄褐色土を斑状に含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/3) 粘性ややあり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤黄褐色土 (10YR5/8) 粘性ややあり。しまりあり。
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや強い。黄色土粒子を多量に含む。

第42図 土坑29

第3章 調査の成果

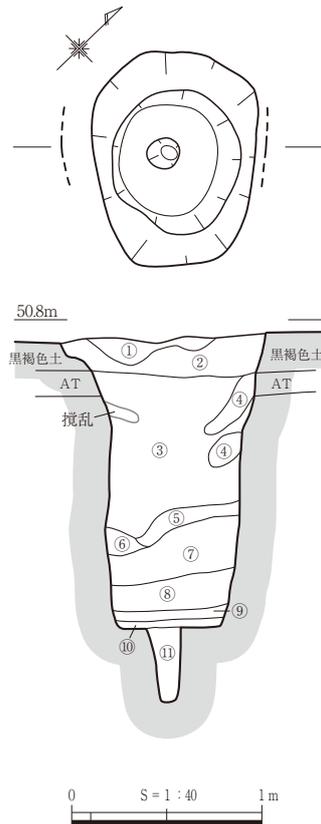
る形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で短軸0.94m×長軸1.25m、底面で短軸0.59m×長軸0.95m、検出面から底部までの深さは1.06mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は底面まで黒褐色土である。底面ピット内埋土(③層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で5950±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまり強い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い。しまりあり。径5～50mmの黄色粒、黄色ブロックを非常に多く含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒、径10～20mmの黄色ブロックを含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑧褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑨黒褐色土 (10YR2/3) 粘性強い。しまりあり。
- ⑩黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまり強い。径10mm以下の黄色ブロックを含む。

第43図 土坑30



- ①褐色土 (10YR4/4) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ③黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまり強い。径10mm以下の黄色粒を多く含む。(ランダムに入っている)
- ④暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/4) 粘性強い。しまり非常に強い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑥黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまりあり。黄色土を斑状に含む。
- ⑦明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性やや強い。しまりやや強い。ローム土を中心とする。
- ⑧暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径10mm以下の黄色土ブロックを含む。
- ⑨黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまりやや強い。ローム土を中心とする。
- ⑩黒褐色土 (10YR5/2) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色土を微量に含む。
- ⑪灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色土ブロックと黄色土粒子を微量に含む。

第44図 土坑31

土坑29 (第42図、PL.20)

西尾根のI10グリッド北西、標高50.5mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形は逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.69～1.17m、底面で径0.36～0.54m、検出面から底部までの深さは1.19mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土を主体とし、最下層は黄褐色土(⑤層)が堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑30 (第43図、PL.20・21)

西尾根のI10グリッド中央の調査地南壁際、標高50.6mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.22～1.27m、底面で径0.54～0.63m、検出面から底部までの深さは1.31mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

し穴と考える。

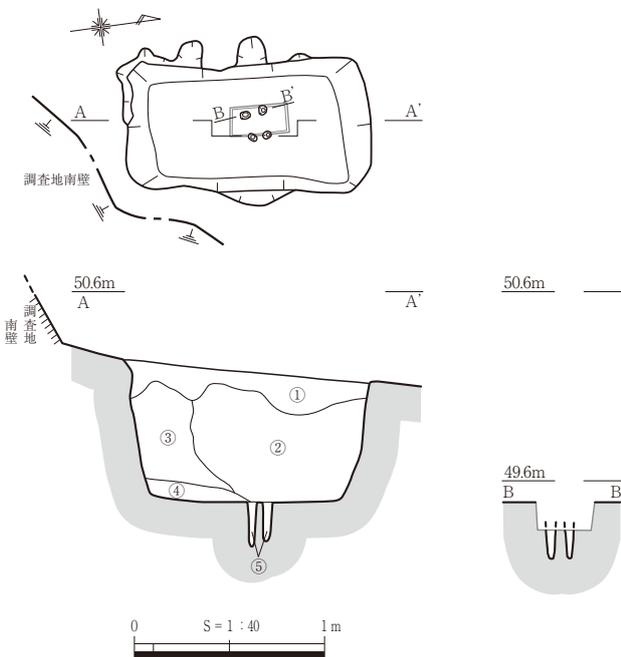
土坑31 (第44図、PL.21)

西尾根から谷部へさしかかる I 10グリッド北東の調査地南壁際、標高50.7mに位置する。調査地壁面の観察により、黒褐色土上面から掘り込まれていることを確認した。ただし、平面的には埋土と掘り込み面の土層(黒褐色土)との区別が困難であり、A T層上面まで下げた段階で認識した。このため、開口部は断面のみ確認した。平面形は円形で、断面形は、開口部付近はやや開き、下部下位は円筒状に立ち上がる形状を呈している。底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.87~1.13m、底面で径0.51~0.58m、検出面から底部までの深さは1.56mを測る。埋土は上・中層は黒色土を主体とし、下層は褐色土(⑤層)、明黄褐色土(⑦層)、暗褐色土(⑧層)などが互層状に堆積している。底面ピット内埋土(⑪層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6360±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

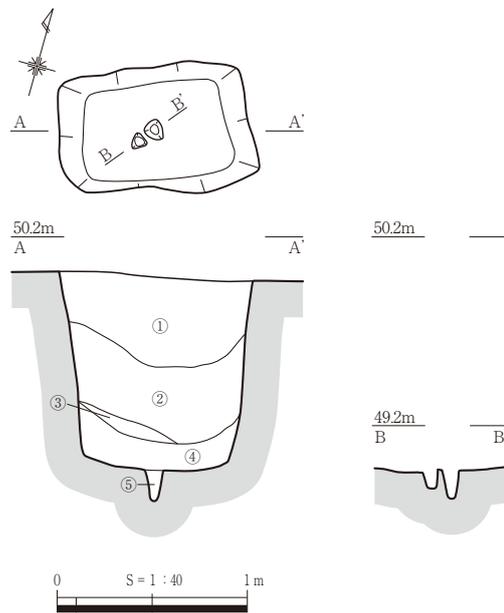
土坑32 (第45図、PL.21・22)

西尾根から谷部へさしかかる J 9グリッド南西、標高50.2mに位置する。A T上面で検出した。平面形は方形で、断面形は逆ハ字状を呈し、径5cm程度の細い底面ピットを4基伴う。規模は遺構上面で短軸0.67m×長軸1.28m、底面で短軸0.52m×長軸1.01m、検出面から底部までの深さは0.69mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は暗褐色土及び黒褐色土を



- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。径20mm以下の黄色ブロック、黄色粒を含む。径10mm以下の炭化物を少量含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりあり。径10~20mmの黄色ブロック、径5mm以下の黄色粒を含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。径10mm程の黄色ブロック、径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④褐色土 (10YR4/6) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。

第45図 土坑32



- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径10mm程度の黄色ブロック、径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径10mm程度の黄色ブロック、径5mm以下の黄色粒をこくわずかに含む。
- ③褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりあり。径15cmのATブロックを含む。褐色土と黄色土が斑状に混じりあう。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。

第46図 土坑33

第3章 調査の成果

主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

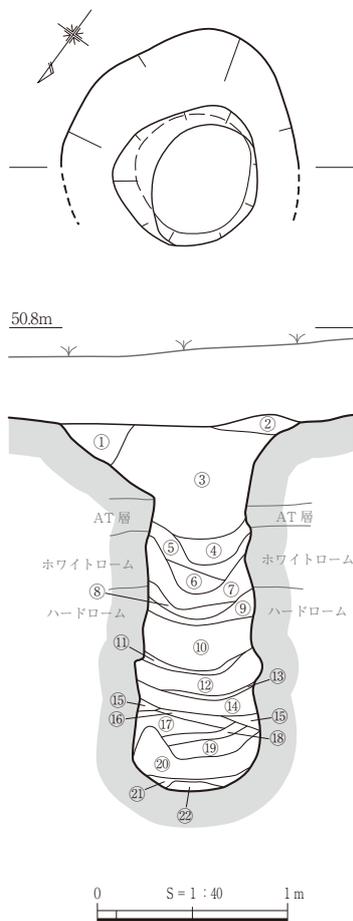
土坑33 (第46図、PL.21)

西尾根から谷部へさしかかるJ9グリッド中央、標高50.0mに位置する。AT上面で検出した。平面形は方形で、断面形は円筒状を呈し、底面ピットを2基伴う。規模は遺構上面で短軸0.70m×長軸1.00m、底面で短軸0.52m×長軸0.78m、検出面から底部までの深さは1.03mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑34 (第47図、PL.23)

谷部の谷頭にあたるJ9グリッド中央、調査地南壁際の標高50.3mに位置する。調査地壁面の観察により、黒褐色土上面から掘り込まれていることを確認した。平面形は円形で、断面形は開口部が大きく開き、下部上面がややくびれる形状を呈す。底面ピットを伴わない。規模は、遺構上面の確認できた範囲で径1.15~1.25m、下部上面で0.55~0.68、底面で径0.61~0.63m、検出面から底部までの深さは1.94mを測る。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体としつつ、埋土中・下層では土質の異なる層が互層状に堆積している。底面からやや上の⑭層・⑯層はしまりが非常に強く、この層以下、最下層までにもしまりの強い層があり、他の土坑埋土とは異質である。⑳層には黄色ブロックを非常に多く



- ①黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。斑状に黄褐色土を含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。斑状に黄褐色土を含む。①と同層。
- ③黒色土 (10YR2/3) 粘性強い。しまり強い。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑤黒色土 (10YR2/1) 粘性強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒をこくわずかに含む。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑧黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒をこくわずかに含む。
- ⑨黒褐色土 (10YR2/3) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。
- ⑩黒色土 (10YR2/1) 粘性強い。しまりやや弱い。径5mm程度の黄色粒を少量含む。
- ⑪黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑫黒色土 (10YR1.7/1) 粘性強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒をこくわずかに含む。
- ⑬黒色土 (10YR1.7/1) 粘性強い。しまり弱い。⑫層よりも黒い。
- ⑭暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまり非常に強い。
- ⑮黒色土 (10YR2/1) 粘性強い。しまり弱い。
- ⑯黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまり非常に強い。
- ⑰褐色土 (10YR4/4) 粘性やや強い。しまりやや強い。黄色土を斑状に含む。
- ⑱黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまり弱い。
- ⑲暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒・黒色粒を少量含む。
- ⑳暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い。しまり強い。径5~20mmの黄色ブロックを非常に多く含む。径5mm程度の黒色粒を含む。
- ㉑黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強い。しまり弱い。
- ㉒明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性あり。しまり強い。壁面由来の土。



写真6 土坑34完掘状況

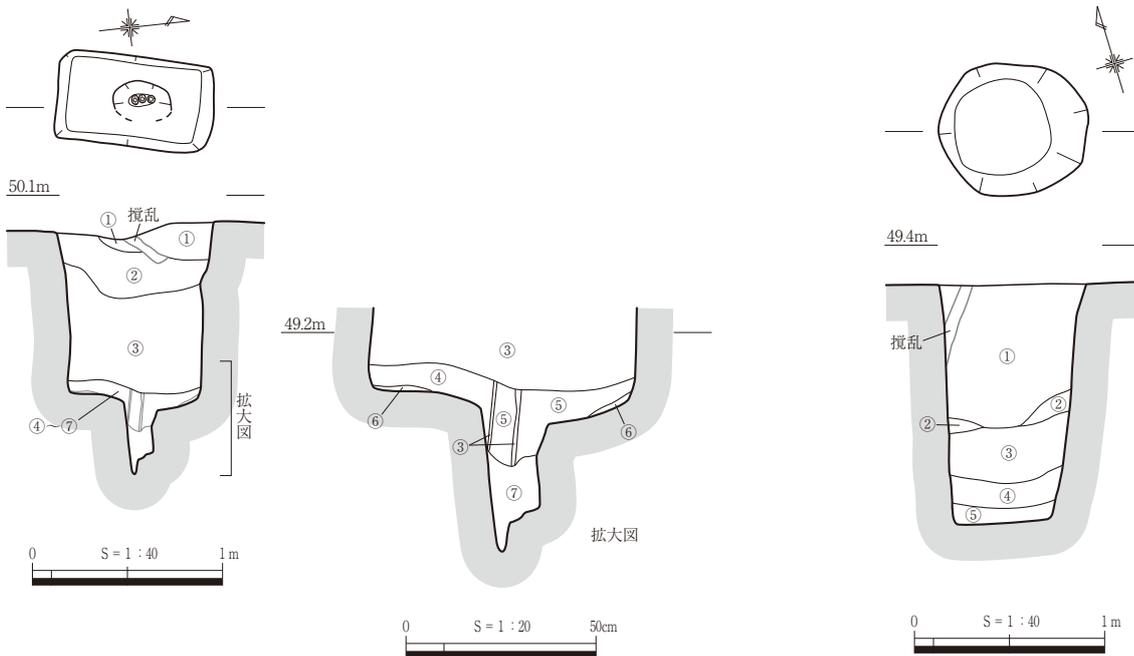
第47図 土坑34

含むことなどからも、調査時から人為的に固められた土層の可能性を検討し、埋土壁面を切り取って軟X線撮影を行い、圧密度等の分析を行った(第4章)。この結果、人為的に埋め戻された可能性を指摘された。また、最下層の22層について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6920±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑35 (第48図、PL.24)

谷部の谷頭にあたるJ9グリッド北東、標高50.0mに位置する。橙褐色土を呈するローム層からA T層上面で検出した。平面形は方形で、断面形は垂直に立ち上がる形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で短軸0.48m×長軸0.82m、底面で短軸0.39m×長軸0.70m、検出面から底部までの深さは0.94mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土を主体とし、下層には黄褐色土(④層)・明黄褐色土(⑤層)が堆積している。この④・⑤層中に、縦方向に細く黒色土(③層)を確認した。これは底面ピットに伴う杭の痕跡をとどめたものと推定している。④・⑤層については、埋土壁面を切り取って軟X線撮影を行い、圧密度等の分析を行った(第4章)。この結果、人為的に埋め戻された可能性を指摘された。また、底面ピット埋土(⑦層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6120±30BPの数値を得ている。



- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径10mm程度の黄色ブロックを少量含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ③黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ④黄褐色土 (10YR5/6) 粘性やや強い。しまりやや強い。
- ⑤明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性やや強い。しまり強い。黄色土が斑状に混じる。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりあり。黄色土と黒褐色土が斑状に混じる。底面掘り込み後、上部の黒ボクが落ち込んだものか。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/4) 混じり明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性あり。しまりあり。地山土(ローム土)と暗褐色土が樹枝状に混じる。

第48図 土坑35

- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径10mm以下の黄色粒を含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強い。しまりややあり。黄褐色土を斑状に含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑤褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりややあり。径5mm程度の黄色粒を非常に多く含む。

第49図 土坑36

第3章 調査の成果

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

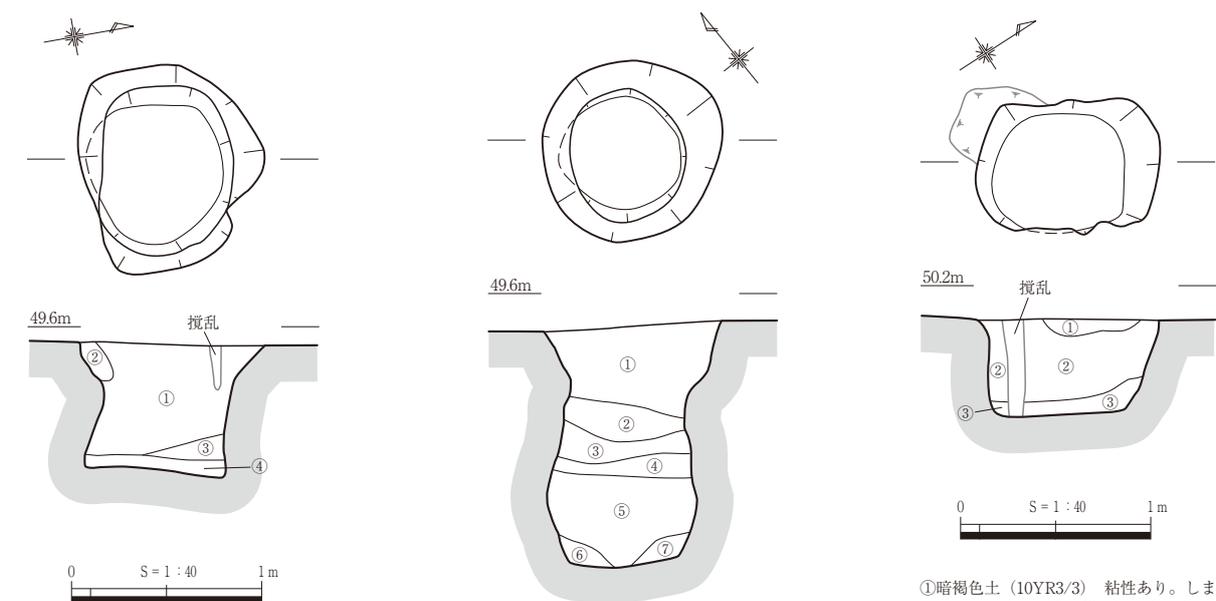
土坑36 (第49図、PL.24)

東尾根のK3グリッド南西、標高49.2mに位置する。AT層の二次堆積層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は円筒状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で径0.70~0.78m、底面で径0.50~0.51m、検出面から底部までの深さは1.26mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層は黄色粒を非常に多く含む褐色土(⑤層)が薄く堆積している。この⑤層について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6050±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑37 (第50図、PL.25)

東尾根のK4グリッド西、標高49.5mに位置する。AT層上面で検出した。平面形は不整な隅丸方で、断面形は短軸方向では中程でくびれる形状、長軸方向では逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で短軸0.95m×長軸1.08m、底面で短軸0.69m×長軸0.75m、検出面から底部までの深さは0.70mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒



- ①黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒、径10mm程度の黄色ブロックを少量含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性ややあり。しまりややあり。径5~10mm程度の黄色ブロックを多く含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒、径10~30mm程度の黄色ブロックを多く含む。
- ④褐色土 (10YR4/4) 粘性やや強い。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒を多く含む。

第50図 土坑37

- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。径5~20mmの黄色粒を含む。
- ②黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ③黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや強い。しまりややあり。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm程度の黄色粒を非常に多く含む。
- ⑦褐色土 (10YR4/6) 粘性強い。しまりやや強い。地山ローム層よりやや暗い。

第51図 土坑38

- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや強い。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ③褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。

第52図 土坑39

褐色土を主体とし、最下層は黄色粒を多く含む褐色土(④層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑38 (第51図、PL.25)

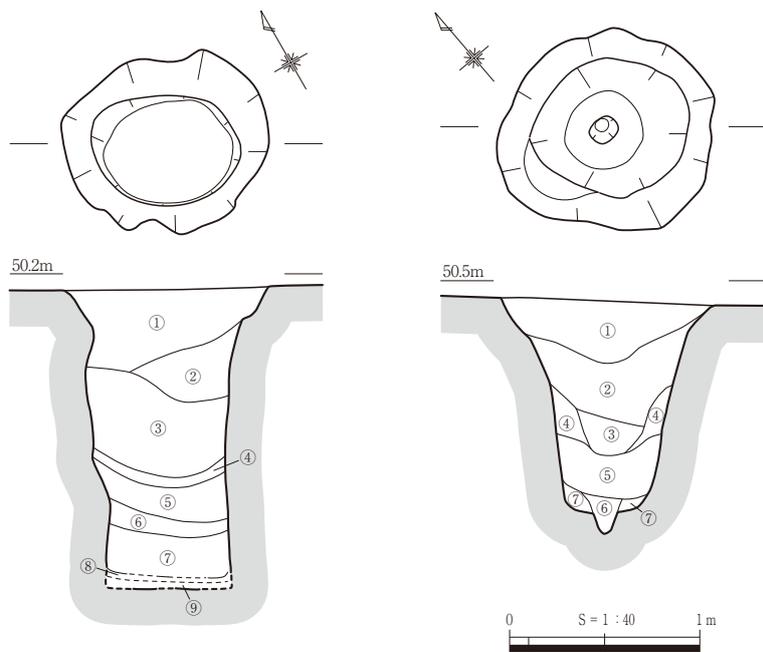
東尾根のK 4グリッド中央、標高49.5mに位置する。A T層の二次堆積層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は中程でくびれる形状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で径0.95～0.96m、底面で径0.60～0.64m、検出面から底部までの深さは1.27mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。埋土最下層(⑥層)について、放射性炭素年代測定を行っており、補正年代値で6910±30BPの数値を得ている。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑39 (第52図、PL.25)

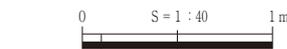
東尾根のK 6グリッド南、標高50.0mに位置する。ホワイトローム上面で検出した。平面形は不整な隅丸方形で、断面形は長軸方向で逆ハ字状を呈し、底面ピットを伴わない。規模は遺構上面で短軸0.68m×長軸0.96m、底面で短軸0.63m×長軸0.69m、検出面から底部までの深さは0.51mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とし、最下層は黄色粒を非常に多く含む褐色土(③層)が薄く堆積している。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。



土坑40 (第53図、PL.26)

東尾根のK 7グリッド中央、標高50.1mに位置する。A T層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は円筒状を呈す。調査時に遺構のコンディションが悪く、底面の状況については詳細に観察できなかつたが、底面ピットは確認していない。規模は遺構上面で径0.93～1.09m、底面で径0.54～0.68m、検出面



- ①黒褐色土 (10YR1.7/1) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒をこくわずかに含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりあり。径10mm以下の黄色粒を多く含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑥黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまり強い。径20mm程度の黄褐色ロームブロックを含む。
- ⑦黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑧黄褐色土
- ⑨黒褐色土 黄色粒を含む。

- ①黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径5mm以下の地山粒を含む。
- ②黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりあり。径1cm以下の地山粒を多く含む。
- ③褐色土 (10YR4/4) 粘性やや強い。しまりあり。地山ブロックの落ち込み。
- ④黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の地山粒をわずかに含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまり弱い。
- ⑥黒色土 (10YR1.7/1) 粘性あり。しまりやや弱い。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱い。径2mm以下の地山粒を含む。

第54図 土坑41

第53図 土坑40

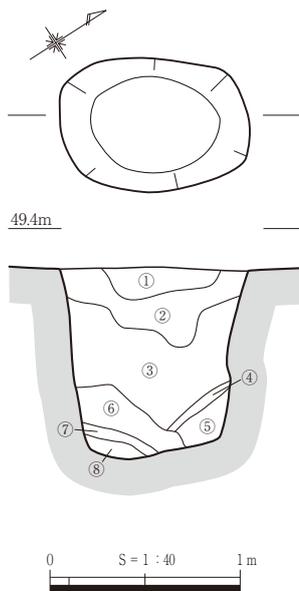
第3章 調査の成果

から底部までの深さは1.59mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態の特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

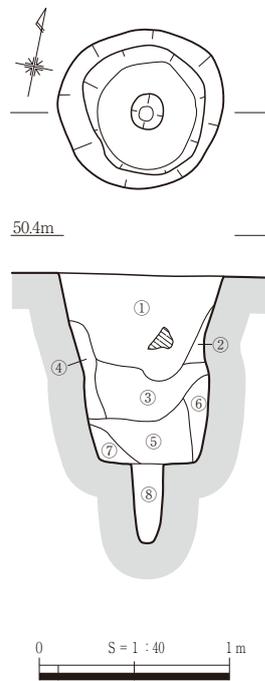
土坑41 (第54図、PL.26)

東尾根のL7グリッド南西、標高50.4mに位置する。調査地内に先行して掘り下げたトレンチ内に位置しており、褐色を呈する土層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.09~1.15m、底面で径0.40~0.41m、検出面から底部までの深さは1.13mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っ



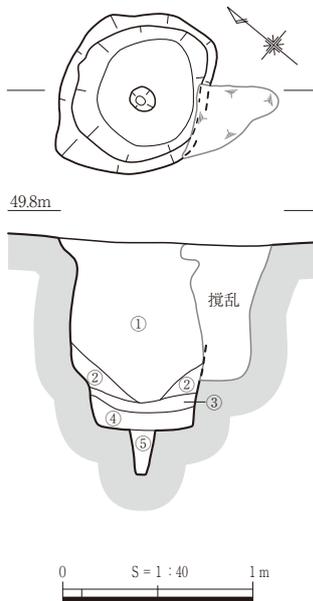
- ①明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性やや強い。しまり弱い。
- ②黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまり弱い。径5mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ③褐色土 (10YR4/6) 粘性ややあり。しまりやや弱い。暗褐色土に黄褐色土が斑状に混じりあう。径5mm以下の黄色粒がわずかに含む。
- ④黄褐色土 (10YR5/8) 粘性あり。しまりあり。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ⑦黄褐色土 (10YR7/8) 粘性やや強い。しまりやや弱い。
- ⑧黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強い。しまりややあり。径5mm以下の黄色粒を含む。

第55図 土坑42



- ①黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや弱い。しまりややあり。径3mm以下の黄色粒をごくわずかに含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/3) 粘性ややあり。しまりややあり。黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ③黒褐色土 (10YR2/3) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまり弱い。黄褐色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒をわずかに含む。
- ⑥暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。径5mm大の黄色粒を多く含む。
- ⑦暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。黄色土を斑状に含む。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑧暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘性あり。しまりあり。黄褐色粒子を含む。

第56図 土坑43



- ①黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を非常に多く含む。
- ③暗褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強い。しまりやや弱い。径5mm以下の黄色粒を少量含む。
- ④暗褐色土 (10YR3/3) 粘性強い。しまりあり。径5mm以下の黄色粒を含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。黄褐色土粒子を多量に含む。

第57図 土坑44

ている。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑42 (第55図、PL.26)

東尾根のL7グリッド中央、標高50.3mに位置する。黒褐色土上面で検出した。平面形は円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径1.06～1.13m、底面で径0.50～0.52m、検出面から底部までの深さは1.11mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

土坑43 (第56図、PL.27)

東尾根のL7グリッド北東、標高50.2mに位置する。AT層の二次堆積層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は底面から上面にかけて外反する形状を呈し、底面ピットを伴う。規模は遺構上面で径0.84～0.87m、底面で径0.52～0.57m、検出面から底部までの深さは1.00mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土及び黒褐色土を主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考える。

表2 縄文時代土坑一覧(1)

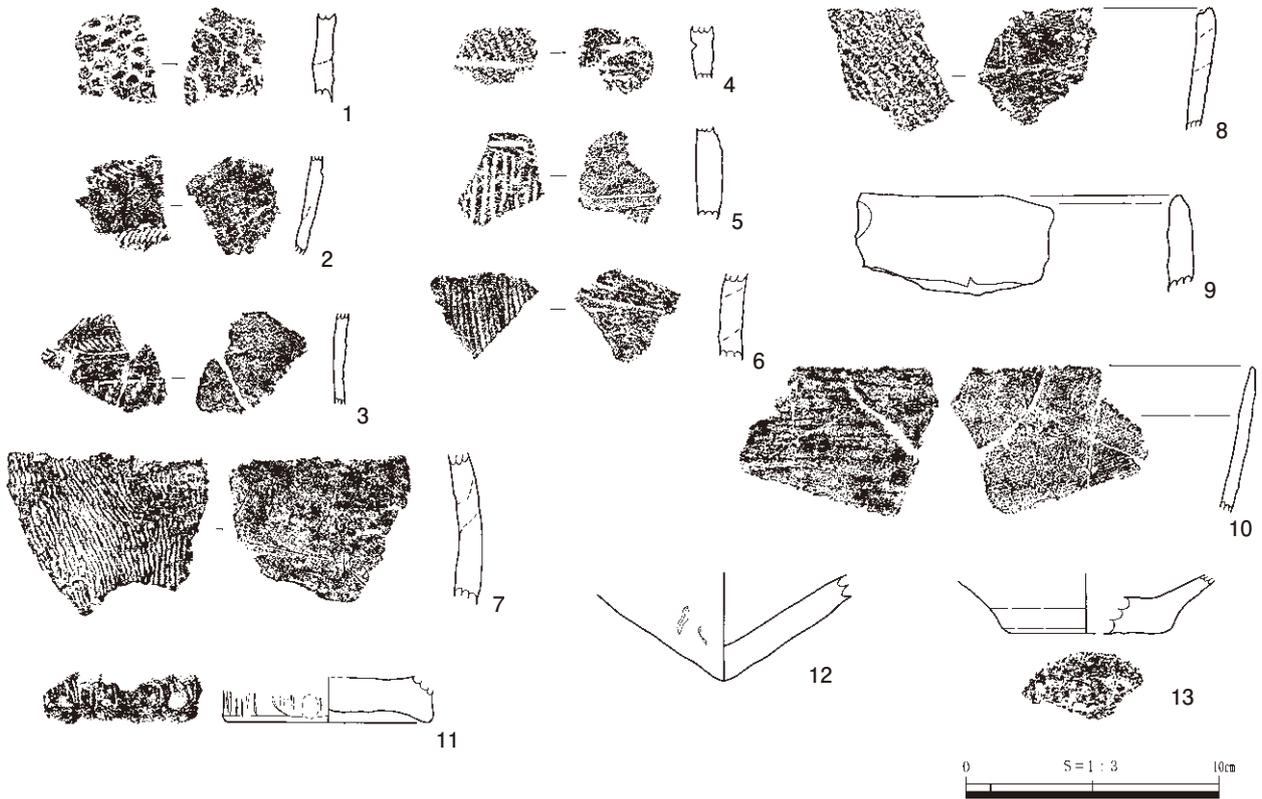
遺構名	性格	検出面	平面形	底面ピット有無	平面規模(m)	底面規模(m)	底面まで深さ(m)	底面ピット(m)		容積(m ³)
								規模	深さ	
土坑1	落とし穴	IV層～ホワイトローム上面	楕円形	有り	上面 1.11～1.12	0.53～0.63	0.92	0.14～0.15	0.29	0.54
土坑2	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.80以上～1.03	(0.74)	1.44	(0.09)	0.25	0.56
					下部上面 0.65～0.82					
					くびれ部 (0.54)					
土坑3	落とし穴	IV層上面	楕円形	有り	上面 0.76～1.02	0.42～0.57	1.16	0.15～0.20	0.24	0.46
土坑4	落とし穴	IV層上面	楕円形	有り	上面 0.92～1.35	0.67～0.75	1.22	0.10以上～0.17	0.27	0.83
土坑5	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.72～0.75	0.60～0.62	1.07	0.13～0.17	0.36	0.24
					下部上面 0.52					
土坑6	落とし穴	Ⅲ層上面	円形	有り	上面 0.95～1.07	0.66～0.73	1.20	0.18～0.19	0.51	(0.58)
					下部上面 0.72～0.85					
					くびれ部 0.68					
土坑7	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 1.26～1.40	0.81	1.35	0.15～0.17	0.29	0.63
					下部上面 0.84～0.91					
					くびれ部 0.57～0.64					
土坑8	土坑	IV層上面	楕円形	無し	上面 0.85～0.92	0.62～0.79	0.35	-	-	-
土坑9	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.80～0.83	0.56～0.62	0.93	0.17～0.18	0.34	0.37
土坑10	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.84～0.86	0.69～0.76	1.08	0.16～0.18	0.25	0.52
					下部上面 0.66～0.68					
土坑11	落とし穴	IV層上面	楕円形	有り	上面 0.94～1.28	0.75～0.92	1.08	0.26～0.28	0.46	0.81
土坑12	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.68～0.82	0.50～0.56	0.88	0.12～0.13	0.31	0.29
土坑13	落とし穴	IV層上面	円形	有り	上面 0.88～0.96	0.59～0.69	1.00	0.10～0.13	0.20	0.49
土坑14	落とし穴	IV層上面	楕円形	有り	上面 1.06～1.15	0.58～0.65	1.18	0.14～0.16	0.31	0.56
					下部上面 0.72～0.93					
土坑15	落とし穴	ホワイトローム上面	楕円形	無し	上面 0.71～1.00	0.51～0.68	1.01	-	-	0.48
土坑16	落とし穴	IV層上面	楕円形	有り	上面 1.13～1.34	0.63～0.78	1.19	0.12～0.17	0.39	0.68
					下部上面 0.77～1.00					
土坑17	落とし穴か	ホワイトローム上面	円形	無し	上面 0.90～0.96	0.90～1.15	0.62	-	-	0.38
土坑18	落とし穴	Ⅲ層～IV層上面	円形	有り	最上面 0.85～1.00	0.68～0.75	1.24	0.11～0.12	0.25	0.51
					くびれ部 0.54～0.62					

表3 縄文時代土坑一覧(2)

遺構名	性格	検出面	平面形	底面ピット有無	平面規模(m)	底面規模(m)	底面まで深さ(m)	底面ピット(m)		容積(m ³)
								規模	深さ	
土坑19	落とし穴	褐色土	方形	有り	上面 0.51×1.01	0.37×0.83	0.68	0.15~0.17	0.28	0.28
土坑20	落とし穴	Ⅲ層中	方形	有り	上面 0.68×0.92	0.53×0.74	0.40	0.11~0.13	0.33	0.20
土坑21	落とし穴	ローム層上面	楕円形	有り	上面 0.74~0.93	0.60~0.97	0.67	0.18~0.19	0.40	0.35
土坑22	落とし穴	褐色土(ローム層)上面	楕円形	有り	上面 0.81~1.40	0.68~1.21	0.57	大(0.13) 中(0.08~0.11) 小(0.06~0.09)	0.42 0.13 0.17	0.47
土坑23	落とし穴	黄褐色のローム層上面	楕円形	有り	上面 1.00~1.44	0.54~0.86	0.81	0.23~0.26	0.25	0.60
土坑24	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	無し	上面 0.93~1.10	0.96~0.99	0.97	-	-	0.60
					くびれ部 0.74~0.81					
土坑25	落とし穴	Ⅳ層上面	方形	有り	上面 0.65×0.95	0.42×0.77	1.10	0.16~0.23	0.33	0.36
					下部上面 0.48×0.88					
土坑26	落とし穴	ローム層上面	円形	有り	上面 1.14~1.35	0.78~0.81	1.00	0.22~0.26	0.39	0.59
					下部上面 0.87~0.89					
土坑27	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	無し	上面 1.67~1.90	0.77~0.72	1.54	-	-	1.45
					下部上面 1.11~1.28					
土坑28	落とし穴	ローム層上面	方形	有り	上面 0.94×1.25	0.59×0.95	1.06	0.20~0.26	0.37	0.72
					下部上面 0.66×1.05					
土坑29	落とし穴	Ⅳ層上面	楕円	有り	上面 (0.69)~1.17	0.36~0.54	1.19	0.13~0.19	0.12	0.46
					下部上面 0.69~1.01					
土坑30	落とし穴	Ⅳ層上面~Ⅳ層中	楕円形	有り	上面 1.22~1.27	0.54~0.63	1.31	0.14~0.16	0.35	0.69
					下部上面 0.84~0.86					
土坑31	落とし穴	断面：Ⅲ層上面 平面：Ⅳ層上面	円形	有り	上面 0.87以上~1.13以上	0.51~0.58	1.56	0.16~0.17	0.40	0.86
					下部上面 0.68~0.77					
土坑32	落とし穴	Ⅳ層上面	方形	有り	上面 0.67×1.28	0.52×1.01	0.69	3本(0.04~0.05) 1本(0.03~0.05)	0.15~0.24	0.47
土坑33	落とし穴	Ⅳ層上面	方形	有り	上面 0.70×1.00	0.52×0.78	1.03	0.10~0.11 0.07~0.08	0.16 0.09	0.56
土坑34	落とし穴	平面：Ⅳ層上面 断面：Ⅲ層上面	円形	無し	上面 1.15以上~1.25	0.61~0.63	1.94	-	-	(0.75)
					下部上面 0.55~0.68					
土坑35	落とし穴	橙褐色土~Ⅳ層上面	方形	有り	上面 0.48×0.82	0.39×0.70	0.94	0.15~0.31以上	0.36	0.31
土坑36	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	無し	上面 0.70~0.78	0.50~0.51	1.26	-	-	0.39
土坑37	落とし穴	Ⅳ層上面~Ⅳ層中	隅丸方形	無し	上面 0.95~1.08	0.69~0.75	0.70	-	-	0.33
					下部上面 0.69~0.90					
土坑38	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	無し	上面 0.95~0.96	0.60~0.64	1.27	-	-	0.55
					下部上面 0.61~0.71					
土坑39	落とし穴	ホワイトローム上面	隅丸方形	無し	上面 0.68×0.96	0.63×0.69	0.51	-	-	0.22
土坑40	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	無し	上面 0.93~1.09	0.54~0.68	1.59	-	-	0.65
					下部上面 0.59~0.78					
土坑41	落とし穴	Ⅲ層上面	円形	有り	上面 1.09~1.15	0.40~0.41	1.13	0.13~0.15	0.11	0.41
					下部上面 0.73~0.84					
土坑42	落とし穴	Ⅲ層上面	円形	有り	上面 1.06~1.13	0.50~0.52	1.11	0.13~0.15	0.37	0.40
					下部上面 0.67~0.69					
土坑43	落とし穴	Ⅳ層上面	円形	有り	上面 0.84~0.87	0.52~0.57	1.00	0.17~0.19	0.42	0.37
					下部上面 0.64~0.68					
土坑44	落とし穴	ローム層上面	円形	有り	上面 0.84~1.00	0.51~0.56	1.00	0.12~0.14	0.24	(0.33)
					下部上面 0.70~0.79					

土坑44 (第57図、PL.27)

東尾根のL6グリッド北東、標高49.7mに位置する。ホワイトローム層上面で検出した。平面形は円形で、断面形は下層で段を有し、段から上面にかけて内湾気味に立ち上がり開口部へ至る。底面ピットを有する。規模は遺構上面で径0.84~1.00m、底面で径0.51~0.56m、検出面から底部までの深さは1.00mを測る。本来の遺構掘削面付近では検出できず、開口部を失っている。埋土は黒色土を



第58図 遺構外出土遺物（縄文土器）

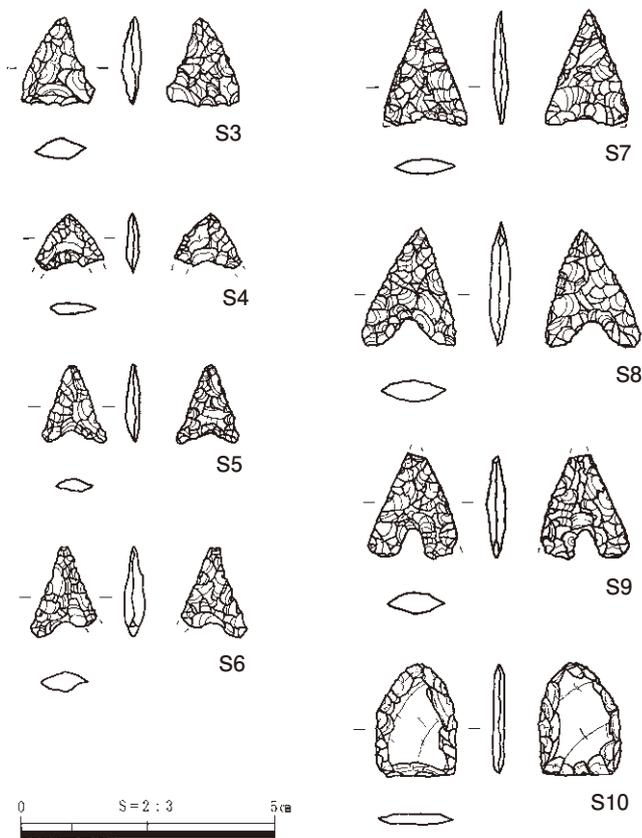
主体とする。

遺物は出土していない。埋土及び形態の特徴から縄文時代の落とし穴と考える

3 遺構外出土遺物(第58・59図、PL.37)

縄文時代の遺物は土器・石器がI層から出土している。土器は小片がわずかに出土している程度であり、実測可能な個体を掲載する。石器は石鏃のほか、黒曜石の剥片が出土している。

1はポジティブな楕円押型文である。黄鳥式で久保穰二郎氏の第II期に該当する。2・3は外面に2条の爪形文が施される北白川下層式の資料。4・5は外面に沈線文と撚糸文が施されている。里木式に該当する中期後葉の資料。6は外面に貝殻条痕、7は外面に0段の撚りの撚糸文が施されている。8は外面に縄文が施されている口縁部片。9・10は粗製土器の口縁部片。11～13は底部片で、12は尖底である。7や11は



第59図 遺構外出土遺物(石鏃)

第3章 調査の成果

1の押型文と同時期のものであろう。

縄文時代の落とし穴の時期は、放射性炭素年代測定によって前期との結果が出ており(第4章)、当該期の遺物としては2・3に関連がうかがわれる。

S3～S9は黒曜石製、S10はサヌカイト製の石鏃である。S3・S10は平基式、S4～S9は凹基式である。S5・S7は抉りが浅いもので、S6・S8・S9は抉りの深いもの。

第3節 奈良時代の調査

1 概要

奈良時代の遺構では、掘立柱建物跡を2棟、土坑1基を検出した。これらの遺構は、遺物を含む暗褐色土系の包含層下の黄褐色土層にて検出した。遺構に伴う遺物は乏しいが、包含層には縄文時代と弥生時代の遺物が数点、奈良時代の遺物を多数確認している。土器が示す時代の下限は奈良時代まで認められ、遺構周辺からはおもに奈良時代の遺物が出土している。以上の状況や、遺構の性格と特徴より奈良時代の遺構と判断した。

掘立柱建物跡は、調査地北西部端の西尾根丘陵平坦面から谷へと移る比較的緩やかな傾斜面に位置する。掘立柱建物跡1の柱穴からは鉄滓、掘立柱建物跡2内からは焼土範囲を中心に鍛造剥片や粒状滓を確認しており、鍛冶に関連する施設であったと考える。また、焼土と炭を伴う土坑を検出している。

全体的に遺構は希薄であるものの、遺構外出土遺物の量が多い。遺物については須恵器片が多量に出土しており、中には密集して出土した箇所も確認していることから、近隣に集落が存在する可能性がある。なお、一般国道9号名和淀江道路建設工事に伴い、平成20年度に大山町教育委員会が試掘調査を実施している。調査地丘陵の平坦面に設定したトレンチ3にて列状のピット6基を検出し、掘立柱建物跡1棟として報告している。本調査の結果、柱穴とされたのは根等の攪乱であり、丘陵平坦面では遺構は存在しないことを確認した。

2 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡1 (第60・61図 表4 PL.28～30)

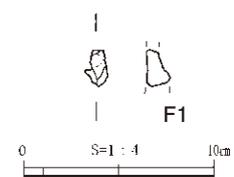
西尾根の北東端C9・C10グリッド、標高49.6～49.9mに立地する、桁行2間(3.91～4.00m)、梁行2間(2.94～3.08m)を測る掘立柱建物跡で、平面積は約12㎡を測る。立地する丘陵の傾斜に沿って建てられており、主軸方向はN-36°-Eを示す。建物を構成する柱穴の規模は長径0.5～0.6mの平面円形または楕円形を呈し、深さは0.3～0.5mを測る。柱穴間の距離は桁行間で1.9～2.1m、梁行間で1.3～1.6mを測る。また、掘立柱を構成するすべての柱穴に柱痕を確認しており、柱痕幅は0.15～0.25mを測る。

F1は鉄滓片でP6から出土した。そのほか、P5の埋土から鍛造剥片、P4の埋土中からも鉄滓片と土師器小片が出土している。

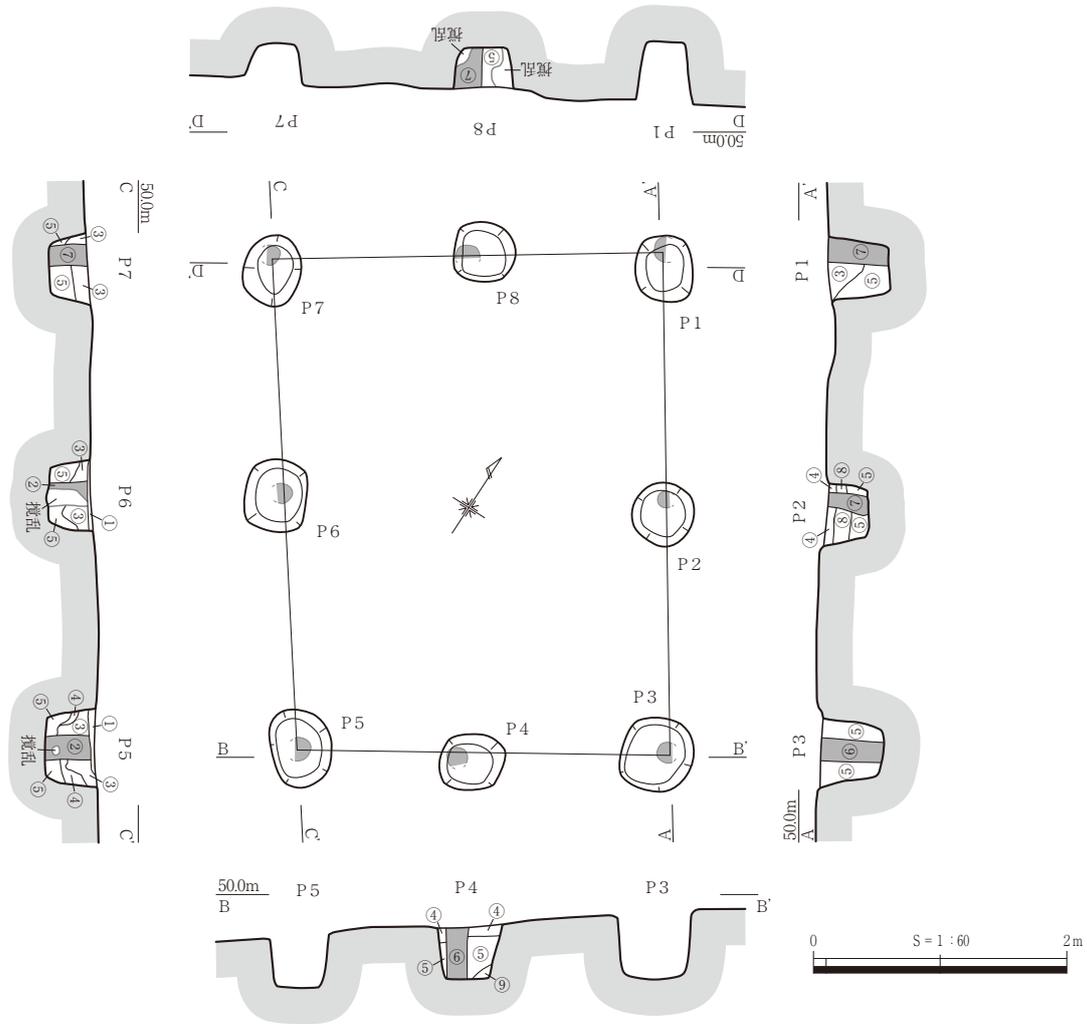
本遺構は奈良時代を下限とする黄褐色土層から掘り込まれてい

表4 掘立柱建物跡1柱穴一覧

番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)
P1	C9	47～53	49
P2	C9	50	34
P3	C10	56～60	50
P4	C10	45～50	41
P5	C10	49～62	40
P6	C9・C10	50～57	35
P7	C9	45～58	30
P8	C9	48	32



第60図 掘立柱建物跡1出土遺物



- ①暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり。しまり弱い。鉄滓を含む。
- ②暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや弱い。しまり弱い。黄褐色土の粒子を含む。炭を微量に含む。鉄滓を含む。[柱痕]
- ③暗褐色土 (10YR3/4) 粘性強い。しまり強い。径5mm大の明赤褐色粒を微量に含む。
- ④黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまり強い。径5mm大の黒色粒を含む。炭を微量に含む。固くしまる。
- ⑤黄褐色土 (10YR5/6) 粘性強い。しまり強い。径5mm大の黒色粒とロームブロックを含む。固くしまる。
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまり弱い。黄褐色土の粒子を含む。径3mm大の黒色粒を含む。[柱痕]
- ⑦褐色土 (10YR4/4) 粘性やや弱い。しまり弱い。黄褐色土の粒子を含む。[柱痕]
- ⑧褐色土 (10YR4/4) 粘性強い。しまり強い。⑤層に相当 (⑤層より若干黒みをもつ)
- ⑨黄褐色土 (10YR5/8) 粘性強い。しまり強い。ソフトローム由来土。

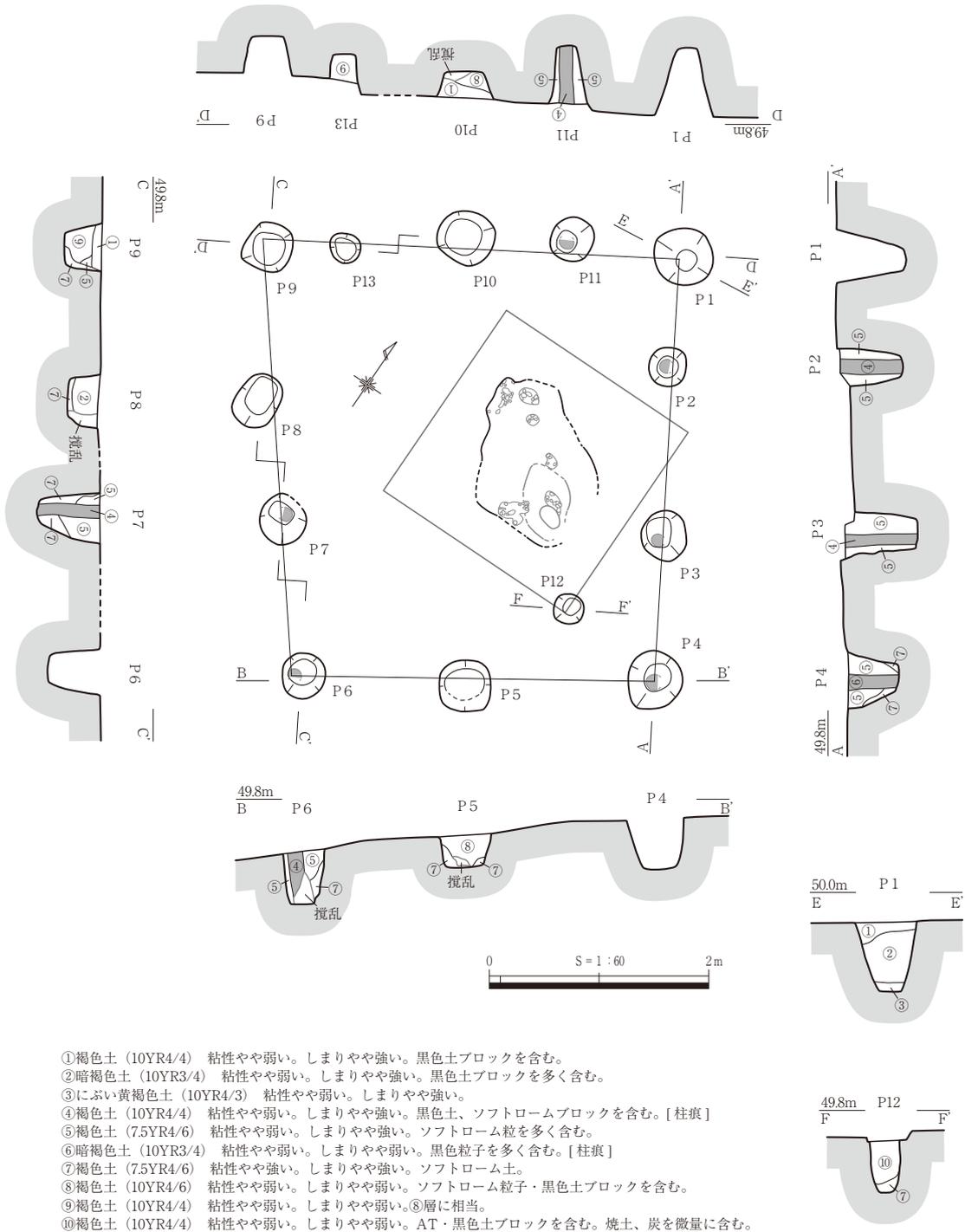
第61図 掘立柱建物跡 1

る。遺構外出土遺物の多くが8世紀代に集中することを参考にすれば、本遺構も8世紀代のものと考えたい。また、柱穴内から鉄滓が出土していることから、鉄関連遺物を伴う掘立柱建物跡2よりも後出するものとする。遺構の性格については、掘立柱建物跡2と近接し、主軸方向をほぼ同じにすることから、掘立柱建物跡2に付随する施設であったと考える。

掘立柱建物跡2 (第62～68図 表5 PL.31～33・45)
西尾根の北東端C10グリッド、標高49.3～49.7mの

表5 掘立柱建物跡2柱穴一覧

番号	グリッド	径(cm)	深さ(cm)
P 1	C10	52～54	65
P 2	C10	35	58
P 3	D10	41～45	65
P 4	D10	50～56	46
P 5	C10	46～48	28
P 6	C10	40～42	48
P 7	C10	42～46	57
P 8	C10	38～52	27
P 9	C10	40～45	34
P 10	C10	50	25
P 11	C10	38～42	53
P 12	D10	26	47
P 13	C10	25～30	25



第62図 掘立柱建物跡2

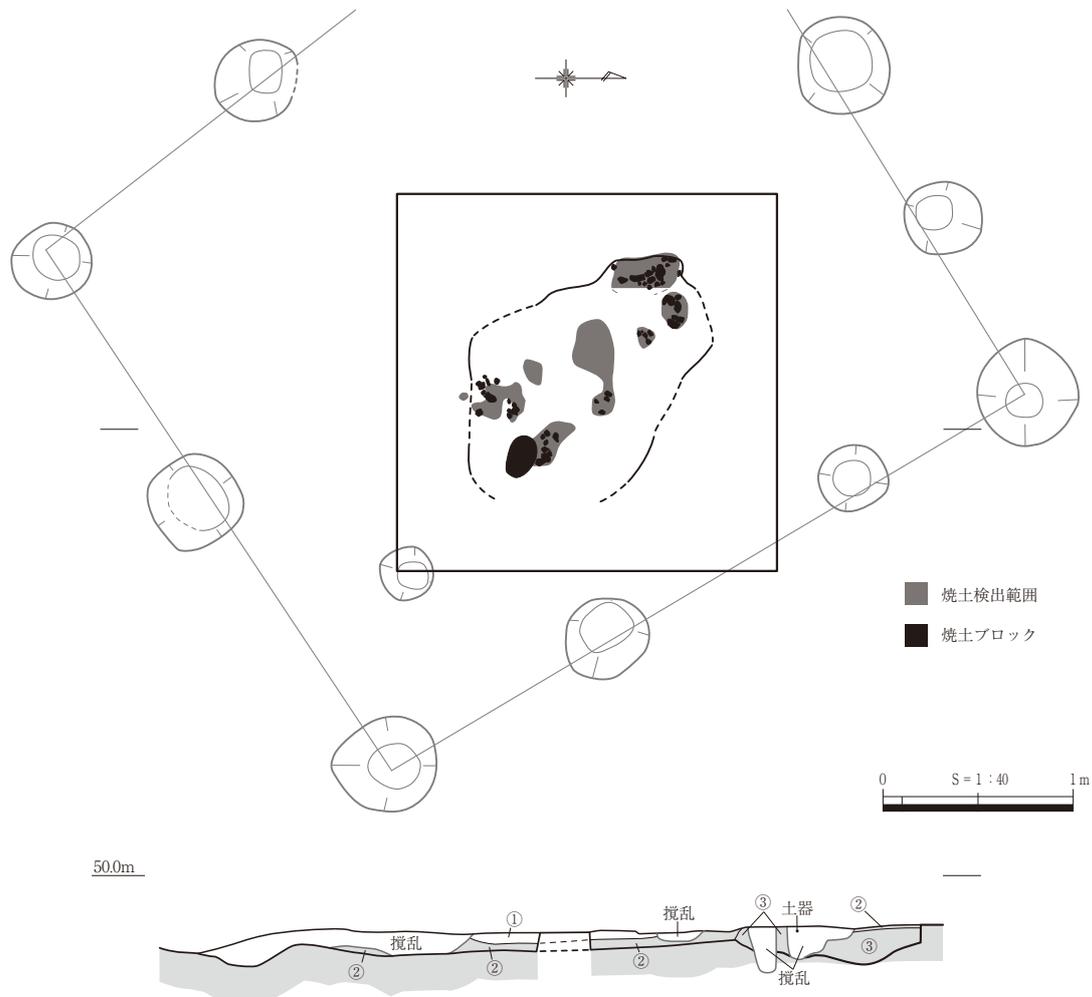
緩斜面に位置する。梁行2～4間(3.31～3.80m)、桁行3間(3.802～4.02m)の掘立柱建物跡で、平面積は約14.8㎡である。主軸方向はN-35°-Eを示し、掘立柱建物跡1と同様に丘陵の傾斜に沿って立地する。柱穴は13基検出しており、この内P1～P11・P13が建物を構成する柱穴である。柱穴の規模は長径0.3～0.4mの平面円形または楕円形を呈し、深さは0.3～0.6mと柱穴によっては差が大きい。柱穴間の距離は統一されておらず、柱穴が並ぶ軸にも歪みがみられる。また、梁行間については、南東側の梁行間は柱穴が3つ並ぶのに対して、北西側の梁行間は柱穴が5つ並び、柱穴の配置や数が異なる。そのため、北西側の梁行間が長くなり、平面は逆台形状になっている。P12は建物内に

みられるもので、P3～5に近接する。径の小さな柱穴で補助的な役割をもつものと考えられる。柱穴の埋土は遺構検出面とほぼ同じ黄褐色土を中心とする。P2～4・6・7・11には柱痕が確認でき、柱痕幅は、0.1～0.14mを測る。

帰属する時期については、掘立柱建物跡1と同様に奈良時代を下限とする黄褐色土層から掘り込まれていることから、8世紀代のものと考えたい。また、本遺構の特徴として、掘立柱建物内に焼土を検出しており、焼土の周辺から鉄関連遺物が出土していることがあげられる。鉄関連遺物には鍛冶滓のほか、粒状滓や鍛造剥片が出土しており、鍛冶に関連する施設であったと考える。

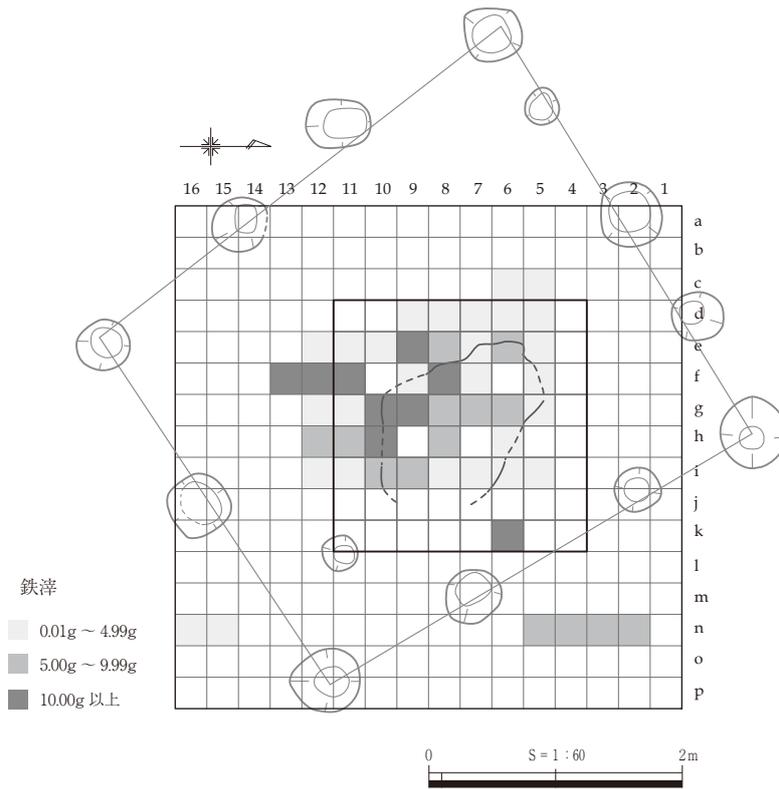


写真7 掘立柱建物跡2 焼土分布範囲調査風景

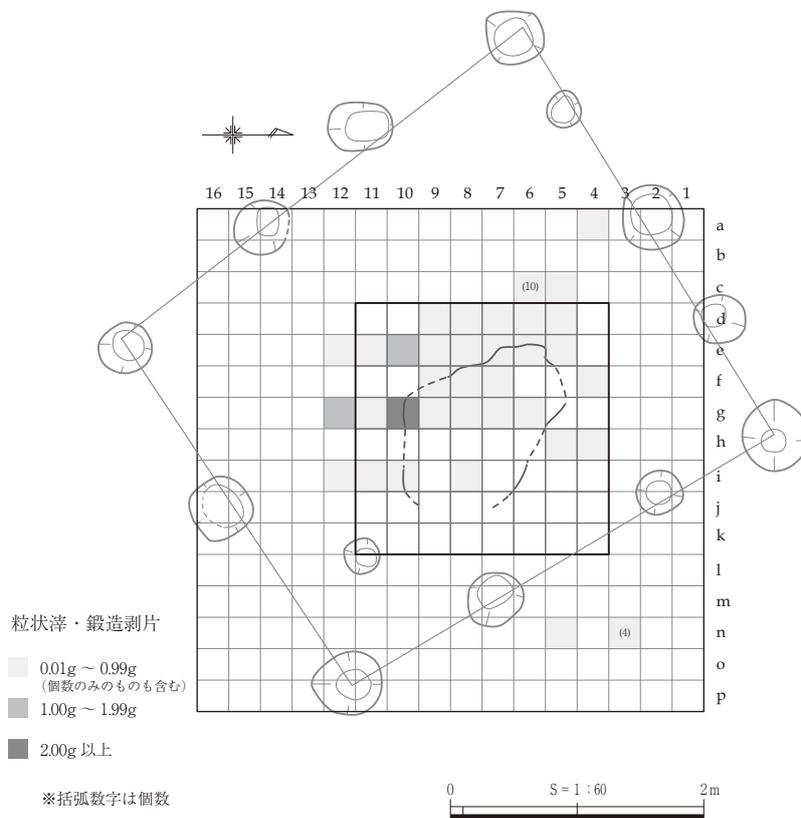


- ①暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや弱い。しまりやや強い。焼土塊と径1cm以下の黒色粘土塊を含む。径5mm以下の黒色粒(炭か?)を微量に含む。
- ②褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまりなし。黄褐色土Bに類似するが、遺物(土器・鉄滓・鍛造剥片)と径5mm以下の焼土ブロック・炭を含む。
- ③明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性やや強い。しまりあり。II層相当。

第63図 掘立柱建物跡2 焼土分布範囲



第64図 掘立柱建物跡 2 鉄滓出土位置



第65図 掘立柱建物跡 2 粒状滓・鍛造剥片鉄滓出土位置

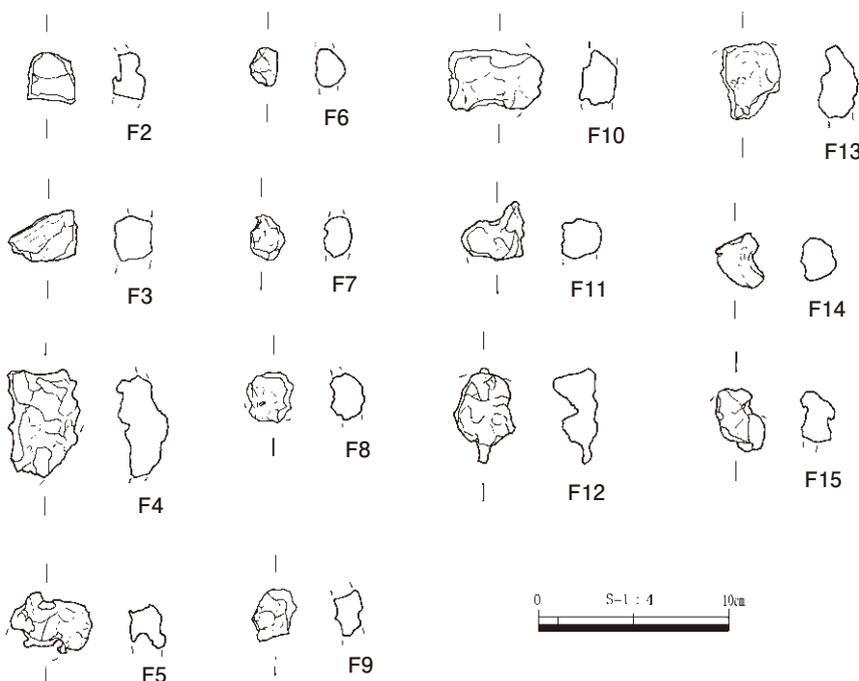
表6 掘立柱建物跡一覧

新遺構名	検出面	形態	規模		面積	主軸方向
			梁行	桁行		
掘立柱建物跡1	Ⅱ層	2間×2間	2.94~3.08m	3.91~4.00m	12.0㎡	N-36° -W
			2.94~3.08m×3.91~4.00m			
掘立柱建物跡2	Ⅱ層	2間×3間	3.31~3.80m	3.88~4.02m	14.1㎡	N-35° -W
			3.31~3.80m×3.88~4.02m			
土坑46	褐色土		1.95×1.00			

掘立柱建物跡2の中に焼土の広がりを確認した。建物内の中央やや東寄りに位置し、P2・3・12に近接する。検出面は掘立柱建物2と同じく黄褐色土層及び褐色土層にて検出している。焼土の広がり、掘立柱建物跡2の周辺から鉄滓や羽口、金床石を確認したことから鍛冶に関連する遺構であることがわかった。また、鍛造剥片を検出したことから鍛冶炉である可能性が考えられ、おもに焼土ブロックと黒色粒土が広がる範囲を焼土分布範囲として調査を進めた。また、微細遺物が含まれている可能性があることから、焼土分布範囲を中心に一辺4mで区画し、25cmメッシュを設けて土壌サンプリングを行った。

焼土分布範囲は平面不整楕円形を呈し、長幅1.5m、短幅1.1mを測る。平面検出の際、一部にしまりが強く赤黒くくすんだ箇所を確認した。被熱によって硬化した遺構の底面とも考えたが、全体的に大小の焼土ブロックと黒色粒土や鉄滓・微細遺物が混在しながら広がる状況から、本来の形は崩壊し流出していると考えた。土層断面からも、遺構検出面である褐色土層及び黄褐色土層と焼土分布範囲の土との境が不明瞭な部分が多く、明確な掘り込み面が確認できなかった。具体的な理由はわからないが、掘立柱建物跡2を含め、黄褐色土層上面が大きく乱れていることに起因すると考える。

調査の際、焼土分布範囲に設定したグリッドから採取した土壌サンプルから、微量ながら微細遺物を確認することができた。土壌サンプルはおもに、焼土分布範囲を囲んだd~k、4~11の一辺2m区画を中心に分析を行った。その結果、鍛冶滓片は総重量が531.44g、鍛造剥片・粒状滓では総重量10.79gを確認した。

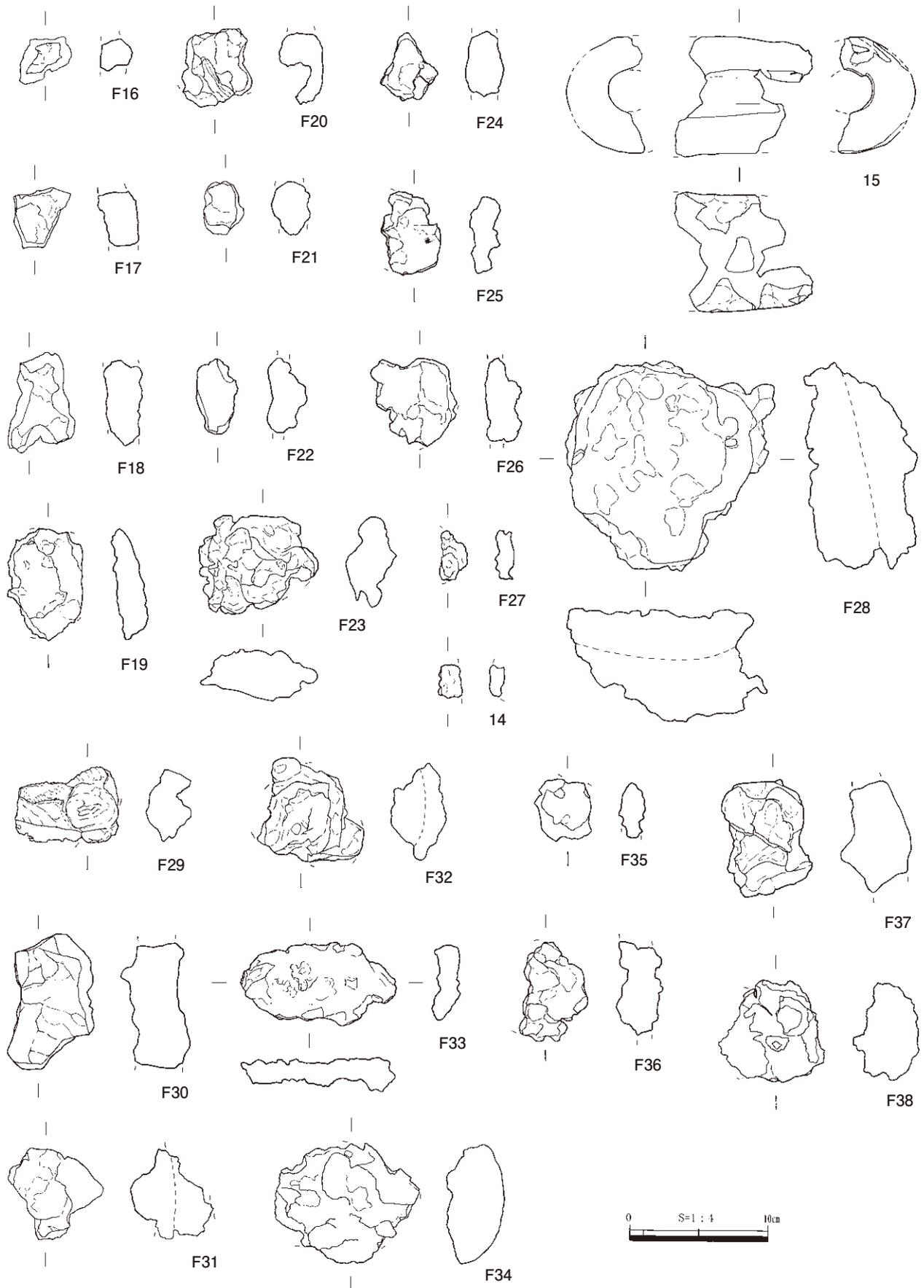


第66図 掘立柱建物跡2出土遺物

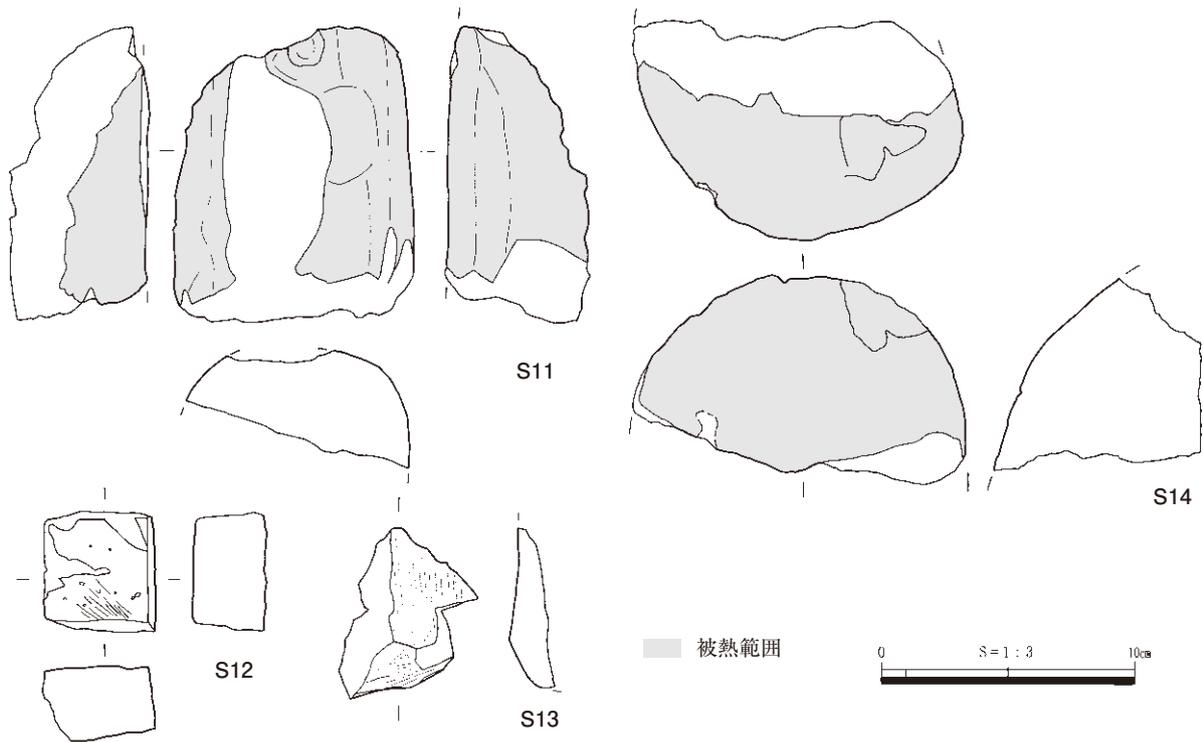
分析の結果、鉄滓は焼土分布範囲の中心に集中する。鍛造剥片・粒状滓については、焼土分布範囲の南半分に広がりをみせる。限定的な範囲での微細遺物の検出であるが、検出の状況から焼土分布範囲を中心として、縁辺は比較的出土量が少なくなると思われる。

また、掘立柱建物跡2と焼土分布範囲の位置関係や立地場所も含めて南西側に広がるものと推測する。

以上、焼土分布範囲の検



第67図 掘立柱建物跡2周辺出土鉄関連遺物(1)



第68図 掘立柱建物跡2周辺出土鉄関連遺物(2)

出とともに、鍛造剥片・粒状滓を検出したことから、焼土分布範囲は鍛冶炉であったと考える。すでに遺構は崩壊した状態であったが、焼土分布範囲として比較的まとまって捉えることができたことから元位置に近いのかもしれない。また、検出時に確認した黒色粒土はカーボンベットであり、硬化した土は遺構の底面の一部であったと考えられよう。また、掘立柱建物跡2は鍛冶炉に伴う建物であり、小規模な鍛冶工房であったと推測する。

鍛冶関連遺物では、鍛冶滓・粘土質溶解物・流出溝滓・羽口・砥石・被熱石が出土している。遺構に伴う遺物が少なく、遺物包含層からの出土がほとんどであり、出土した鉄関連遺物は約190点、総重量は約9kgを測る。本調査で確認できた鉄関連遺物については、全容を把握するために、残りが比較的良いものや代表的なものを選び出し「鉄関連遺物集計表」と「鉄関連遺物構成図」にまとめた。

F 2～13は椀形鍛冶滓の極小片である。F 14・15は粘土質溶解物である。

F 16～29は包含層である暗褐色土層からの出土である。F 16・17は流出溝滓。F 18～27は中型から極小サイズの椀形鍛冶滓である。14・15は羽口である。14は先端部で、表面は滓化発泡している。15は先端部から体部付近まで残る。先端部は滓化発泡がみられ、内部では髓抜き棒による抜き取り痕が残る。どちらも掘立柱建物跡2付近から出土している。

F 28～38は西側斜面部黒褐色土層からの出土である。F 29・30は流出溝滓で、F 28・F 31～36は特大～極小サイズの椀形鍛冶滓である。この内、完形出土が2点あり、F 33は楕円形状の中型椀形鍛冶滓、F 28は円形状の特大椀形鍛冶滓で、重層が確認できる。その他、F 31・32でも重層が確認できた。S 11～13は砥石である。この内S 12は凝灰岩製、S 11・13は花崗岩製で、被熱赤化している。

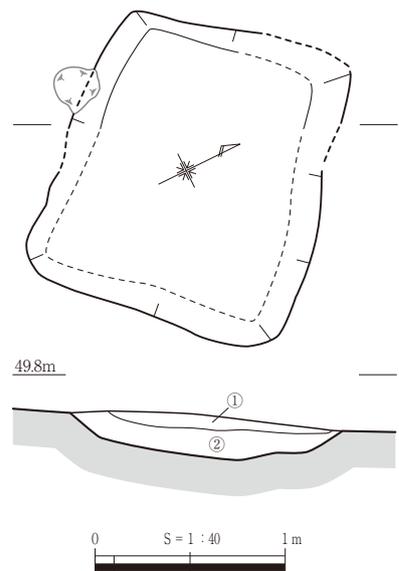
その他、F 37・38は椀形鍛冶滓である。S 14は金床石と考える。表面が被熱により、赤化または黒化している。一部表面が剥離をしており、ハジケ状の剥離痕の可能性はある。いずれも詳細な出土地・層位が不明の遺物である。

3 土坑

土坑45 (第69・70図 PL.34)

調査地丘陵の中央H 8グリッド、標高49.6mの緩やかな傾斜面に位置する。遺構は暗褐色土層を掘削後、黄褐色土層から黒褐色土層の漸移層で検出した。平面方形の遺構で、長さ1.6m、幅1.4m、検出面からの深さ0.22mを測る。埋土は灰黄褐色土と黒褐色土の2層に分かれる。埋土1層は炭とともに焼土を含み、埋土2層は炭を多量に含む。特に遺構の底面を中心に炭の量が多くなる。遺構の性格は、火を扱った遺構である以外は詳細な内容は不明である。

遺物は埋土2層から1点出土している。14は須恵器の坏底部で、底部には回転糸切りが残る。時期は8世紀代の年代を考える。



①灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の炭を微量に含む。焼土を含む。
②黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱い。しまりあり。径5mm以下の炭を多量に含む。炭層。須恵器を含む。

第69図 土坑45

4 遺構外出土遺物 (第71~75図 PL.38~43)

本調査において、8世紀代に属す土師器・須恵器が多量に出土している。おもに包含層である暗褐色土層からの出土である。17~19は土師器の坏口縁部で、内外面に赤色塗彩されている。20は土師器の坏底部で、外面に赤色塗彩が確認できるが、内面は風化のため不明である。21~28・31は土師器の甕である。21・22は大きく外反する口縁部で、23~28・31は緩やかに外反する口縁部である。29は土師器の鍋である。31は製塩土器で、器壁は薄く、口縁部は指オサエにより屈曲する。



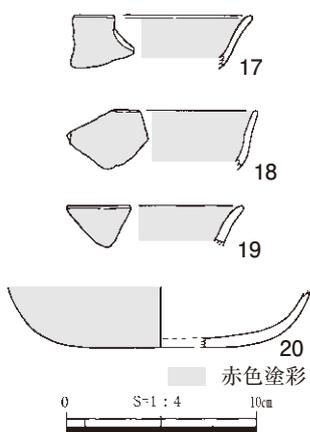
16



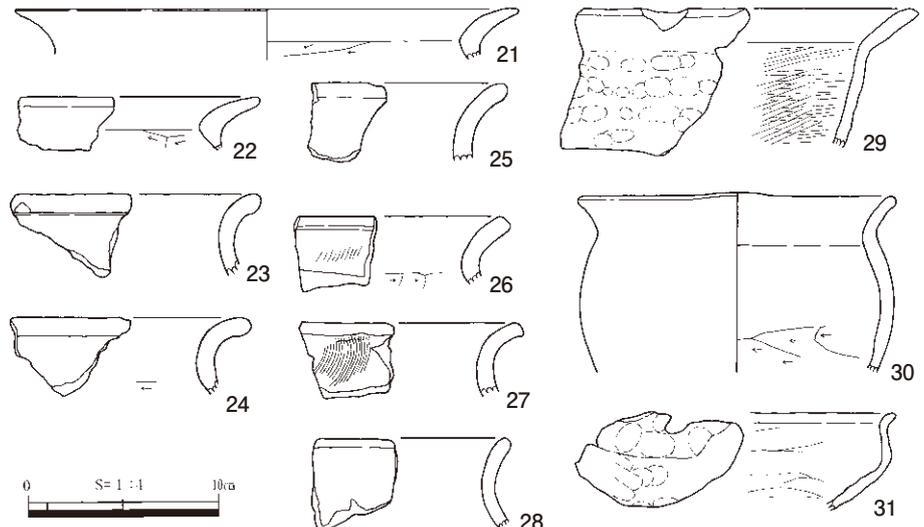
S=1:4 10cm

第70図 土坑45出土遺物

32~63は須恵器の坏である。この内、32~44は口縁部が屈曲する。33・34のように屈曲が弱く、口縁部が内傾するものや、37・44のように口縁部の屈曲が強いものがみられる。器高は比較的到低いも



第71図 遺構外出土
土師器(1)



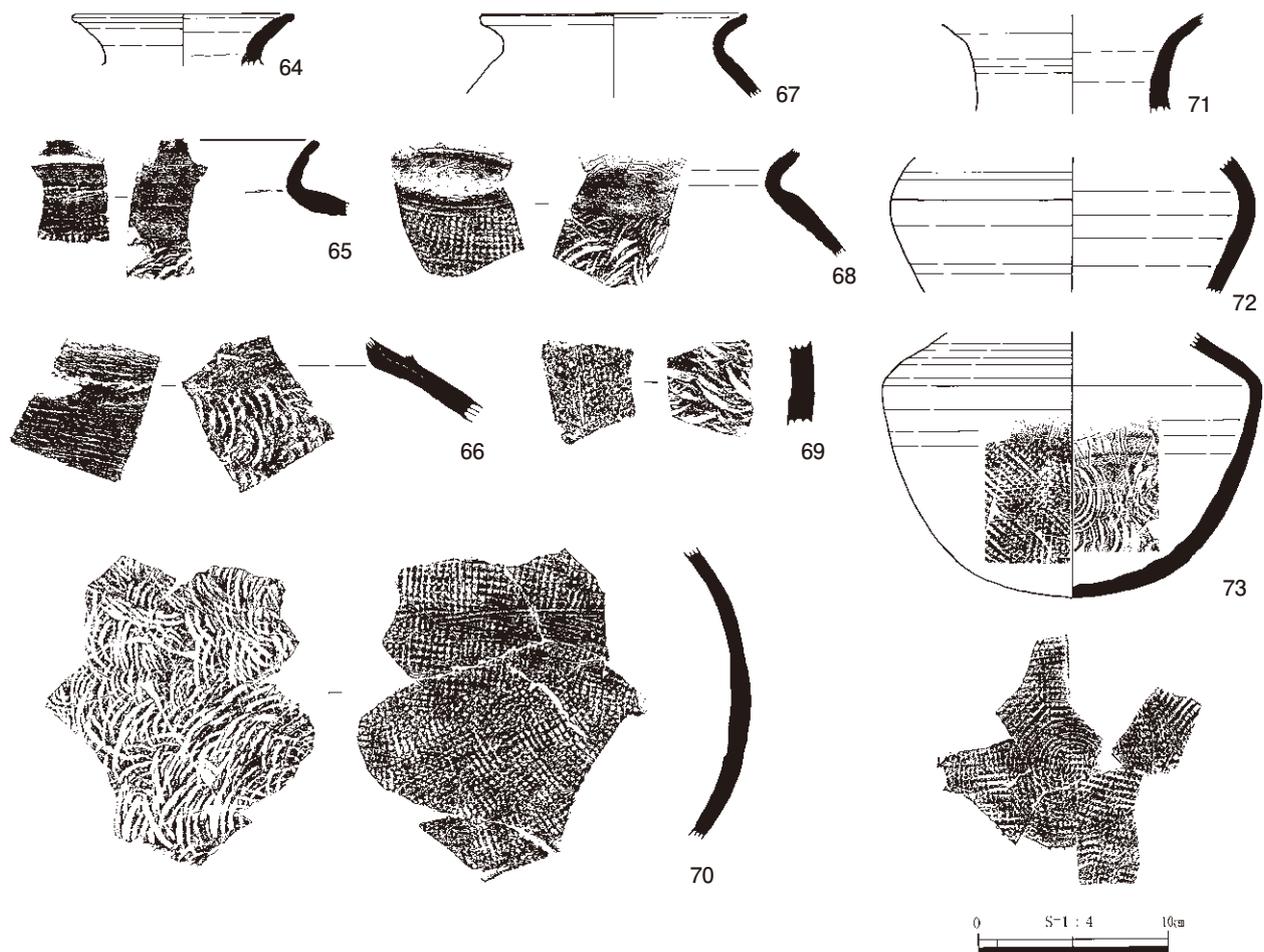
第72図 遺構外出土土師器(2)



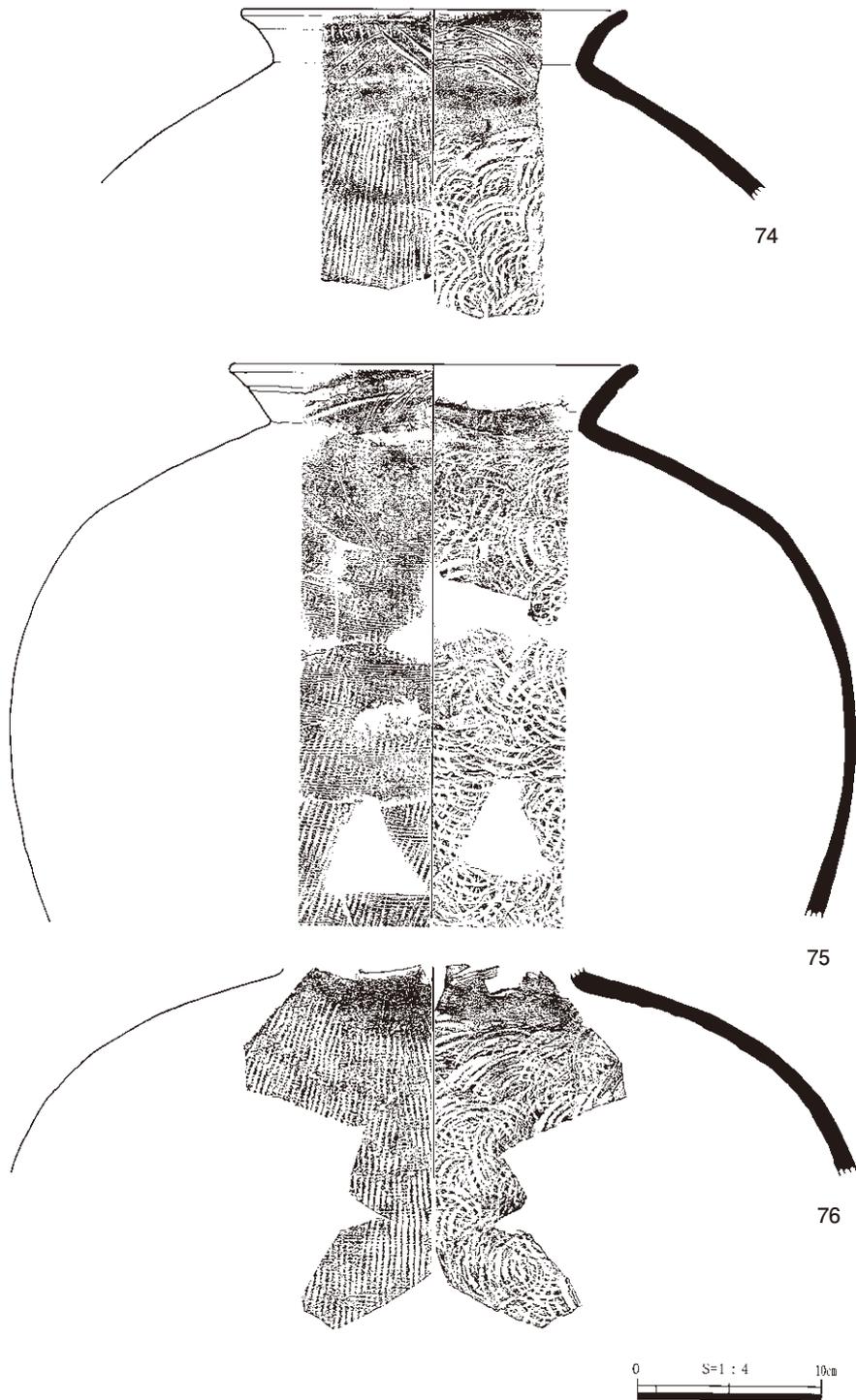
第73図 遺構外出土須恵器(1)

のが多く、底部には回転糸切り痕が残る。体部は丸みをもつものと、やや直線的に上方に伸びるものがある。45～50は口縁部が屈曲せずに、緩やかに上方に伸びる坏である。また口縁部は内傾気味でおわり、体部は丸みをもつ。底部は49の回転糸切り痕を残すものと、46・47・50のように静止糸切り痕を残すものがある。50は坏の中でも比較的大きく、内外面の調整が丁寧である。51・52は口縁部が内傾も屈曲せずに、斜め上方へ伸びる口縁部である。口縁部の傾きから高台坏の可能性はある。53・54は高台坏の底部である。54は回転糸切りによる底部糸切り後に高台を接合する。55～63は坏の底部片で回転糸切りによる底部切り離される。

64～70・74～76は須恵器の甕である。64・67は口縁部片で内外面には回転ナデが施される。68は口縁端部を欠損するもので、65と同様に外面には格子目タタキ、内面には同心円文の当具痕が施される。66は頸部付近の破片で、口縁部が頸部から剥離しており接合面が露出している。外面には平行タタキが施されている。69・70は甕の体部片で、外面は格子目タタキ、内面は同心円文の当具痕が施される。69は外面がにぶい橙色で焼成不良であるが、内面は灰色で硬質に焼きあがっている。74～76は比較的に残りがよく、おおよその規模がわかる資料である。74は肩部がなで肩、75・76は肩部が広めで体部へと緩やかな曲線を描く。71は須恵器の壺もしくは甕の頸部である。72は壺または甕の肩部である。傾きから第74図に示した形を推測するが、ヘラケズリ調整が肩部より上に施されることから、上下が逆の可能性はある。73は甕もしくは瓶の頸部から底部である。外面底部は格子目タタキの後に



第74図 遺構外出土須恵器(2)



第75図 遺構外出土須恵器(3)

カキ目を施す。肩部付近は回転ナデ調整、器種は断定できない。

以上、出土した土師器・須恵器には、確認できた器形や調整から時期差があまりないものと考えられる。細かくみれば、44の坏のように口縁部が屈曲し、体部が張るものや、53の高台坏の高台部分が厚く、底部に対して直角に接続する古い様相を示すものと、58の坏のように口縁部に屈曲をもたないものや、54の高台坏では高台は薄く周縁部につくとといった新しい様相を示すものがあるが、坏以外でも大きく時期を逸脱するようなものはみられず、おおよそ8世紀前半代のものと考えられよう。

第4節 時期不明の遺構・遺物

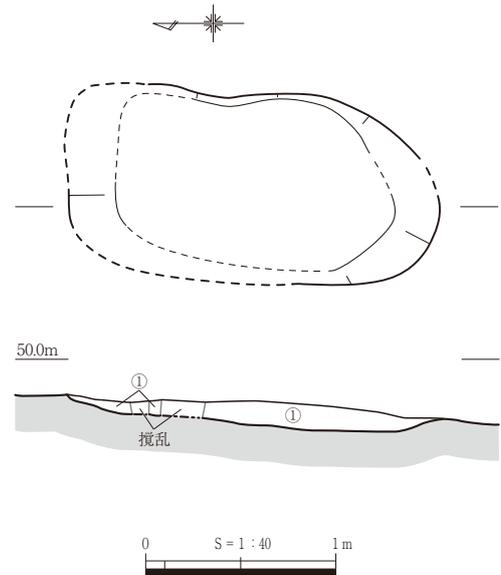
1 概要

遺物を含まない、または遺構の掘り込み面が不明なため時期を確定できない遺構として土坑4基、溝1～12条、焼土1を確認した。また、遺物は包含層から古代を中心とした遺物が出土しているが、わずかながら弥生時代と中世の遺物も確認している。

2 土坑

土坑46（第76図）

調査地丘陵の北西端D10グリッド、標高49.7mの緩斜面に位置する。掘立柱建物跡2内にあり、P3～5と接し、P12と重なる。平面楕円形状の土坑で、規模は長さ1.95m、幅1m、検出面からの深さは0.12mを測る。埋土は暗褐色土の単層で、埋土中には5cm大の炭を多量に含んでいた。遺物は土師器を複数確認しているがいずれも小片のため時期は特定できない。遺構は、掘立柱建物跡2と焼土1の遺構面よりも上層の褐色土層を掘り込んでいることや、掘立柱建物跡2のP12を掘削していることから古代よりも新しい遺構である。遺構の性格は不明である。

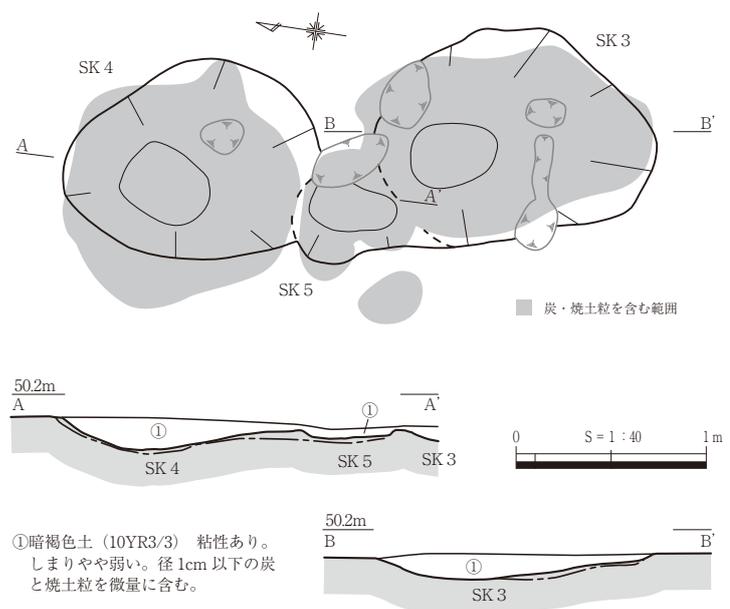


①暗褐色土（10YR3/4）粘性やや弱い。しまりあり。長さ5cm大の炭を多量に含む。土器片を含む。

第76図 土坑46

土坑47～49（第77図）

調査地丘陵の北東端D10・11グリッド、標高50.0～50.1mの緩やかな傾斜面に位置する。包含層である暗褐色土を掘削後、黄褐色土層にて平面不整形に広がる炭と焼土粒を含む範囲を確認した。この炭と焼土粒を含む範囲は遺構内外や周辺に確認していたが、遺構精査の段階で消滅した。炭と焼土粒の範囲はおもに遺構の上部に薄く広がっていたと考える。遺構の精査後、大小の不正楕円形状を呈した遺構が南北に並び、一部重なった状態で検出した。遺構は平面形からいくつか括れることがわかり、それぞれ北側を土坑48、南側を土坑47、中央を土坑49とした。規模は土坑48が長

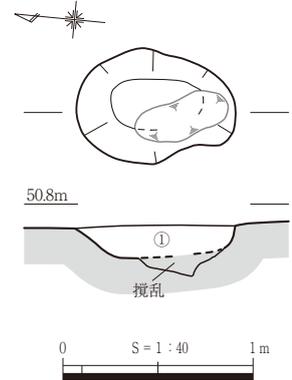


①暗褐色土（10YR3/3）粘性あり。しまりやや弱い。径1cm以下の炭と焼土粒を微量に含む。

第77図 土坑47～49

径1.34m、短径1.06m、検出面からの深さ、土坑47は長径1.48m、短径1.10m、検出面からの深さ、土坑49は長径0.50m、短径0.50m以上、検出面からの深さ、を測る。遺構は平面形と対応して個々に最深部を確認したが、埋土がすべて同じ暗褐色土であり、土層断面から各遺構の先後関係は確認できなかった。また、埋土はすべて暗褐色土であり、遺構の切り合い関係が明確でないため、各遺構の前後関係は不明である。本来は別々に掘り込まれた遺構であったが、埋土が同じことから同時期に埋没したと考える。そのため、各遺構は大きな時間差がなく、ほぼ同時期に掘り込まれた遺構と考える。

遺物は土坑49から須恵器が出土しているが、攪乱付近からの出土であることや、小片で時期判定できるものではなく、帰属時期は確定できない。また、遺構の性格も不明である。



①暗褐色土（10YR3/4）粘性あり。しまりあり。径1～10mmの炭化物を含む。径5～15mmの明黄白色粒を含む。

第78図 土坑50

土坑50（第78図）

調査地丘陵の南西端G11グリッド、標高50.7mの平坦面に位置する。A T層上面で検出した。平面楕円形状を呈し、規模は長径0.83m、短径0.6m、検出面からの深さは0.18mを測る。埋土は暗褐色土の単層である。

遺物は確認していない。遺構の時期や性格は不明である。

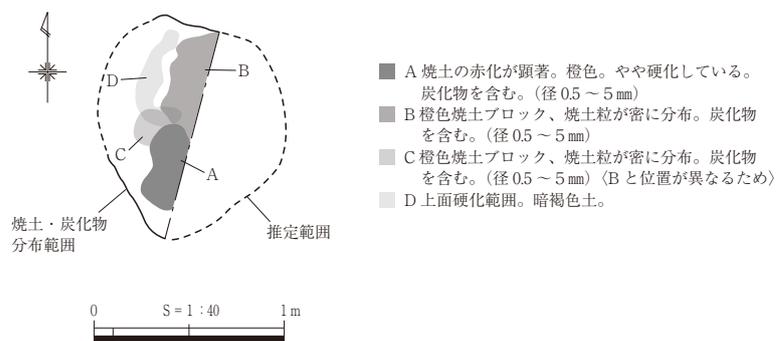
表7 時期不明の土坑一覧

遺構名	グリッド	平面	規模(cm)		深さ(cm)	底面規模(cm)	
			長幅	短幅		長幅	短幅
土坑46	D 9	楕円形	195	100	14	148	90
土坑47	D10	楕円形	150	110	12	45	32
土坑48	D10	楕円形	130	105	16	46	38
土坑49	D10・D11	楕円形	50～	40～	6	46	24
土坑50	G11	楕円形	82	60	18	50	24

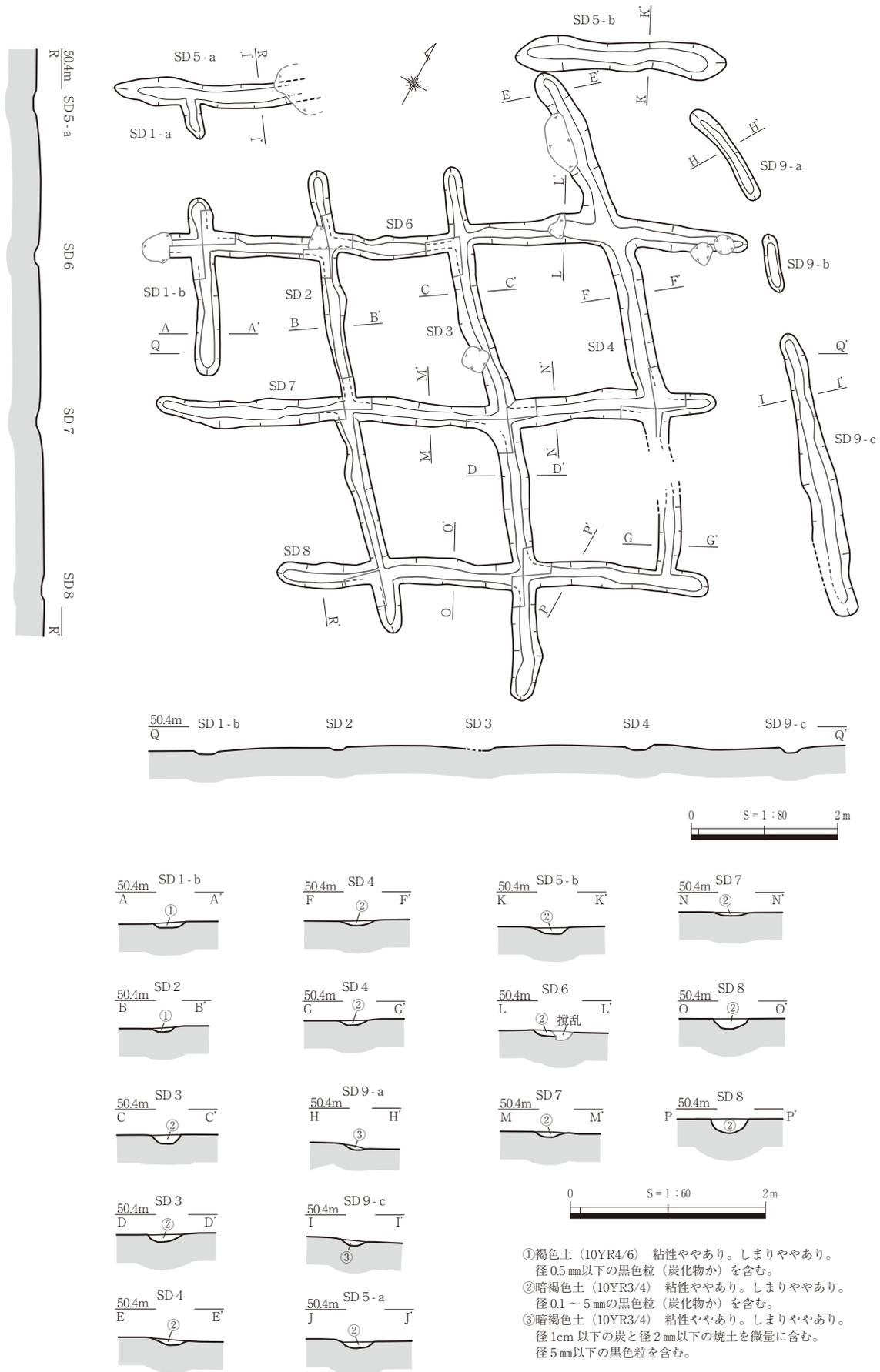
3 焼土

焼土1（第79図）

調査地丘陵の中央やや西側H9グリッド、標高50.6mの平坦面に位置する。包含層である暗褐色土層の掘り下げ中に黄褐色土層上面で焼土と炭化物が集中する範囲を確認した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.15m、短軸1.01mを測る。平面より焼土の赤色が顕著な範囲や、焼土ブロックと焼土粒が密にみられる範



第79図 焼土1



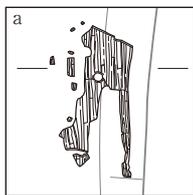
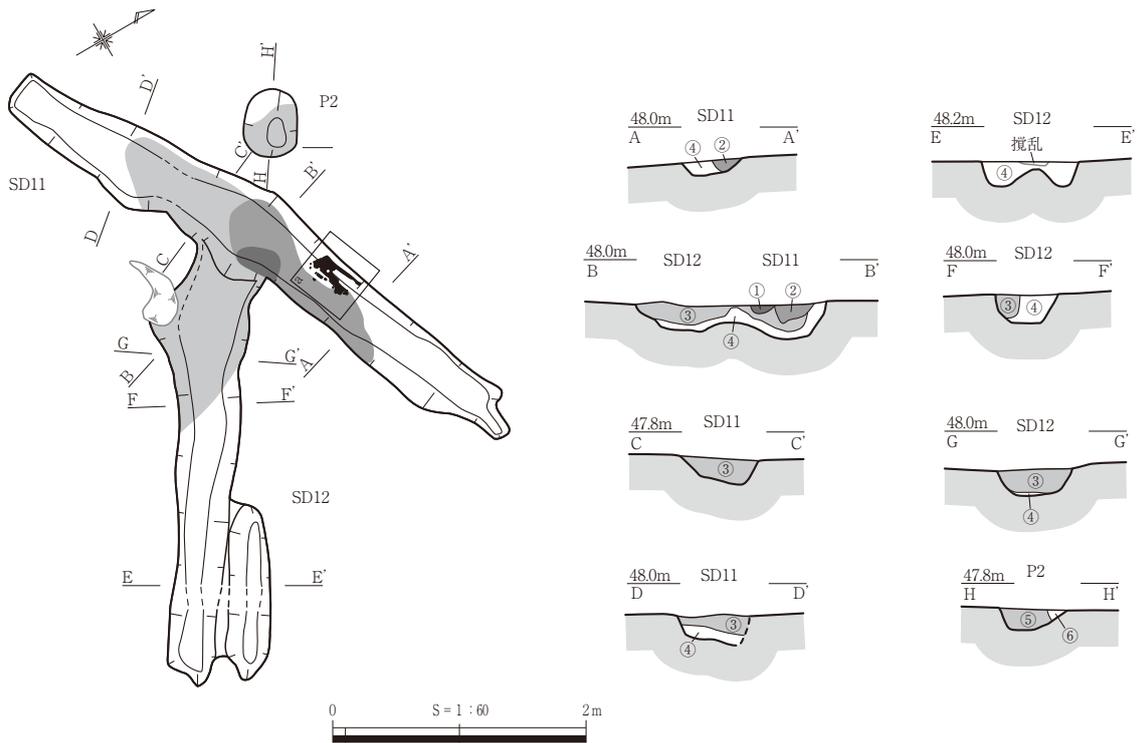
第80図 溝1～9

囲、上面が硬化した範囲を確認した。しかし、土層断面の観察では、焼土と炭化物を含んだ楕円形状の範囲の土と、検出面である黄褐色土層と区別ができず、明確な遺構の掘り込みは確認できなかった。遺物は出土しておらず、時期は不明である。また、性格についても不明である。

4 溝

溝1～9 (第80図 PL.35)

調査地丘陵の西端D9・E9グリッド、標高50.0～50.3mの平坦面に位置する。暗褐色土層の掘削後、黒褐色土層で検出した。丘陵でも比較的平坦な場所にあり、丘陵の尾根筋に合わせて立地する。



47.8m



0 S = 1 : 20 50cm

- ①黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径5mm以下の炭を含む。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径1cm以下の炭を含む。黄褐色土を微量に含む。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強い。しまりやや弱い。径1cm以下の炭を多量に含む。
- ④褐色土 (10YR4/4) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径5mm以下の炭を微量に含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径1cm以下の炭を微量に含む。(③と同じか)
- ⑥褐色土 (10YR4/6) 粘性やや弱い。しまりやや弱い。径5mm以下の炭を微量に含む。(④と同じか)

第81図 溝10・11

第3章 調査の成果

北東－南西方向に伸びる溝は4条、北西－南東方向に伸びる溝は5条あり、計9条の溝を確認した。各溝は直角気味に交差しており、格子目状に組み合う。規模については、長さは0.81m～7.93mを測り、おおよそ7m前後の長さがある。幅はいずれも20cm～30cm程である。検出面から深さは10cm程の浅いものであるが、溝4において包含層からの掘り込みを確認しており、本来は30cm前後の深さであったようである。各溝との間隔は、1.8m～2.0mあり、一定の間隔を設けている。埋土は単層であるが、溝によって埋土が異なり褐色土もしくは暗褐色土がみられる。また、漸移的に土色に変化しており、検出面と埋土の差が不明瞭で、明確に各溝の切り合い関係や遺構の掘り込みが確認できない。格子目状に組み合っているが、溝によっては途中で途切れていたり、曲がっていたりするため、歪んだ格子目を呈する。規模や埋土の状況のほか、規則的に溝がみられることから、溝は単体で存在するものではなく、数条集まってひとつの遺構を構成していると考えられる。

遺物は土師器小片や黒曜石片を確認しているが時期の特定には至らない。土層断面の観察より、本遺構は包含層である暗褐色土層からの掘り込みが確認できることから、比較的新しい時代の遺構と考える。

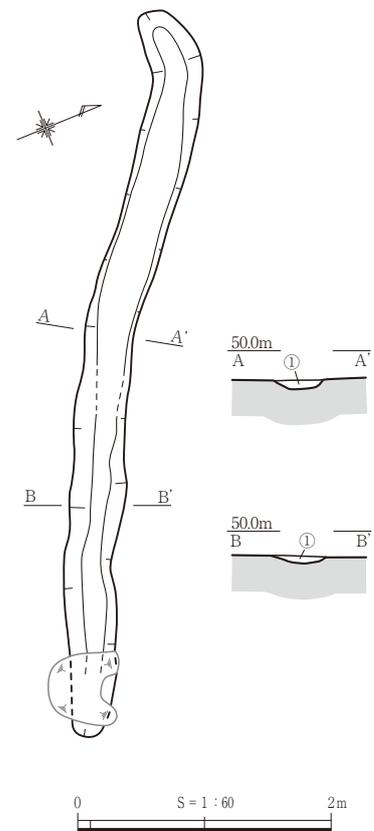
溝10・11（第81図 PL.36）

調査地中央やや東側H5グリッド、標高47.6～47.9mの谷筋に位置する。遺構は黒褐色土層掘削中に検出した。溝10は谷筋に直交するように北東－南西方向に伸びる。長さは4.8m、最大幅は0.6m、検出面からの深さは0.25mを測る。溝11は、谷筋に沿うように南東－北西方向に伸び、溝10の中腹あたりと接合する。長さは3.5m、最大幅0.80m、検出面からの深さは0.20mを測る。また、溝11の南東端には長さ1.4m、最大幅0.35m、検出面からの深さ0.20mの小さな溝が隣接する。埋土は4層に分けることができ、平面検出の段階から埋土は確認できた。おもに黒色系の埋土で全体的に炭を含む。また、溝10の埋土4層か長さ約40cm、幅約20cm、厚さ2cmほどの炭化物が出土した。かなり脆弱な状態であるため明確な加工痕は確認できないが板状の木材であった可能性がある。

土層断面の観察から、溝10と溝11の先後関係は不明である。ただし、平面検出時の埋土の広がり方や、土層断面からの埋土の状況より、溝10と溝11には共通の埋土が堆積しており、同時期に埋没したものとする。遺物は出土しておらず、詳細な時期や性格は不明である。

また、溝10に近接して、柱穴状の遺構を検出した。規模は長幅0.55m、短幅0.40m、検出面からの深さは0.15mを測る。溝10と溝11同様に埋土に炭を含むもので、同質の埋土である。

遺物は出土しておらず、詳細な時期や性格は不明である。



①暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性ややあり。しまりやや弱い。

第82図 溝12

表8 溝一覧

新遺構名	検出面	規模(m) 長さ×幅×深さ
溝1	Ⅲ層上面	2.35×0.32×0.07
		2.89×0.36×0.06
溝2	Ⅲ層上面	7.93×0.33×0.08
溝3	Ⅲ層上面	7.66×0.42×0.07
溝4	Ⅲ層上面	5.89×0.48×0.14
溝5	Ⅲ層上面	0.82×0.23×0.06
		2.45×0.33×0.05
溝6	Ⅲ層上面	6.45×0.32×0.06
溝7	Ⅲ層上面	7.44×0.41×0.12
溝8	Ⅲ層上面	7.42×0.48×0.07
溝9	Ⅲ層上面	1.49×0.22×0.04
		0.81×0.21×0.05
		3.98×0.26×0.05
溝12	Ⅱ層上面	5.86×0.40×0.07
溝10	Ⅲ層	4.75×0.56×0.19
溝11	Ⅲ層	3.45×0.49~0.76×0.21

溝12 (第82図 PL.36)

調査地中央やや東側 J 7・8 グリッド、標高49.6~49.9mの緩やかに傾斜する谷頭に位置する。遺構は黄褐色土層上面にて確認した。規模は5.8m、幅9.5m、検出面からの深さは10cmを測る。埋土は暗褐色土の単層であるが、溝1~9と同様に埋土は漸移的な変化がみられ、検出面と埋土の境が判然としない。

出土遺物は確認しておらず、詳細な時期や性格は不明である。

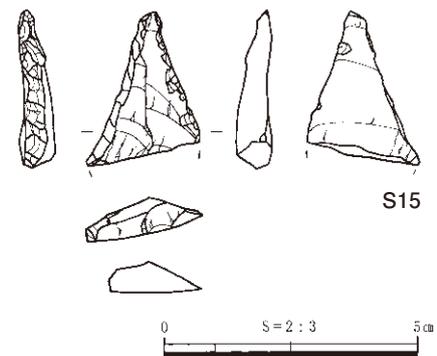
4 遺構外出土遺物 (第83~87図、PL.37・43・46)

旧石器時代及び時期の詳細が特定できない遺物を、遺構外出土遺物としてここで述べる。

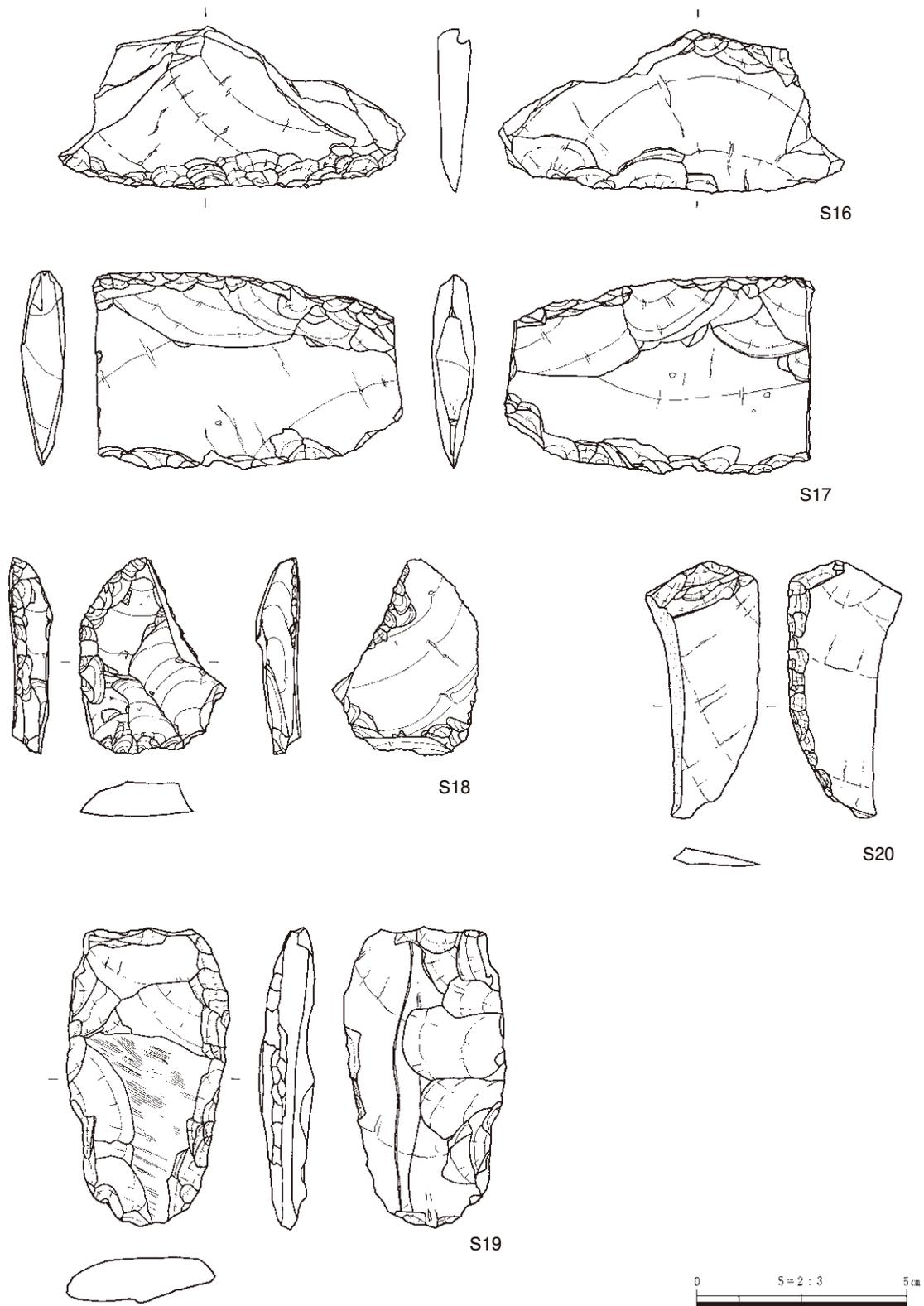
S15は玉髄製のナイフ形石器。S16・S17・S19・S20はサヌカイト製の削器。S19は一部を磨いている。S18は黒曜石製の二次加工のある剥片。調整体を製作中に折損したもの。尖頭器を意図したものか。

S21~S26は石錘である。S21~S24は打欠石錘、S25・S26は有溝石錘。S21が砂岩製、S26が角閃石安山岩製で、他はデイサイト製。S27~S29・S31・S32はデイサイト製の凹石。S28・S31は両面に、他は片面に凹部をもつ。S30はデイサイト製の磨石。S33はデイサイト製の台石である。

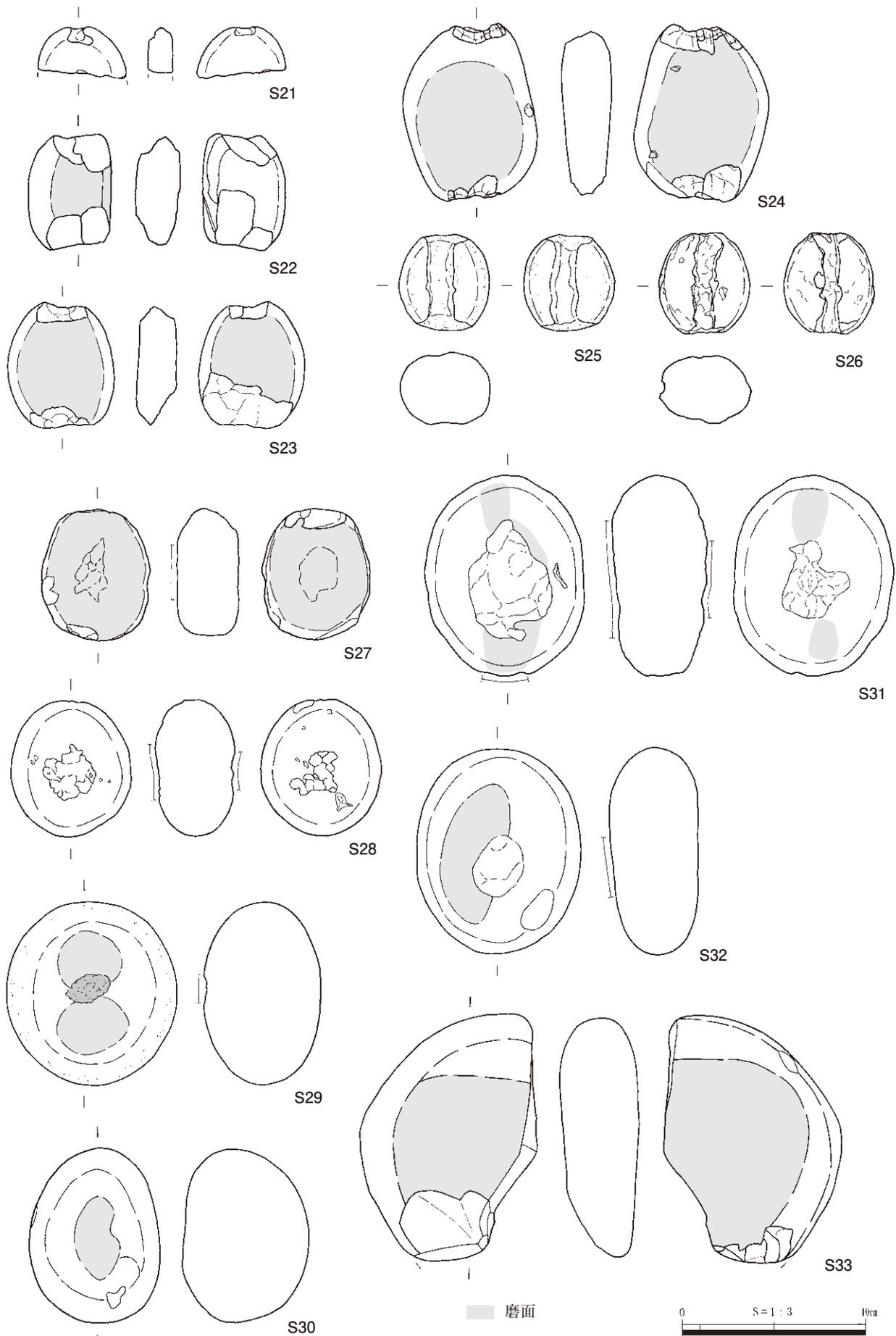
弥生時代の遺構は検出していないが、遺物が数点出土している。77・78は甕の口縁部である。77は器壁が薄いつく



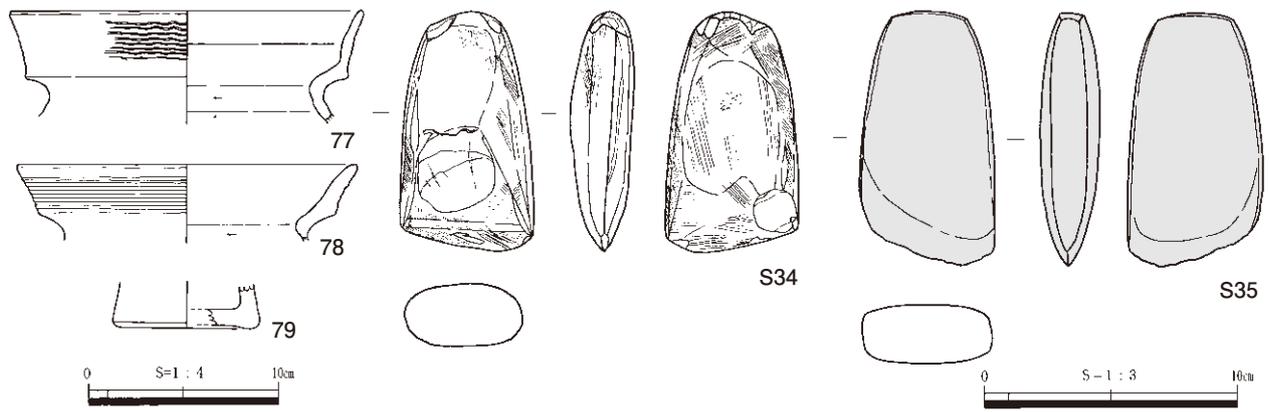
第83図 遺構外出土石器(1)



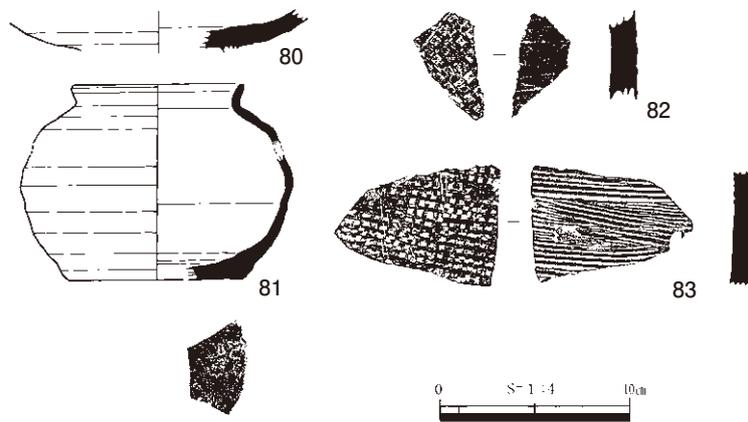
第84図 遺構外出土石器(2)



第85図 遺構外出土石器(3)



第86図 遺構外出土土器・石器(弥生時代)



第87図 遺構外出土土器(中世)

りである。複合口縁部は外反し、外面には数条の波状文が施される。78はやや器壁の厚い複合口縁部の外面に平行多条沈線文が施される。以上は口縁部の形や特徴から弥生時代後期(清水編年V-1期)に位置づけられる。79は壺もしくは甕の底部片で、底部は平底で安定感がある。

S34・35は磨製石斧で、石材はS34が玄武岩、S35が閃緑岩である。

80~83は中世須恵器である。80は高台坏もしくは椀である。81は短頸壺である。焼成は良好でとても硬質で、備前焼の印象を受ける。82・83は甕の体部片で、83は内面にはハケ目調整が施されており、勝間田系の可能性がある。

第5節 出土遺物観察表

表9 出土土器観察表(1)

遺物番号	取上番号	遺構層位地区	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	339	Ⅲ層 E10-NW	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △ 3.65	外面：ポジティブ楕円押型文(原体：長軸5～6mm、短軸3～4mm) 内面：ナデ	やや密(0.5mm以下の砂粒を少量含む)	良好	内外面：明黄褐色	
2	48	I層 F10-SW	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △3.9	外面：爪形文 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	外面：褐色 内面：橙色	
3	48	I層 F11-SW	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △3.6	外面：爪形文 内面：ナデ	密(1mm以下の砂粒を少量含む)	良好	外面：黒褐色 内面：暗褐色	
4	86	I層 D9-NE	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △2.1	外面：捺糸文及び横位の沈線 内面：ナデ	やや密(1～2mmの砂粒を多量に含む)	良好	内外面：明赤褐色	
5	29	I層 D9-NE	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △ 3.65	外面：捺糸文及び横位の沈線 内面：ナデ	やや密(1mm以下の砂粒を多く含む)	やや良	外面：明黄褐色 内面：橙色	
6	530	Ⅱ層 K4-SW	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △3.4	外面：貝殻条痕 内面：ナデ	密(1～3mmの砂粒を少量含む)	良	内外面：明黄褐色	
7	564	Ⅱ層 H5-SW	第58図 PL.37	縄文土器	口径 - 器高 △6.1	外面：捺糸文(0段ℓ燃り) 内面：ナデ	やや密(1mm以下の砂粒を含む)	良	外面：橙色～灰褐色 内面：淡黄色～黄灰色	
8	519	I層 I5-SE	第58図 PL.37	縄文土器 口縁部	口径 - 器高 △4.8	外面：縄文(RL) 内面：ナデ	やや密(0.1～1mmの砂粒を含む)	良	内外面：浅黄色	
9	351	表土下 L7-NE	第58図 PL.37	縄文土器 口縁部	口径 - 器高 △3.8	内外面：ナデ	やや密(1～3mmの砂粒を多く含む)	良	外面：黄褐色～橙色 内面：橙色	
10	18	I層 H6	第58図 PL.37	縄文土器 口縁部	口径 - 器高 △6.0	外面：粗いナデ 内面：ナデ	密(2mm以下の砂粒を少量含む)	良好	内外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色	
11	55	I層 E10-SE	第58図 PL.37	縄文土器 底部	口径 - 器高 △7.2	外面：刻線状の調整痕 内面：ナデ	やや密(2mm以下の砂粒を少量含む)	良	外面：橙色 内面：淡黄色	
12	530	Ⅱ層 K4-SW	第58図 PL.37	縄文土器 底部	口径 - 器高 △1.9 底径 ※7.9	内外面：ナデ	密(2mm以下の砂粒を含む)	良好	外面：淡黄色～橙色 内面：にぶい褐色	
13	15	I層 I9	第58図 PL.37	縄文土器 底部	口径 - 器高 △2.3 底径 ※6.7	内外面：ナデ	やや密(1～2mmの砂粒を含む)	良	外面：黄褐色 内面：浅黄色	
14	96	I層 C10-SW	第67図 PL.44	羽口	長さ 1.6△ 幅 2.4△ 厚さ 1.0△	外面：熱により融解。先端部ガラス質化。 内面：剥離のため調整不明。	やや粗	良	内外面：にぶい黄褐色	
15	36	I層 E10-NE	第67図 PL.42・44	羽口	長さ 8.7△ 幅 8.5△ 厚さ 3.0△	外面：指オサエ。先端部熱により融解。ガラス質化。 内面：髄抜き棒による成形痕。	やや粗	良	内外面：にぶい黄褐色	
16	647	土坑45埋土中 H8	第70図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.5△	外面：底部付近回転ナデ。底部回転糸切り。 内面：底面中心にナデ。	密	良好	内外面：灰オリーブ色	
17	119	I層 E1-SE	第71図 PL.42	土師器 坏	器高 2.8△	内外面：ヨコナデ。	密	良好	内外面：明褐色	内外面赤色塗彩
18	41	I層 F12-SE	第71図 PL.42	土師器 坏	器高 3.1△	内外面：ヨコナデ。	密	良好	内外面：赤褐色	内外面赤色塗彩
19	67	I層 E11-SW	第71図 PL.42	土師器 坏	器高 2.2△	内外面：ヨコナデ。	密	良好	内外面：橙色	内外面赤色塗彩
20	208	I層 C11-SW	第71図 PL.42	土師器 坏	器高 3.2△ 底径 7.6※	外面：風化のため調整不明。 内面：ケズリか	密	良好	外面：明黄褐色 内面：橙色	外面赤色塗彩。内面は風化のため赤色塗彩は不明。
21	420	攪乱 C10-SE	第72図 PL.43	土師器 甕	口径 25.0※ 器高 2.5△	外面：口縁部～頸部回転ナデ。 内面：口縁部回転ナデ。頸部ケズリ	密	良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	外面一部に煤付着。
22	317	I層	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 2.7△	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
23	80 230 48	I層 E10-NE、F10-SE、F10-SW	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 4.4△	内外面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：淡黄色	外面に煤付着。
24	67	I層 E11-SW	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 4.1△	外面：ナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	外面に煤付着。
25	294	攪乱 C10-SE	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 4.1△	内外面：ナデ。	密	良好	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	外面に煤付着。
26	33	表土 D10-NE	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 4.0△	外面：ハケ目後ナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ。	密	良好	外面：明黄褐色～橙色 内面：にぶい黄褐色	外面に煤付着。
27	551	林道部、礫層 G9	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 3.9△	外面：ハケ目後ナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良	内外面：にぶい黄褐色土～橙色	
28	229	I層 F10-SE	第72図 PL.43	土師器 甕	器高 4.8△	内外面：風化のため調整不明。	密	良好	外面：浅黄色 内面：にぶい黄褐色	

第3章 調査の成果

表10 出土土器観察表(2)

遺物番号	取上番号	遺構層位地区	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
29	411	I層 K5-SW	第72図 PL.43	土師器 鍋	器高 7.5△	外面：頸部～胴部指オサエ後口縁部から胴部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄色	外面に煤付着。
30	368	I層 L7-NW	第72図 PL.43	土師器 甕	口径 16.0※ 器高 9.5△	外面：指オサエ後ヨコナデ。 内面：口縁部～胴部指オサエ後ヨコナデ。底部付近ヘラケズリ。	密	良好	外面：暗褐色 内面：明黄褐色	外面に煤付着。
31	27	表土除去後直下 G11-NW	第72図 PL.43	土師器 製塩土器	器高 5.1△	外面：指オサエ。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：橙色	
32	44	I層 F12-NW	第73図 PL.38	須恵器 坏	器高 2.6△	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：橙色 内面：黄褐色	
33	566	II層 K7-SW	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 12.4※ 器高 3.7△	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下 ～底部付近ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面中心 にナデ。	密	良好	内外面：青灰色	
34	365 392	I層 K7-SW、J7-NE	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 12.8※ 器高 3.3△	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下 ～底部付近ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰オリーブ色	
35	566	II層 K7-SW	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 12.9※ 器高 3.4△	内外面：回転ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄色～にぶい 黄褐色 内面：にぶい黄色	
36	365 374	I層 K7-SW、J8-NE	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 13.2※ 器高 3.5△	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下 ～底部付近ナデ。底部回転糸切り 後ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
37	5 35	I層 C10-NW、E11-SE	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 14.7※ 器高 8.8	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄色 ～灰色	
38	143	I層 C11-NE	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 12.6※ 器高 4.0 底径 8.6※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色～浅黄色	
39	357 369	I層 K8-NW	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 13.6※ 器高 4.1 底径 7.8※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰オリーブ色	
40	117	I層 C10-NW	第73図 PL.38	須恵器 坏	器高 2.0※	内外面：回転ナデ。	密	良好	内外面：暗緑灰色	
41	365 392	I層 J7-NE、K7-SW	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 12.2※ 器高 4.2 底径 8.6※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：青灰色	
42	358 365 399	I層 K7-SW、K8-NW	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 12.0※ 器高 4.2 底径 7.8※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：浅黄色～灰色	
43	365 379	I層 K7-SW、K8-SW	第73図 PL.40	須恵器 坏	口径 12.8※ 器高 4.0 底径 9.0	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
44	121 153 639 643	I層 C11-NE I層 D12-NW II層～AT層 C10-SW 表採 D11-NW	第73図 PL.40	須恵器 坏	口径 13.0 器高 4.5 底径 7.4	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
45	645	I層～II層 D12-NE	第73図 PL.38	須恵器 坏	器高 4.3△	内外面：回転ナデ。	密	良好	内外面：青灰色	
46	151	I層 E11-SW	第73図 PL.38 ・38	須恵器 坏	口径 13.0※ 器高 4.2 底径 10.0※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部ロク ロ切り離し(糸切りか)後ナデ 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
47	69	I層 E11-NW	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 12.6※ 器高 4.0 底径 8.6※	外面：口縁部回転ナデ。体部下～底部 付近ナデ。底部ロクロから切り離 し(糸切りか)後工具によるナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底部を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	外面に煤付着。
48	68	I層 E11-NE	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 14.6※ 器高 3.6△	外面：口縁部回転ナデ。体部下～底部 付近ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底部を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	外面に煤付着。
49	70	I層 E11-SE	第73図 PL.38 ・39	須恵器 坏	口径 13.6※ 器高 3.65 底径 9.8※	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り後一部ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底部を中 心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	外面に煤付着。
50	51 207	攪乱 D11-SE I層 D11-NW	第73図 PL.40	須恵器 坏	口径 16.4※ 器高 5.8 底径 8.6	外面：口縁部～体部回転ナデ。体部下 ～底部付近回転ナデ後ナデ。底部 ロクロから切り離し(糸切りか)後 工具によるナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底面を中 心にナデ。	密	良好	内外面：明緑灰色	
51	9	表土除去後直下 C9-SE	第73図 PL.38	須恵器 坏	器高 2.8△	内外面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰白色	

表11 出土土器観察表(3)

遺物番号	取上番号	遺構層位地区	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
52	69	I層 F11-NW	第73図 PL.38	須恵器 坏	口径 15.1※ 器高 3.6△	内外面：回転ナデ。	密	良好	内外面：青灰色	
53	69 70	I層 E11-SE	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 2.0※ 底径 9.6	外面：底部付近回転ナデ。底部回転糸切り。高台接続後ナデ。 内面：底面を中心にナデ。	密	良	外面：灰色～灰オリブ色 内面：灰オリブ色	外面に煤付着。
54	60 80	表土除去後直下 I層 F11-NW、E11-NE	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 5.1△ 底径 11.1※	外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。高台接続後ナデ。 内面：体部回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：青灰色	
55	32	I層 D9-SW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.7△	外面：底部付近回転ナデ。底部回転糸切り後一部ナデ。 内面：体部回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：にぶい褐色	
56	143	I層 C11-NE	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.3△ 底径 8.0※	外面：底部付近ナデ。底部回転糸切り。内面：底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：灰黄色	
57	490	I層 I7-NW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.6△ 底径 8.4※	外面：底部付近ナデ。底部回転糸切り。内面：底面付近回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
58	67	I層 E11-SW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.75△ 底径 8.5※	外面：底部付近ナデ。底部回転糸切り。内面：底面付近回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
59	35	I層 C10-NW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 2.1△ 底径 8.9※	外面：底部付近ナデ。底部回転糸切り後一部ナデ。 内面：底面付近回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
60	2 365	表土除去後直下 I層 K6、 K7-SW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 2.6△ 底径 9.8※	外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り後一部ナデ。 内面：体部回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良好	内外面：灰色	
61	68	I層 E11-NE	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 2.4△ 底径 6.2※	外面：底部付近回転ナデ。底部回転ナデ後一部ナデ。 内面：底面付近回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良	外面：オリブ黄色 内面：灰オリブ色	
62	15	表土除去後直下 F12-NW	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 2.7△ 底径 10.0※	外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面：体部回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	良	内外面：灰オリブ色	
63	9	表土除去後直下 C9-SE	第73図 PL.39	須恵器 坏	器高 1.9△ 底径 9.4※	外面：体部回転ナデ。底部回転糸切り。内面：体部回転ナデ。底面を中心にナデ。	密	やや不良	内外面：淡黄色～明黄褐色	
64	70	I層 E11-SE	第74図 PL.40	須恵器 甕	口径 11.2※ 器高 2.75△	内外面：回転ナデ。	密	良好	内外面：暗緑灰色	
65	221	I層 C12-SE	第74図 PL.40	須恵器 甕	器高 4.0△	外面：口縁部回転ナデ。頸部タタキ後ナデ。肩部格子目タタキ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ。肩部同心円文状当具痕。	密	良好	内外面：赤灰色	
66	216	I層 B10-SE	第74図 PL.40	須恵器 甕	器高 4.5△	外面：平行タタキ。 内面：頸部ナデ。肩部同心円文状当具痕。	密	良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
67	357	I層 K8-NW	第74図 PL.40	須恵器 甕	口径 13.8※ 器高 4.5△	内外面：口縁部～肩部回転ナデ。	密	良好	外面：灰色～オリブ黄色 内面：灰オリブ色	
68	148	I層 E11-NW	第74図 PL.40	須恵器 甕	器高 5.7△	外面：口縁部付近～頸部回転ナデ。肩部格子目タタキ。 内面：口縁部付近～頸部回転ナデ。肩部同心円文状当具痕。	密	良好	内外面：赤灰色	
69	22	I層 E12-SW	第74図 PL.40	須恵器 甕	器高 4.4△	外面：格子目タタキ。 内面：同心円文状当具痕。	密	良好	外面：にぶい橙色 内面：灰色	
70	39 61	I層 F12-SW、F12-NW	第74図 PL.40	須恵器 甕	器高 15.5△	外面：格子目タタキ後水平方向のナデ。 内面：同心円文状当具痕。	密	良好	外面：にぶい橙色～にぶい褐色 内面：褐色	
71	369 379	I層 K8-NW	第74図 PL.40	須恵器 壺/甕	器高 5.25△	内外面：回転ナデ。	密	良好	外面：暗灰色 内面：灰色	外面に自然釉付着。
72	56	I層 K12-NE	第74図 PL.40	須恵器 壺/甕	器高 7.2△	外面：肩部回転ヘラケズリ。体部回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	外面：暗緑灰色 灰色：灰白色	
73	350・ 357・ 365・ 367	I層 K7-SW、K8-NW	第74図 PL.42	須恵器 甕/瓶	器高 14.1△ 最大径 20.0※	外面：肩部回転ナデ、体部～底部平行タタキ後カキ目。 内面：肩部回転ナデ。体部～底部同心円文状当具痕体部上半に回転ナデ。	密	良好	外面：青灰色～灰色 内面：灰色	
74	369	I層 K8-NW	第75図 PL.41	須恵器 甕	口径 10.4※ 器高 10.3△	外面：口縁部～頸部平行タタキ後ナデ。肩部平行タタキ。 内面：口縁部～頸部回転ナデ。肩部同心円文状当具痕。	密	良好	内外面：灰白色	外面に自然釉付着。
75	356・ 367・ 369・ 374 380・ 392	表土下、I層 J8-NE、K8-NW、 J7-NE	第75図 PL.41	須恵器 甕	口径 30.5※ 器高 26.6△	外面：口縁部～頸部回転ナデ。肩部～体部平行タタキ後カキ目。 内面：口縁部回転ナデ。肩部～体部同心円文状当具痕。	密	良好	外面：オリブ灰～灰色 内面：灰色	外面に自然釉付着。
76	13・ 22・ 70・ 77・ 223	表土除去後直下、攪乱、I層 E13-SW、E12-SW、 E11-SE、 F12、E13-NE	第75図 PL.41	須恵器 甕	器高 11.5△	外面：頸部回転ナデ。肩部～体部格子目タタキ。 内面：口縁部回転ナデ。肩部～体部同心円文状当具痕。	密	良好	外面：灰黄色 内面：灰色	

第3章 調査の成果

表12 出土土器観察表(4)

遺物番号	取上番号	遺構層位地区	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
77	145	I層 C10-SE	第86図 PL.43	弥生土器 甕	口径 18.2* 器高 6.0△	外面：口縁部数条の波状文。頸部ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ケズリ後ヨコナデ。	密	良好	内外面：浅黄橙色	
78	283	I層 D13-NW	第86図 PL.43	弥生土器 甕	口径 17.4* 器高 4.0△	外面：口縁部ナデ。7条の平行沈線文。頸部ナデ 内面：口縁部ナデ。頸部ケズリ。	密	良好	内外面：浅黄橙色	
79	148	I層 E11-NE	第86図 PL.43	弥生土器 甕	器高 2.3△ 底径 6.8※	外面：底部ヨコナデ。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄橙色・橙色 内面：浅黄色	
80	255	I層 E8-SW	第86図 PL.43	須恵器 高台坏	器高 2.1△	外面：ナデ。底部付近は回転ナデ。 内面：回転ナデ。底面中心にナデ。	密	良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい褐色	
81	43 44 56	I層 E12-NE、F11-SW、 F12-NW	第86図 PL.43	須恵器 壺	口径 9.0* 器高 11.0△	外面：口縁部～体部回転ナデ。底部回転 糸切り。 内面：口縁部ナデ。頸部～底部回転ナ デ。	密	良好	外面：にぶい黄橙～灰色 内面：にぶい褐色～褐色	
82	79	I層 E12-SW	第86図 PL.43	須恵器 甕	器高 4.8△	外面：格子目タタキ。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
83	226	I層 B10-SW	第86図 PL.43	須恵器 甕	器高 6.3△	外面：格子目タタキ。 内面：ハケ目。	密	良	内外面：灰色	

表13 出土石器観察表(1)

遺物番号	取上番号	遺構地区 層位名	挿図PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S 1	641	土坑1-埋土1層	第13図 PL.37	石鏃	サヌカイト	1.6	1.3	0.3	0.33	凹基式。
S 2	626	土坑2-埋土上層	第16図 PL.37	石鏃	黒曜石	1.8	1.7	0.3	0.44	凹基式。
S 3	608	H7SW-黒褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	1.8	1.4	0.4	0.71	平基式。
S 4	46	E10NW-暗褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	1.1△	1.3△	0.2	0.21△	凹基式。
S 5	370	J8NE-暗褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.33	凹基式。
S 6	4	黒褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	1.8△	1.3△	0.4	0.5△	凹基式。
S 7	419	H8SW-黒褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	2.3	1.6	0.3	0.77	凹基式。
S 8	91	C11NW-暗褐色土B	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	2.35	1.9	0.4	1.13	凹基式。
S 9	434	K6NE-黄褐色土	第59図 PL.37	石鏃	黒曜石	△2.1	△1.8	0.4	△0.88	凹基式。
S 10	33	D10-NE暗褐色土B	第59図 PL.37	石鏃	サヌカイト	2.2	1.6	0.2	1.36	平基式。
S 11	149	B10NE-黒褐色土	第68図 PL.45	砥石	花崗岩	△11.8	9.6	△5.5	△741	砥石残片。被熱により赤変・剥離。構成番号40。
S 12	232	B11NE-黒褐色土	第68図 PL.45	砥石	凝灰岩	△4.8	△4.4	2.9	△105	主な砥面は2面。両端・側面を欠く。構成番号41。
S 13	143	C11NE-黒褐色土	第68図 PL.45	砥石	細粒花崗岩	△6.5	△5.6	△1.8	△45	扁平な砥石残片。表面被熱により剥離。構成番号39。
S 14	421	C10SE	第68図 PL.45	金床石か	角閃石安山岩	△8.3	△13.2	8.2	△729	楕円形状をした金床石の残片か。欠損部を除き全体的に被熱。構成番号44。
S 15	140	C12SE-黒褐色土	第83図 PL.37	ナイフ形石器	玉髓	△3.07	△2.29	0.67	△2.99	後期旧石器ナイフ形石器残片。一側縁に刃部。
S 16	274	D15NW-黒褐色土	第84図 PL.37	削器	サヌカイト	△8.2	3.9	0.8		横長の削器。一方端を欠く。押圧剥離により刃部を形成。
S 17	13	H10-表土	第84図 PL.37	削器	サヌカイト	△7.3	4.8	1.0		横長の削器。両端を欠く。押圧剥離により刃部を形成。背部調整あり。
S 18	256	E10SW-黄褐色土・ 黒褐色土混交	第84図 PL.37	二次加工のある 剥片	黒曜石	4.7	3.5	1.0		調整体を製作中に折損したもの。尖頭器を意図したものか。
S 19	590	K5NW-黄褐色～黒 褐色土	第84図 PL.37	削器	サヌカイト	7.2	3.7	1.0	36	縦長の削器。上面一部を磨く。
S 20	24	H9-褐色土	第84図 PL.37	削器	サヌカイト	6.2	2.7	0.4		縦長の削器。一側縁に刃部。
S 21	448	L5SE-根攪乱	第85図 PL.46	石錘	砂岩	△2.8	△4.8	△1.35	△18.5	打ち欠き石錘の残片。
S 22	612	E8SE-黄褐色土～黒 褐色土	第85図 PL.46	石錘	デイサイト	6.4	△4.45	2.4	81.0	打ち欠き石錘。一部欠損。
S 23	38	F12NE-暗褐色土B	第85図 PL.46	石錘	デイサイト	6.95	5.75	2.15	115.5	ほぼ完形の打ち欠き石錘。一部剥離。
S 24	442	K6SW-根攪乱	第85図 PL.46	石錘	デイサイト	9.6	7.3	2.7	261.0	大型で完形の打ち欠き石錘。
S 25	456	J5NE-暗褐色土	第85図 PL.46	石錘	デイサイト	5.3	4.9	3.9	144.0	完形の有溝石錘。
S 26	582	K5SW-黄褐色土～黒 褐色土	第85図 PL.46	石錘	角閃石安山岩	5.6	4.9	3.7	118.0	完形の有溝石錘。

表14 出土石器観察表(2)

遺物番号	取上番号	遺構地区 層位名	挿図 PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S27	605	K5NE-攪乱土	第85図 PL.46	凹石	デイサイト	7.2	5.9	3.3	206.0	小型の凹石。両面を磨き、敲打による凹面をもつ。
S28	410	K5SE-攪乱	第85図 PL.46	凹石	デイサイト	7.4	6.5	4.35	273.5	小型の凹石。両面に敲打による凹面。
S29	417	L5NW-暗褐色土	第85図 PL.46	凹石(磨製)	デイサイト	10.0	9.2	6.3	793.5	厚手の楕円形を呈す凹石。一方面を磨き、敲打による凹面をもつ。
S30	425-A	K8杭周辺	第85図 PL.46	磨石	デイサイト	9.5	7.0	6.7	615.0	厚手の楕円形を呈す磨石。一方面に磨面をもつ。
S31	428	L4SW	第85図 PL.46	凹石	デイサイト	11.0	8.5	5.1	713.5	やや扁平で楕円形を呈す凹石。両面に敲打による凹面あり。一方端にも敲打面あり。
S32	425	K8杭周辺	第85図 PL.46	凹石(磨石)	デイサイト	11.2	8.9	4.8	699.0	やや扁平で楕円形を呈す凹石。一方面を一部磨き、敲打による凹面をもつ。
S33	561	I10NW-黒褐色土	第85図 PL.46	台石	デイサイト	△13.5	△9.5	4.3	△738.0	扁平で楕円形を呈すと思われる台石残片。両面に磨面あり。
S34	606	D9NE-黄褐色土~黒褐色土	第85図 PL.46	磨製石斧	玄武岩	9.3	5.0	2.5	176.5	やや扁平な磨製石斧。刃部片減りしており、縦斧として使用か。
S35	581	H5SW-黄褐色土	第85図 PL.46	磨製石斧	閃緑岩	10.0	5.3	2.35	224.0	やや扁平な磨製石斧。刃部片減りしており、縦斧として使用か。

表15 出土鉄関連遺物観察表(1)

遺物番号	構成番号	取上番号	挿図 PL	地区名	グリッド	遺構名 層位	遺物名	大きさ	残存度	計測値(mm)			重量 (g)	メタル 硬度	備考
										長さ	幅	厚さ			
F1	⑮	556	第60図 PL.44	C10-NE		掘立柱建物跡1 (P3)埋土5	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	11	18	12	3	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面をわずかに残す極小の椀形鍛冶滓片である。
F2	①	591	第66図 PL.44	C10-SE	f8	焼土1 覆土(C層)	椀形鍛冶滓	小	含鉄	破片	25	25	17	20	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面が残る。2cmほどの厚さで、下手側にむかい厚さが増す。椀形鍛冶滓の縁部か。含鉄部は上面に広がる。
F3	②	112	第66図 PL.44	D10-SW	k6	焼土1 覆土(I層)	椀形鍛冶滓	小	含鉄	破片	36	24	19	30	錆化(△) 側部は全周破面。厚さ2cmほどで、上・下面には酸化土砂が薄くみられる。含鉄部は上部に広がる。
F4	③	183	第66図 PL.44	C10-SE	f8	焼土1 覆土(I層)	椀形鍛冶滓	小	含鉄	1/2	35	55	21	61	H (○) 側部はほぼ全周破面。下手右側部の一部と上・下面が残る。表面は酸化土砂に覆われている。上面はやや窪みがみられ、下面には段がみられ、重層の可能性がある。
F5	④	597	第66図 PL.44	C10-SE		焼土1 褐色土	椀形鍛冶滓	極小		2/3	42	23	15	18	なし 黒色で覆われた極小の椀形鍛冶滓。上面ガラス質滓が広がる。下手側部には1cm程の木炭痕が残る。
F6	⑤	459	第66図 PL.44	C10-SE	g9	焼土1 覆土1	椀形鍛冶滓	極小		破片	14	21	15	4	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面がわずかに残る極小の椀形鍛冶滓片である。
F7	⑥	195	第66図 PL.44	C10-SE	h12	焼土1 覆土(I層)	椀形鍛冶滓	極小		破片	18	22	14	5	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面がわずかに残る極小の椀形鍛冶滓片である。
F8	⑦	258	第66図 PL.44	C10-SE	f13	焼土1 覆土	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	22	26	16	10	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面が残る極小の椀形鍛冶滓片である。上面には酸化土砂と3mmほどの木炭が付着している。
F9	⑧	209	第66図 PL.44	C10-SE	h10	焼土1 覆土(I層)	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	20	25	11	14	錆化(△) 側部は全周破面。上・下面が残る極小の椀形鍛冶滓片である。
F10	⑨	187	第66図 PL.44	C10-SE	f11	焼土1 覆土1	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	48	28	17	41	錆化(△) 上・下面と右側面を残す。表面に付着している酸化土砂の中に、3mm大の木炭がみられる。
F11	⑩	573	第66図 PL.44	C10-SE	e9	焼土1 焼土ブロック、 黒褐色土	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	31	21	20	21	H (○) 下手側部を欠損する。表面は酸化土砂に覆われ、一部錆跡を起こしている。上手側に滓が突出する。
F12	⑪	187	第66図 PL.44	C10-SE	f11	焼土1 覆土	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	30	50	21	25	H (○) 左・右側面を欠損する。上面は中央が大きく窪み、ガラス質化が起こっている。下面は椀形を成し、表面には木炭痕が残る。下手側側面には細く滓が突出する。
F13	⑫	186	第66図 PL.44	C10-SE	f12	焼土1 覆土(I層)	椀形鍛冶滓	極小	含鉄	1/3	29	33	19	32	H (○) 上・下面と上手側部を残す。上面左側には薄く酸化土砂が付着するほか、表面の所々で黒光りがみられる。含鉄部は下面に広がる。
F14	⑬	201	第66図 PL.44	C10-SE	h11	焼土1 覆土(I層)	粘土質 溶解物				18	22	18	8	なし 完形の粘土質溶解物である。表面には細かな気泡の穴がみられ、一部ガラス質化している。
F15	⑭	187	第66図 PL.44	C10-SE	f11	焼土1 覆土	粘土質 溶解物				23	26	15	7	なし 下手側部を欠損した粘土質溶解物である。表面には細かな気泡の穴がみられ、上面はガラス質化している。
F16	⑯	122	第67図 PL.44	D11-SW		攪乱及びI層	流動滓				35	31	23	41	なし 側部は全周破面。上・下面を残す流動滓。表面は薄く酸化土砂に覆われる。
F17	⑰	122	第67図 PL.44	D11-SW		攪乱及びI層	流出溝滓				43	40	2.9	79	なし 側部は全周破面。上・下面を残す流動滓。表面は薄く酸化土砂に覆われる。
F18	⑱	228	第67図 PL.44	E12-SE		I層	椀形鍛冶滓	中	含鉄	1/3	48	67	28	103	H (○) 側部は全周破面。上・下面を残す。含鉄部は上面に広がる。
F19	⑲	84	第67図 PL.44	E9-NW		I層	椀形鍛冶滓	中	含鉄	2/3	54	80	21	162	H (○) 側部はほぼ全周破面。平面楕円形の椀形鍛冶滓である。上面はやや窪み、1cm大の木炭が喰い込む。下面は緩やかな椀形を成す。含鉄部は上面に広がる。

第3章 調査の成果

表16 出土鉄関連遺物察表(2)

遺物番号	構成番号	取上番号	挿図PL.	地区名	グリッド	遺構名層位	遺物名	大きさ	残存度	計測値(mm)			重量(g)	メタル度	備考	
										長さ	幅	厚さ				
F20	㊸	13	第67図 PL.44	E13-SW		表土除去後直下	楕形鍛冶滓	中	含鉄・工具痕付	1/4	52	52	32	110	H(○)	上・下面と下手側部を残す。上面には下手側から中央にかけて工具痕が残る。下面は緩やかな楕形を成す。含鉄部は上面に広がる。
F21	22	36	第67図 PL.44	E10-NE		I層	楕形鍛冶滓	小	含鉄	破片	29	39	28	34	H(○)	側面は全周破面。上・下面を残す。表面は薄い酸化土砂に覆われる。
F22	23	74	第67図 PL.44	F11-SW		I層	楕形鍛冶滓	小	含鉄	破片	27	54	25	55	H(○)	側面は全周破面。上・下面を残す。上面はやや窪みがみられる。下面を中心に酸化土砂の下から錆膨れを起こし黒錆がにじむ。また放射割れを起こしている。
F23	24	36	第67図 PL.44	E10-NE		I層	楕形鍛冶滓	小	含鉄	完形	85	68	35	210	H(○)	小振りの完形楕形鍛冶滓である。表面は薄い酸化土砂に覆われる。上面はやや盛り上がりを見せ、下面は緩やかな楕形を成す。右側部に1cmほど滓が突出する。
F24	21	74	第67図 PL.44	F11-SW		I層	楕形鍛冶滓	中	含鉄	破片	38	49	27.5	64	L(●)	側部は全周破面。上・下面を残す。表面は薄い酸化土砂に覆われる。上面を中心に錆が進行して、放射割れを起こし黒錆がにじむ。放射割れは右手側面から下面まで及ぶ。
F25	25	50	第67図 PL.44	D11-SE		I層	楕形鍛冶滓	極小	含鉄	1/2	43	60	20	67	H(○)	左側部を欠損する。上面は平坦で、下面は凹凸が激しい。滓の大きさた形、破面からおよそ1/2が残存していると推測でき、本来は直径6cmほどの小振りの楕形鍛冶滓と考える。
F26	26	36	第67図 PL.44	E10-NE		I層	楕形鍛冶滓	極小	含鉄	2/3	57	64	28	94	H(○)	側部はほぼ全周破面。下手側の一部と上・下面を残す。上面は平坦で、下面は緩やかな楕形を成す。また、一部錆膨れを起こし表面が剥離している。
F27	27	487	第67図 PL.44	J5-NW		I層	楕形鍛冶滓	極小	含鉄	破片	17	35	14	10	H(○)	左側部を欠損する極小の楕形鍛冶滓片である。表面は酸化土砂で覆われ、その下から錆膨れを起こしている。
14	28	96	第67図 PL.44	C10-SW		I層	羽口			破片	16	24	10	4	なし	先端部破片。先端部熱により融解。滓化発泡。
15	29	36	第67図 PL.44	E10-NE		I層	羽口			破片	87	85	30	175	なし	先端部破片。先端部熱により融解。滓化発泡。
F28	32	208	第67図 PL.44	C11-SW		I層	楕形鍛冶滓	特大	含鉄・重層	完形	144	151	76	2089	M(◎)	完形の特大楕形鍛冶滓である。上面中央はやや窪み、下面は楕形を成す。断面からは、重層が確認できる。
F29	30	296	第67図 PL.44	C13-NE		I層	流出溝滓				74	55	33	192	なし	側部はほぼ全周破面。下手側の一部と上・下面を残す。上面は滓の流れが細かな皺となつて残る。下面は1cm大の白色礫を巻き込みながら固まる。内面は気泡が少なく非常に密で重い。
F30	31	127	第67図 PL.44	C11-NE		I層	流出溝滓				51	98	35	369	なし	側部は全周破面。上・下面を残す。表面には大小の気泡の穴が確認でき、内面にもみられる。
F31	33	155	第67図 PL.44	C11-SW		I層	楕形鍛冶滓	大	含鉄・重層	1/4	69	65	56	200	H(○)	側部は全周破面。上・下面が残る。2cmほどの厚さで、下手側にむかい厚さが増す。楕形鍛冶滓の縁部から、含鉄部は上面に広がる。断面の観察から、中央あたりを境に上部と下部で気泡の入り方や量が異なることから重層と判断できる。
F32	36	267	第67図 PL.44	D12-SW		I層	楕形鍛冶滓	中	含鉄・重層	2/3	66	69	40	186	H(○)	側部はほぼ全周破面。上・下面を残す。上面は盛り上がりを見せ、上手側から右側面にかけて明確な段がみられる。また、断面より、上面と下面で滓の様相が異なることから重層と確認。
F33	35	217	第67図 PL.44	C12-NW		I層	楕形鍛冶滓	中	含鉄	完形	111.5	54.5	15	190	L(●)	平面楕円形の完形楕形鍛冶滓である。上面はやや窪み、下面は平坦気味である。下手を中心に放射割れがみられる。
F34	34	288	第67図 PL.44	C13-NE		I層	楕形鍛冶滓	大	含鉄	2/3	110	86	40	438	M(◎)	左・右側部欠損。ほぼ完形に近い大振りの楕形鍛冶滓である。平面は中央がやや窪み、表面には酸化土砂と、一部ガラス質化した滓がみられる。下面は楕形を成す。
F35	38	244	第67図 PL.44	E13-SE		I層	楕形鍛冶滓	極小	含鉄	2/3	38	42	20	43	H(○)	側面はほぼ全周破面。右側部の一部と上・下面を残す。上面にはガラス質化した滓がみられる。含鉄部は下面に広がる。
F36	37	139	第67図 PL.44	C10-NW		I層	楕形鍛冶滓	小	含鉄	1/2	45	68	30	75	H(○)	側部は左側部を欠損。する。表面は大小の気泡により、凹凸が激しい。気泡は内面にも多くみられ、そのため大きさに比べ軽い。上面には一部ガラス質化した滓がみられる。
F37	42	650	第67図 PL.44	-		-	楕形鍛冶滓	特大	含鉄	1/4	50	81	44	345	L(●)	側部は全周破面。表面は酸化土砂に覆われ、放射割れが激しく全体に広がる。
F38	43	650	第67図 PL.44	-		-	楕形鍛冶滓	大	含鉄	1/2	65	66	40	253	M(◎)	左側部を欠損。表面は酸化土砂に覆われ、所々に錆膨れがみられる。
S11	40	149	第67図 PL.44	B10-NE		I層	砥石				89	116	40	741		上・下手側の側部と下面を欠損する。砥面は左・右側部と上面にみられ、平坦気味になっている。表面は被熱している。石材は花崗岩
S12	41	232	第67図 PL.44	B11-NE		I層	砥石				44	47	29	105		側部3面が破面となった砥石である。砥面は上面と右側面にあり、どちらも平坦になっている。石材は凝灰岩。

表17 出土鉄関連微細遺物集計表(3)

遺物番号	構成番号	取上番号	挿図PL	地区名	グリッド	遺構名層位	遺物名	大きさ	残存度	計測値(mm)			重量(g)	メタル度	備考	
										長さ	幅	厚さ				
S13	39	143	第67図 PL.44	C11-NE		I層	砥石				47	64	15	45		砥石の破片である。上面は被熱している。石材は細粒花崗岩。
S14	44	421	第67図 PL.44	C10-SE		-	金床石				131	83	74	729		側部は全周破面。下面が破面となり、上部の残る金床石と考えられる破片。表面全体が被熱している。石材は角閃石安山岩。

表18 出土鉄関連微細遺物集計表

採取位置	粒状滓(g)			鍛造剥片(g)			粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄(g)				炭化材(g)	土器(g)	砂鉄(g)	その他の微細遺物合計(g)	合計(g)	
	1.5mm未満	1.5mm以上	合計(g)	1.5mm未満	1.5mm以上	合計(g)		磁着有		磁着無							
								1.5mm未満	1.5mm以上	1.5mm未満	1.5mm以上						
a4					0.02	0.02	0.02										
c5				0.01		0.01	0.02									0.08	0.08
c6				<10個>		<10個>	<10個>									0.10	0.10
d5				0.01		0.01	0.01						0.01			0.60	0.61
d6				0.01		0.01	0.01		0.03							0.76	0.79
d7				0.01		0.01	0.01	0.01								0.35	0.36
d8				0.17	0.11	0.28	0.28								1.69	0.01[黒曜石]	1.70
d9	<2個>		<2個>	0.06		0.06	0.06+<2個>		0.02						0.65		0.67
e5	0.05		0.05	0.01		0.01	0.06	0.01				0.03			1.59	0.08[黒曜石]	1.71
e6	<1個>		<1個>	0.22	0.05	0.27	0.27+<1個>		0.02			0.05			6.11		6.18
e7	<2個>		<2個>	0.14	0.02	0.16	0.16+<2個>				0.01	0.03			2.81	0.04[黒曜石]	2.89
e8	0.05+<1個>		0.05+<1個>	0.65	0.04	0.69	0.74+<1個>		0.55		0.06	0.08			6.00	0.01[黒曜石]	6.70
e9	0.01+<2個>	<1個>	0.01+<3個>	0.71		0.71	0.72+<3個>		0.30		0.35	0.04			3.80		4.49
e10	0.01		0.01	0.40	0.87	1.27	1.28				0.15	0.36			2.73	0.01[黒曜石]	3.25
e11		0.01	0.01	0.61		0.61	0.62		0.81		0.09	0.91			2.42		4.23
e12	<1個>		<1個>	0.35		0.35	0.35+<1個>		0.32			0.13			1.50		1.95
f5	0.03		0.03				0.03	0.11	0.04			0.04			2.74	0.02[黒曜石]	2.95
f7				0.08		0.08	0.08		0.03			0.01			2.52		2.56
f8	<2個>		<2個>	0.54		0.54	0.54+<2個>		0.28		0.16	0.06			5.50	0.03[黒曜石]	6.03
f9				0.03		0.03	0.03		1.30		0.60				0.21		2.11
g5				0.06		0.06		0.03							1.87	0.03	1.93
g6	0.02+<1個>		0.02+<1個>	0.22		0.22	0.24+<1個>	0.03	0.14			0.17			7.17		7.51
g7	0.02		0.02	0.36		0.36	0.38		0.10			0.07	0.59		6.79		7.55
g8	<1個>		<1個>	0.33		0.33	0.33+<1個>	0.09	0.46		0.16	0.1			7.33	0.04[黒曜石]	8.18
g9				0.02		0.02	0.02		0.41						0.23		0.64
g10	0.05	0.01	0.06	1.35	0.62	1.97	2.03		0.87		0.44	0.31			8.97	0.03[黒曜石]	10.61
g11		0.09	0.09		0.81	0.81	0.90	0.29			0.76	0.32			1.68		3.05
g12	0.02	0.03	0.05	0.41	0.90	1.31	1.36	0.06			0.23	1.04			2.44	0.03[黒曜石]	3.80
h6								0.01							0.39		0.40
h8	0.02		0.02				0.02	0.53	0.22		0.57	0.26			7.42		9.00
h10	0.03		0.03				0.03	0.26	0.34		0.06	0.08			4.27		4.95
i5								0.04				0.01			1.27		1.32
i6								0.02	0.01			0.02			1.09		1.14
i7								0.07	0.01			0.06			4.46		4.60
i8	0.01		0.01				0.01	0.14	0.07			0.08			3.82		4.11
i9								0.19	0.04						5.25		5.48
i10	0.02		0.02				0.02	0.28	0.26			0.5			5.30		6.34
i11	0.03		0.03		0.03	0.03	0.06	0.09				1.42			1.50		3.01
i12								0.04				1.73	0.34		1.42		3.53
kl11・12	0.01		0.01				0.01	0.10				1.07			2.96	0.06[黒曜石]	4.19
n2								0.09	0.01			0.15			5.16		5.36
n3	<4個>		<4個>				<4個>	0.14				1.8			7.22	0.01[黒曜石]	9.17
n4								0.07	0.01			0.01			5.45	0.01[黒曜石]	5.55
n5	0.04		0.04				0.04	0.13				0.04			5.67		5.84
n15								0.03				0.18			1.15		1.36
n16								0.03	0.01			0.66			0.97		1.67
総計	0.42+<15>	0.14+<1>	0.56+<18>	6.76+<10>	3.47	10.23+<10>	10.79+<28>	2.89	6.66		3.58	11.83	0.93	143.41	0.41		180.5+<28>

焼土分布範囲		暗褐色土層		西側斜面部黒褐色土層		不明
楕円錐治滓 (小・含鉄)	楕円錐治滓 (極小・含鉄)	楕円錐治滓 (極小・含鉄)	楕円錐治滓 (中・含鉄)	楕円錐治滓 (大・含鉄)	楕円錐治滓 (極小・含鉄)	楕円錐治滓 (特大・含鉄)
銹化 (△)	銹化 (△)	H (○)	L (●)	M (◎)	銹化 (△)	L (●)
F 2 ①	F 7 ⑥	F 16 ⑬	F 24 ⑮	F 29 ⑳	F 34 ㉔	F 37 ㉔
F 3 ②	F 8 ⑦	粘土質溶解物	楕円錐治滓 (小・含鉄)	F 26 ㉒	L (●)	F 38 ㉔
H (○)	楕円錐治滓 (中・含鉄)	H (○)	H (○)	F 30 ㉓	楕円錐治滓 (大・含鉄)	楕円錐治滓 (大・含鉄)
F 4 ③	F 9 ⑧	H (○)	F 21 ㉒	楕円錐治滓 (特大・含鉄) 重層	F 33 ㉓	M (◎)
楕円錐治滓 (極小)	F 10 ⑨	F 18 ⑱	F 22 ㉓	M (◎)	楕円錐治滓 (中・含鉄) 重層	S 13 ㉓
F 5 ④	H (○)	F 19 ⑲	F 23 ㉔	楕円錐治滓 (大・含鉄) 重層	H (○)	F 38 ㉔
楕円錐治滓 (極小・含鉄)	掘立柱建物跡 1	楕円錐治滓 (中・含鉄・工具痕付)	楕円錐治滓 (極小・含鉄)	H (○)	楕円錐治滓 (小・含鉄) 重層	被熱石
銹化 (△)	銹化 (△)	H (○)	H (○)	H (○)	H (○)	砥石
F 6 ⑤	F 11 ⑩	F 20 ㉒	F 25 ㉒	F 28 ㉔	F 36 ㉔	S 11 ㉔
	F 12 ⑪	F 17 ⑰	F 15 ⑭	羽口 (先端部)	H (○)	S 12 ㉔
		楕円錐治滓 (極小・含鉄)	羽口 (先端部~体部)	羽口 (先端部)	F 31 ㉓	S 14 ㉔
		F 1 ⑰	F 14 ⑬	F 14 ⑬		
			F 13 ⑫	F 27 ㉒		
			F 12 ⑪	14 ㉒		
			F 11 ⑩	15 ㉒		
			F 10 ⑨			
			F 9 ⑧			
			F 8 ⑦			
			F 7 ⑥			
			F 6 ⑤			
			F 5 ④			
			F 4 ③			
			F 3 ②			
			F 2 ①			

※ 表列図右下の文字は上段が報告書番号、下段○数字が構成番号を示す。縮尺は不統一。

第88図 鉄関連遺物構成図